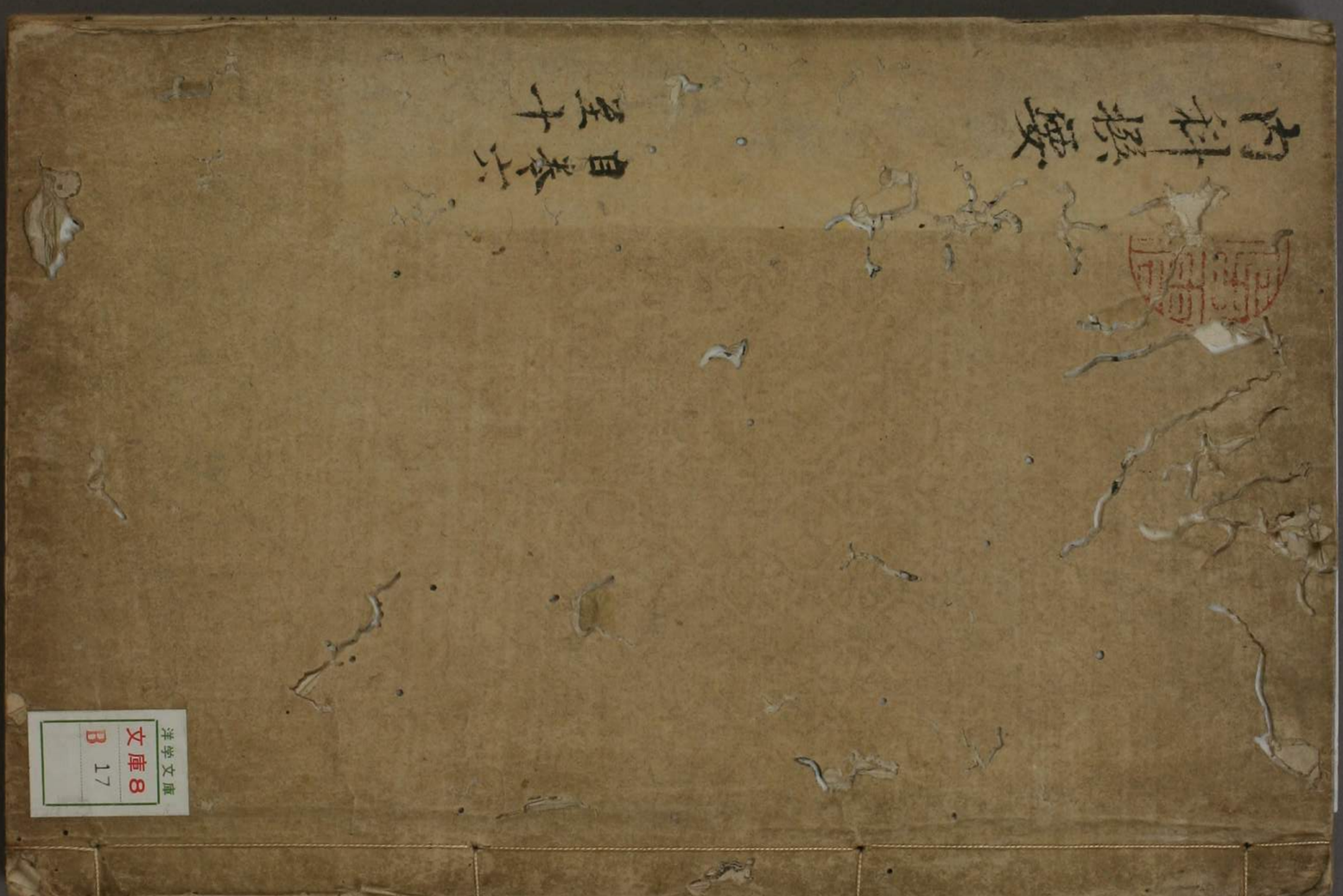


洋学文庫
文庫8
B 17

西說內科撰要卷六

遠西
日本 津山 宇田川玄隨 譯
醫官法眼 桂川甫周國瑞 閱
玉函涅斯垤我爾德兒 著

病屬頭腦

昏睡病篇第十三

昏睡病ノ起ル所ノ原(カルク)因ハ。未ダ詳ナラズ。然レドモ。其用ヲ相為シ。生人平安ノ體ノ。必ス須ツ所ニシテ。生命ノ無ハアルヘカラサル一大緊要ノ事ナリ。二ノ者人ヨリ求テ致スニ非ス。天性自然ノ

39-8056

遠西

玉函涅斯垤我爾德兒著
日本 津山 宇田川玄隨晉 譯
醫官法眼 桂川甫周國瑞 閱

昏睡病篇第十三

維廼(テン)ニ所謂卒剥兒(ポー)ハコヽニ翻シテ私鬱布(アプ)須突(シヨク)昏冒(ボー)ノ劒睡ノ義ナリ詳ニス夫レ寢息ト與寤トハ東西病考ニ馬ト云(カク)

更其用ヲ相為シ。生人平安ノ體ノ。必ス須ツ所ニシテ。生命ノ無ハアルヘカラサル一大緊要ノ事ナリ。二ノ者人ヨリ求テ致スニ非ス。天性自然ノ

89-8056

安排ニシテ。強テ違フヘカラサル通欲トナリ。興
寤ヘキノ時ニ當テハ。睡ルコトヲ欲セス。睡ルコ
トヲ要スルノ時ニ臨テハ。寤ルコトヲ欲セサル
ナリ。大抵其寤ルコトヲ定期有テ。其間心意ノ發シ
身體ノ運用シテ。以テ寢息ノ期ニ至リ。其寢息ス
ルコト。亦定リタル節限有テ興寤ノ期ニ至リ。二
ノ者一方ニ偏ナル甚シキ修短アラサル者ナリ。
是故ニ寤ヘキニ寤ノ。睡ルヘキニ睡リ。寤寐必ス
相變遞シテ滯ナキ者ハ。身體康健ノ緒ヲ生スル
所ナリ。○然ルニ生平定リタル期節ニ興寤スト
雖モ。晝間神思聰慧ニシテ衆務ヲ修理スヘキノ
時ニ當テ。睡ノ欲スルコト甚クシテ遂ニ睡臥ス
ルニ至リ。或ハ又平全無病ノ人。常トシテ興寤ス
ルノ期ニ。尚睡臥シテ寤サルノ。記アリ。此全ク平
安ナルノ候ニ非スト雖モ。之ヲ起ストキハ輒チ
應心シテ寤ノ。又之ニ命シテ臥スコト勿ラシムレ
ハ。則チ能ク勉強シテ以テ睡サルコトヲ得テ其
時ヲ經ルナリ。此即チ本篇論スル所ノ病ノ最モ
輕キ者ニテ。是ヲ私寤百刻ト云。嗜眠ノ證ヲ云
其重キ者ニ至テハ。即是本篇主トシテ論スル所
ノ病。夫シテ醒寤セシメント要スレトモ。容易
ニ覺シムヘカラス。偶爾ノ醒寤スルコトヲ得ル

カトスレハ。隨テ輒チ復タ睡ル。此ヲ名テ昏睡病ト名ルナリ。此其睡ルコトノ深シテ且久キハ。元來不平ノ病原有テ。夫ヨリシテ發シ來ルノ記ナリト知ヘシ。

右第八十二章。昏睡病ノ大較ヲ論ス。

凡ソ平常ノ睡寐ハ。是神思ヲ休息セシムルノ致ス所ニシテ。精神思欲是ニ因テ以テ十分ニ寢息スルカ故ニ。寢息ノ間ハ。外ニ應スルノ思欲。色聲香味等ノ如キニ觸ルヽコト無シ。又其內ニ存スル生平知識シタル凡百ノコトモ。思念スルコト無キナリ。○偶爾ク多勞紛擾展轉反側ナトアル時ハ。睡眠十分ニ其常ニ從テ饜足スルコト能ハス。精神コレカ為ニ息スルコトヲ得ス。見ツヘシ睡ハ是レ神息ノ必ス須ツ所ナルコトヲ。○自餘睡中ト雖モナヲ休息セサル者ハ。心藏ノ運動。脈行ノ循環ナラヒニ夫ノ各自政ヲ異ニスル。氣息ノ吐納。膓胃ノ化熟。腎胞ノ滲蓄等ナリ。是ラ皆晝夜シ捨ス。息止スルノ期ナシ。○是ニ由テ之ヲ觀レハ。精神思欲ノ運動ハ。是レ睡中ニ於テ休息シ。其他ノ諸物ハ。生ヨリ沒スルニ至ルマテ。終古其官能ノ間隙ナキコトヲ知ル。○其寤寐ノ為スコトアルノ主ルノ一器ニ。障礙アルノ

昏睡

一ニ白羅尓的ト名ク私蒐布此ニ睡ト翻シ亂ト翻ス

ノ原

多少ニ因テ。許多ノ疾患ヲ生ジテ異ナラシムルト。其他各異ノ諸因ニテ。其官能ヲ障礙スルニ因テ諸症ヲ發スルト。悦者ヲシテ名物混淆シ紛擾ニシテ治ト辨別ヲ為カタキニ至ラシム。○メトハ若シ私蒐布須寧篤ノ末ルコト暴卒ニシテ醒寤スベカラサルヲ。即卒中之ヲ。私蒐布病ト謂フ。○昏睡ハ。睡ノ重キヲ過

致ス所ナリ。○予其名目毎ニ。悉クコレニ充ルニ
濕特兒獨逸都即和蘭ノ言シ以テスルコトシ知
ル。然トモ其譯名的切ナラス。齟齬出入アリテ相
對スヘカラサルニ因テ。○依違シテ始置ノミ○○○療
術ニ從事スル者ニ於テハ。只其各自ノ原由ノ。是
和蘭布須窟篤ノ發スル所以シノミ專一ニ蹤
跡シテ。以テ夫ノ治法シ處置スルシ宜トスレ
ハ。其所ニ到テハ徒ニ忽ニシ過ルコトシ為スヘ
カラサルナリ。何トナレハ。右ノ名稱トキ。虚々ト
シテ稱擧スヘキカ如キニ似タレトモ。其実ハ疾
ノ治スルニ益ナシ。但其諸証ノ原由シ求レハ。皆

昏睡

此ノ和蘭布須窟篤ノ原ヨリシテ將出シ來ル者
甚多トスルノシ。

右第八十三章昏睡病ノ分別シ論ス。

凡ソ興窮シテ精神外物ト相接リ相持スルノ間
ハ。必ス幾多ノ精氣度ニ適シテ腦中ヨリ揮發シ
テ。諸器ニ散布スルコトシ須テ。然シテ後能クス
ル者ナリ。是シ以テ諸ノ原由。其精氣ノ常シ奪失
シテ變易セシメ。或ハ凝止シテ行カス。或ハ腦中
ニ於テ精氣ノ散布シ壓定シテ達セシメサルガ
如キ者。即チ此ノ疾ヲ將出シ來ルナリ。○此ノ疾
シ發スルノ諸因。甚多シテ枚擧ニ暇アラス。故ニ

其尤彰著ナル諸証ヲ挙テ。附スルニ各種ノ諸徴候。ナラヒニ治法ヲ以テスルノミ。

右第八十四章昏睡痼病ノ原因ヲ論ス。

居常ニ出血ノ患アル人。日ヲ累ネ月ヲ経テ其間過止シテ外泄セサルノ後。或ハ影ノ飲食ヲ為シ。動作運行スルコト稀ナルガ。今ニシテ俄ニ非常ノ労動ヲ作シ。又ハ奮迅発怒スルコト有テ。夫ヨリシテ倏忽トシテ外ニ応スルノ精神。ナラヒニ内ニ記念スル所ノ意識ヨリ。身體ノ運動。諸竅ノ営為ニ至ルマテ。悉皆廃絶シ。審ノ得テ只是ノ顔面貴盈シテ赤色ヲ発シ。其脉剛盛ニシテ實。其呼吸深ノ鼾息スルコトヲ為ハ。知ヌヘシ是レ血ノ過多ニシテ。腦ヲ壓塞スルガ致ス所ナルコトヲ。此証ニ値コトニ。人ヲシテ呼テ白羅勉的（即チ前章ニ所謂私乾布痛ニシテ。昏冒不省人事ノ証。是ナリ。）卒中トス。治法空ク先ツ第一ニ刺絡シテ其多キ支ノ空キ部ニ於テ瀉血スヘシ。若シ一頓ニシテ足ラサルトキハ。復再ヒ瀉血スヘシ。随テ醋アルヒハ冷水ヲ以テ其面ニ噴キ。患者シテ微ノ首ヲ高シテ臥シメ。吉利訶參（即チ導十二章ニ出ツ）ヲ施シテ。其便利ヲ導クヘシ。

吉利訶參兒方

旃那葉　六銭

硝石　二錢
蜜　八錢

右件合シテ。コレヲ煮ルニ百二十八錢ノ水ヲ以テシ。九十六錢ノ多ヲ取テ。溫ニシテ。水銃シ用テ注射スヘシ。此一劑須ク暫時ニ悉ク是ヲ用ヒ盡スヘキナリ。

右ノ如クニシテ患人醒復セハ。宜ク第十二章ニ記スル所ノ下劑ヲ用テ次ニ施シ。是ヲ以テ再ヒ瀉血スルノ擧ニ代フヘキナリ。

右第八十五章。昏睡病ノ血ノ過多ニ因ル證治ノ論ス。

昏睡

發ニ血ノ騷擾シテ頭腦ニ上迸スルヨリシテ發スル一箇ノ私竇（スキマ）有須窟（ヒマ）篤アリ。其人素ト瞥雷セル發熱ニ罹リ。頭部大ニ熱スルコト他ノ部ヨリ甚シク。又頭部ノ動脉尽ク鼓動スルコト。他ノ部ニ比スルニ大ニ甚シ。時々自ラ發多ノ小星點ノ眼中ヨリ飛迸シ。又數條ノ赤蛇光芒。散亂シテ眼中ヨリ閃發スルカ如クナルヲ見ルコトアリ。且耳中頻ニ嘯吹蟬鳴ヲ聞キ。顏面責盈シテ赤色ヲ發スルノ症ニ値ハ。則チ知ヘシ是レ頭部ニ血ヲ送ルノ動脉。其運動ノ增盛スルコト。自餘ヨリ甚キノ徴ナルコトヲ。○右ノ症ニシテ其始テ睡

窮シ為スコト多シ。平常ニ異ナルノ候アルニ
値ハ、。直ニ輒チ其將ニ私竊布須臾（キノウ）ニ至ニト
スルコトヲ恐ルヘシ。之ヲ療スルノ法。一ニ前章
ノ血ノ過多ヨリ發スルノ治ト同ク從事スヘシ。
只是其熱譫語セル一症ノ存スルカ為ニ。隨テ即
チ第十二章ニ論スル。運動大過ノ熱病ニ用ル所
ノ藥ヲ用ヘキナリ。

右第八十六章。昏睡病ノ血ノ頭腦ニ上逆ス
ルニ因ル。ヲ證治論ス。

第八十七章。昏睡病ノ粘稠液ノ鼻名枳枳
（ヒキ）ニ注テ疾中ニ入ル。ヲ治ス。

按ニ粘稠液ト澤スル所ノ是ヲ粘稠液ト澤スル所ノ
ヤリ。涕液ト澤スル所アリ。涕ト澤スル所アリ。即
チ委ニ出ル所ノ如キ。偶漢人ノ所謂気血痰。ナル
ニ

ナル故ニ。文ニ從テ酷ト澤スルノ病者ニ論ス。
重キ病ト澤スルノ誤ニ詮ニ。

燻毒ノ混ニ。隱伏シテ在ルニ非ル。ヨリハ。疾小カ
リト言フニ及ハス。疾ノ（更ニ）窠ト與ニ相搏ト雖モ。其
所在ノ運動シテ滅少セシムルコトハ。未タ嘗テヨリアラサル。ナリト知ヘシ。○人アリ若シ先
時已ニ頭ニ白色ニシテ柔輭ナル微腫アリ。其部
冷テ重キコトヲ覺ヘ。頑麻スルコトヲ患ヒ。自後
漸々ニ窮ンコトヲ思ヒ眠コトヲ嗜ムノ証始リ
タラハ。當ニ恐レ戒ムヘシ此ノ証。尋テ増劇シテ。
熟ナクシテ私竊（ヒソカ）布須臾（キノウ）ニ至リ易シ。或ハ
又俄ニシテ白羅爾的（ベルテ）ノ昏睡ニ至リ易シ。或ハ
則チ冒不省人事ノ病。卒中ノ証ニ陥

ルコト甚タ速ナル者ナリ。○其時ニ臨テハ。是シ醒窮スルヲ以テ極テ。甚タ緊要ナリトス。或ハ人聲物響ヲ以テ喚復挽回シ。或ハ。刺戟抵觸ヲ以テ警發省覺シ。或ハ香竄揮發ノ藥品ヲ以テ。鼻中ニ納ルヘシ。即チ硇砂精。若クハ乾。白揮發。散鹽ヲ用ユヘキナリ。乾小猶俗諺ニ用ル所ノ乾白ノ如シ。真ニ非ルノ義。又贋ノ字ノ意アリ。其人巧ニ成ル。散鹽ナルヲ以テ名ク。散鹽ハ。鄙俚ニシテ得テ出ルヲ。蚺蛇。蚺蛇ノ類ヨリ出ルヲ。或ハ血尿ノ中。胞衣頭腦ノ中等。或ハ象牙鹿角。及ヒ天靈蓋等ヨリ之ヲ取ルナリ。

乾散鹽ヲ造ル方

硇砂

生石灰

蝋蛄石　各二錢

右件各別ニ細末ト為シ。合シテ硝子ニ入レ。之ヲ振動シテ。中ニ於テ相ヒ混和セシムル時ハ。悍烈ナル香氣ヲ發スルナリ。其時コレニ加ルニ羅思馬里奴謨ノ油。若クハ刺賢需辣ノ油。若クハ橙皮油數滴ヲ以テシテ。以テ其蕈氣ヲシテ。鼻孔ニ當ヘシムヘシ。

患者若シ都テ能ク醒覺スルニ至ルトモ。尚空ク其嚏劑ヲ反覆シテ用ルヲ。妙トス。以テ腦中諸部

粘稠液

シテ。其運動ヲ增發セシメ。是ニ由テ以テ其痰ヲ解散稀豁スルナリ。○尋テ善証ノ出来リ。故ニ復スルニ至ラシムルノ樞的ト。スル所ハ。箇ノ發泄ノ術ヲ行フヘシ。即チ誘嚏藥ヲ用テ。嚏ヲ發セシムルナリ。

誘嚏藥ノ方

薄荷葉
茉莉刺那葉
藿香葉　各一錢
霸王鞭　六分錢之一

右件散剤ト作シ。少許ヲ用テ鼻中ニ納ル。若シ未タ十分ニ驗アラスハ。乃チ空ノ霸王鞭ヲ增益スヘシ。

又空ノ其項ニ貼スルニ斑蝥ヲ以テスヘシ。是ヲ發疱術ト云。藥物ノ外貼シテ。水泡ヲ發シ。又ハ赤色ヲ作ノ術種々アリ。寶函ニ詳ナリ。

發疱術ノ方

斑蝥　適宜

右件細末ト為シ。何ニテモ粘膠セル液ヲ用テ泥ト為シ。大サ錢大ノ如クニシテ是ヲ貼ス。其間須ク下劑ヲ用テ其大便ヲ利スヘシ。此其頭中ノ痛ヲ降下スルカ為ナリ。其方第八十一章ニ出ツ。又且ツ諸般ノ疏緩鬆解スルノ藥劑ヲ用ヒ

粘稠液

錢大

ヘシ

粘稠液

粘稠液ノ条

ソテ其痰ノ稀薄ニシテ瀉除スヘカラサルカ為ナリ。其治方ハ是ノ上ノ水腫篇第八十一章ニ於テ悉示ス。

右第八十七章ニ昏睡病ノ痰塞ニ因ル。ノ証ノ論ス。

（此章ノ未ニ出ス）

不寐篇第十四

不寐ノ証。羅甸コレヲヨシ過厄栗布尼亜ト謂フ。寝息スルコトノ脱失セルノ俱ニ期節アルコト。平全無病ノ人ニ於テハ。各自ノ恒習アリテ。一歴ニ堅ニ優ナル定限アルコトヲ得ス。其體ノ常ヲ失ヒ。其平全ヨリ虧損スル所生シテヨリ已後。或ハ寝息スルコト興寤ヨリ過度ニ。或ハ興寤常習ノ越テ。寝息スルコト少キノ変ヲ発スルニ至テ。然シテ後得テ言ヘキノミ。是故ニ従ヘ人寝息ノ間ニ平常ヨリ缺ルコト有ト雖モ大甚ナラス。或ハ動静去為タメニスルコトアル

カ故ニ。寢息ヲ妨奪スル者ニ至テハ。輒チ名テ不寐ノ証トハ言サル。只是其予常ニ比シテ大ニ異ナルモノ。及ヒ内ニ患害アルニ因テ是ニ關係シテ發シ来ル者ニ至テ。則チ始テ是ニ蒙ラシムルニ本篇ノ病名ヲ以テスヘキノミ。（）

右第八十八章。不寐ノ大較ヲ論ス。

抑モ。諸般ノ心意ヲ勞動スルノコト。精神ヲ究メ竭シ思慮ヲ運營スルノコト。身體ヲ使役スルノコト。疼痛スル所アル。熱飲ヲ用ルコトアル。自餘カクノ如キノ類。皆能睡寐ヲ驅除スルノ原由トナルナリ。〇然ト雖モ其不寐ノ原由。明白ニ知レタル者ヨリ。故ニ睡ヲ驅除シタル者ヲ。彼ヨリ睡寐ノ催サヽルニハ非スシテ。外ヨリ故ニ取リ除ルコト故。斯ノ如クニ、シテ寐ルコトノ少キニ至テハ。例シテ不寐ノ外因ヲ論ス。

・右第八十九章。不寐ノ外因ヲ論ス。

予輩諸明シテ其不寐ヲ為ノ原由ヲ得タルコトアリ。決シテ其遣ハサルコトヲ知ル。此其内因ハ。皆是血中ニ水ガチナル。稀淡ノ物加ハリ。又ハ腦中ニ刺戟スルモノ有ニ因テ。睡ヲ為スニ必ス須ツ所ノ。腦中ヨリ灌注スル精氣ノ潮盈シテ。自由ニ度ニ適ヒ節ニ中ルコトヲ得サラシムルカ

故ニ。不寐ノ証ヲ發スルヲ為ス所ノ病原。疼痛煩悶及ヒ呼吸ノ障礙スル等ノ外ハ。其因皆内原是ヲ諸液ノ稀涼ニナリタルニ得ルナリ。即チ其性。兇悪ナルノ諸病。並ニ膿汁ニ於テ殊ニカ如クナル所ヨリシテ發スルナリ。又ハ右等ノ物ノ酷厲ナルカ。其腦中ヲ攪擾スルニ因ルナリ。即チ彌延セル長病ノ。性ヨリシテ變壞セル稀涼液ニ進ミ變シタル者ノ如シ。詮ニ上ノ第二十三章ニ於テ之ヲ說キヌ。又ハ腦ノ諸管ノ運動大過ナルニ因ル。是ヲ終件トス。即チ許多ノ諸熱ニ於ルカ如キ是ナリ。此皆不寐ヲ為ス

ノ内因ナリ。

右第九十章。不寐ノ内因ヲ論ス。

人ノ與寤シテ。凡百ノ事為言動ヲ作シ。視聽謀慮ヲ運用スルノ際ハ。幾多ノ精氣ヲ敝盡スル者ナリト知ヘシ。然トモ其敝盡スルノ跡。未タ曾テ見レサル者ハ。體中。諸藏ノ官能常ニ休息セスシテ。夫ヨリシテ新ナル精氣ヲ製造シテ。能ク腦中ヘ上輸スルカ故ナリ。是故ニ睡寐ノ精氣ヲ養フニ於ル。最其須ツヘキコロ。精氣ノ銷耗ヲ紓メ息シテ。新造ノ相ヒ承繼スルヲ待テ。陳新相代リ。損益相償ヒ。缺乏ノ患ナカラシムル所以ノ者ナリ。然ラ

ハ則チ不寐ノ証ノ人身虚弱スルノ原ナルコト。復思惟ニモ及ヘス。病原ヲ他ニホルコトヲ假ラスレテ。諸ヲ斯ニ知ルノミ。○唯是レ吾輩ノ不寐ヲ發スルノ諸因ノ歷擧シテ。爰ニ意ヲ致ス所以ノ者ハ。病ニ臨ムノ工ヲシテ。證ヲ認テ以テ其原ヲシ知ルノミナラス。因テ以テ據按シテ。適當ノ治術ヲ施設セシメンコトヲ要スルカ爲ノミ。

右第九十一章。餘義ヲ申明ス。

寢息スヘキノ期ニ當テ寢息セサルコト。其爲ニスル所アリテ。求テ爲ス者ニ至テハ。治法ノ與ルニ非ス。○若シ其証ノ心意ヲ勞動シタルヨリ發リタル者ハ。是ヲ治スルニ只其勞心焦思ノ事ヲ爲シ靜定シ。以テ其心意ヲ動シ擾ラシムルコトヲ十ク催瞳藥少許ヲ用テ。以テ其久ク睡ラスシテ。精力愈ヽ銷耗衰微スルヲ禦クヘキナリ。○其不寐ノ來ル。氣息通シ難キニ苦ムコト。例スルニ胷中水氣有テ充塞スルノ証ニシテ。患人唯其思欲ニ隨フノ運動ヲ以テ。自ラ營救シテ然後ニ呼吸ヲ爲スコトヲ得ルニ頼テ。僅ニ閉塞ヲ免ルヽニ出ルニ至テハ。則チ催瞳藥ニ以テ其死ヲ致スニ足ルノミ。此其人特ニ思欲ニ隨フ運動ニノミ依頼テ呼吸ヲ爲シ。以テ死セサルコトヲ得ルニ。

其藥却テ依賴トコロノ運動ヲ靜息スレハ。呼吸モ亦隨テ閉塞セントスルカ故ナリト知ヘシ。第百五十八章併考スヘシ。○然トモ其發スルコト。曷郎布的列金倔第百十三章ニ詳ナリ運動ヨリシテ來ル喘急ニ於テ毎々發現スルカ如キハ。第百六十章則チ催睡藥ヲ用テ甚タ利アリトス。此其攣急牽掣ノ運動ヲ併テ。俱ニ是ヲ緩解スルカ故ナリト知ルヘシ。

○若シ聖京健ヲ患ル人証候第三十七章ニ詳ナリ有テ。其中稀涼ナル性ヨリノ腐壞液アラハ。ニト察スルノ証ニシテ。是ノ不寧ノ見ハル、ハ。乃チ宜ク催睡藥ヲ用ルコト。其服度ヲ小ニシテ。數度ニ分チ服セシムヘシ。夫ニテ全ク寧ルコトヲ得サルノ患ナカラシムヘシ。即チ半時又ハ一時毎ニ。桂枝水若クハ。酒少許ヲ用テ。白蜜粟ノ舍利別ヲ一匙ツヽ飲服スルヲ妙トス。桂枝水。製法遠西名物考ニ出ス。白蜜粟舍利別。製法第五十三章ニ見ヘタリ。匙ハ容量。第十三章ニ見ヘタリ。或ハ右等ノ液若クハ自餘強壯ナラシムルノ劑ヲ用テ。牢達扭謨律規需謨三四滴許ヲ服スヘキナリ。其強壯ナラシムル謨三四滴許ヲ服スヘキナリ。其強壯ナラシムルノ劑。第二十六章ニ出タリ。○爰ニ多ク火功ヲ盡スト雖モ。サシテ其益ナキハ。人ノ是ノ牢達扭謨律規需謨ヲ製スルナリ。何ヲ以テ之ヲ言ハヽ。其方中泊夫藍ナラヒニ葛私多咒謨葛私多咒謨生スル所ニノ

面 辣ノ腫瘍ノ前面 則チ頭腦及ヒ陰處ニ近ノ 蹼

猶麝ノ香アルカ如シ。大約大サ雞子ノ如ク。外殼色ニシテ。内桂皮色ノ如シ。味ヒ。其氣酷烈ナリ。頭ノ諸病。神経ノ諸病。中風卒倒。昏冒。癲癇。暴聾頭旋。眩暈。腹痛。子宮ノ諸患。月経不利。産後瘀血等ヲ主治ス。其獸ノ形狀前ハ獸ニシテ。後ハ魚ナリ。四足アリ。短シテ狸ノ如シ。水陸共ニ居ル。若シ獵夫ニ逐窘セラル、時ハ。自斃テ其胞ヲ剔棄テ。以テ其身ヲ免ル。其胞。體後陰ニ近キ部ニ在テ。股間ニ垂ルト云。詳ニ醫學寶鑑。及ヒ諸書ニ載スル所ト雖モ。多クハ遠西名物考ニ畧引ス。考ヘシ。是ヲ用ユト雖モ。多量甚鮮少ニシテ。氣味モ亦アルニ足ラス。用サルニ齊シ。且入ルヽ所ノ酒。尤腐壞シ易シ。故ニ今茲ニ其製造簡易ニシテ。効驗アルノ一方ヲ示ス。

牢達扭謨律規需謨ヲ製スル方

純粹ナル阿芙蓉一味ヲ取テ。本藥八倍ノ燒酒

洋 第百十三章ニ詳ナリ 血

ヲ用テ。コレヲ洋解シテ藥氣ヲシテ融液セシメ。用ルニ聽ス。其服度僅ニ八滴。ハカリニシテ。其力殆ト阿芙蓉厄列(アヘン)應六十分錢之一十(グレイン)リ。即一釐六毫六忽ニ當ル。シ用ユルニ抵當ルナリ。

元猛熱病ヲ患ルニ於テ不寐ノ証ヲ發シ。必ス副レテ其頭疼痛ヲ鼓動スルコト有(ラ)ヘシ。是其血騷擾スルコト過多ニシテ腦ニ衝(ヲ)スルヨリ(ルニ)シテ此ノ不寐ヲ發スト云コトヲ。是ノ証ヲ見ハ。須ク其將ニ譫言妄語ヲ發シ。或ハ蘇對(ペン)瘋(ヒ)ノ所謂牆壁(ヒ)抽掣(ヒ)。拘痛(ヒ)。急攻(ヒ)。張痙(ヒ)。直視(ヒ)。上竄(ヒ)等ノ諸証(ヒ)。是ナリ。痛考ニ論ス。ヲ見ハスニ至ントスル(コトヲ)恐ルヘキナリ。若シ幸ニ自然ト龜

血ヲ催スコト有テ。夫ニ因テ将ニ來ントスルノ諸患ヲ障ヘ止ルトキハ。則チ後証ノ發スルコトナキナリ。○其治法如何ヵ從事スヘキトナラハ。斯ノ如キ不寐ノ証ニ臨テハ。須ク瀉血ノ法ヲ施ヒ。而シテ第十二章ニ載ル。運動大過ノ熱病ニ用ルノ剤ヲ與フヘキナリ。○サテ其証同クシテ治大ニ異ナルモノハ。爰ニ論スル所ノ不寐ノ証ト。痘家ノ膿ヲ成スノ始ニ至テ。新ニ發熱シテ催ス所ノ不寐ノ証トナレハ。痘家膿ヲ成スノ始ニシテ催ス所ノ不寐ノ証ヲ。復爰ニ論スル所ノ証。及ヒ運動大過ノ熱病ノ証ヲ治スルカ如ク從事スルコトヲ遅クセス。只宜ク上ニ説與スル所ノ如ク。催瞑藥ヲ用テ其瞑ヲ起スヘキノミナレハナリ。

右第九十二章。不寐ノ治法ヲ論ス。

卒厥篇第十五

卒厥ノ病。羅甸ニテ設印哥百ト謂フ。其証ノ大較ヲ陳スルニ。若シ人偶其修忽トシテ意ノ趣キ為ント欲スル一ニ運動スルノ機括ヲ失ヒ。並ニ内ニ存スル心意精神。外ニ應スル思慮知識。共ニ之ヲ亡フコト。第八十三章ニ論スル私癲布病一名白羅児的。即卒中昏冒不省人事ノ証。詳ニ病考ニ論ス。ノ如キノミナラス。其呼吸ナラヒニ外ヨリ診察スヘキ所ノ脈動皆絶ヒ。始死ノ尻ト殆ト辨別シ為ス能ハサルニ値フコトアル。是其証十リ。迺チ夫ノ拂鬱胡眩暈卒倒鬱冒不仁精神ノ一証ノ若キ。吾輩ニ於テ。是ヲ差等シテ較軽キ者ノ號トス。其証候一二ノ缺虧シテ。作為運用ノ崩壊脱失セル者ニシテ。唯其諸般ノ運動主能。悉皆廃絶スルニ至リ極ラサルヲ異ナリトスルノミ。

右第九十三章。卒厥ノ大較ヲ論ス。

此病ハ是特リ来ラス。是非ニ他病ト共ニ発スルカ故ニ。其徴候甚タ混淆シ。其混淆セル中ノヤヽ目立タル証ニ就テ名ヲ蒙ラシムルカ為ニ。名モ亦浮游シテ的実ヲ得カタシ。夫故ニ名ニ據テ之ヲホルコトヲ為ス。須ク名ヲ捨テヽ其実ノ原由ニ本テ之ヲ索メ。然シテ後夫ニ據テ以

按ジ處シ治法ジ議スヘキナリ。○吾人其生活シテ愈ラサル所以ノ者ハ。能ク稟資セル所ノ精神。箇ノ神経ヲ通リテ。遍身諸部ヘ轉送スルノ間ハ。長ク其生ジ失ハサルコトヲ知ル。○造物主ノ肇テ人身ヲ始資スル。其生命ヲ賦シ。生活セル元運ジ與ル所ノ者ハ。固ヨリ思議ノ及フ所ニ非スシテ。將タ其精神ニノミ在ルヤ。抑又神経ニ在テ。神経其精神ヲ運ルヤ。若クハ神経精神。トモニ是相須テ離レサル者ニシテ。精神ハ即是神経。神経即是精神ナリヤ。予此ジ究ノ極ルコト能ハスト雖モ。是ノ二ノ者甚的実彰著吾人共ニ目今現ニ頼ル所ニシテ。其精氣必ス神経ヲ通リテ諸部ニ普達セサルコト能ハス。其生活ノ元運ジ主ル精氣ノ循行ジ失フノ各部ハ。必ス死絶スルニ至レハ。則其精氣ノ神経ヲ通リテ。諸部ニ普達スルニ頼ルヲトシ徴スルナリ。○精氣ノ循行シテ障礙スル所アラレムルノ原由微甚アルニ從テ。或ハ僅ニ作為運用ノ崩壊脫失スルノ証ジ見レ。（前章ニ所謂神氣ノ是ナリ。）或ハ全體ヘ普達スルジ過絶シテ。其間此ノ卒厥ジ發スルニ至ルナリ。

右第九十四章。卒厥ノ（病因）原由ジ論ス。

卒厥ノ心意ノ運動ヨリシテ發スルノ一証アリ。

此ノ証常ニ多クアルコトナリ。假令ハ人ノ急遽驚駭シテ自失スルコトアリ。又ハ精神志意大ニ度ヲ失ヒ常ヲ寢シ。周章恐怖スル所アリテヨリ。微ナル時ハ則チ拂鬱（ふつうつ）胸悗等ノ症ヲ發シ。（註上ニ出ツ。即眩暈卒倒精神悩乱ノ症ヲ云。）甚ケレハ則チ卒厥ニ至ルナリ。時ニ因テハ其候ニ死シテ蘇（よみがえ）リ復（かえ）セサルモアル者ナリ。○此其精神ノ虧損シテ。其性ノ變壞セル者ト。唯其元運ノ過絶シタル者ト。身體中ノ主動。生子ノ如ク運用スルコト能ハサルニテ。爾ノ鬱塞スル者トノ次第アルコトヲ知テ。其微甚ヲ辨スヘキナリ。○其卒厥ニ於テハ。生活ヲ為ス所ノ元運モ。心意ノ思欲ニ從フノ運動モ。皆能ノ過絶スルカ故ニ。因テ以テ頽解スヘシ。其心意ノ運動ノ作スコト大甚過度ナル者。乃チ能ノ生活ノ元運ヲ連テ之ヲ變壞スルコトヲ為シ。又委ノ過絶スルコトヲ為シ。○若シ卒厥ニ於テ。生活ヲ為スノ元運ノ滞止シタルニ。悠體ノ良知悉皆脱去セサルニ逮ブガ如キハ。乃チ其生氣ノ尚存スル諸部ニ刺戟スルコトヲ為セハ。自ラ其運動ヲ増スナリ。（筋條）則チ細絡纖筋復メ相達スルコト能ハサルナリ。良知已ニ去リ。生氣脱シ了ル者ハ。刺戟スルコト為スト雖モ。復メ通シ達スルコト無シ云ヘリ。○右ノ二証。俱ニ其心藏ノ運用及ヒ動脉ノ循環

已ニ過止シテヨリ後モ。未タ久キヲ経サルカ間ハ。宜ク號嗥シテ救ヒ。助ケ。以テ過止セル官能ヲ挽回シテ。再ヒ運動スルニ復セシムヘシ。○是故ニ是症ニ臨テハ。刺絡ヲ施シテ瀉血シ。藥ヲ以テ鼻中ニ撒シ。顳顬ニ於テ一二ノ慄悍鋭利ノ藥ヲ摩擦シテ。之ヲ救ヘシ。即チ羅思馬里奴謨精。滅栗幼精。香橼皮精。硇砂精。自餘右等ノ品類ヲ用ヘキナリ。○此等ノ病ニ臨テハ。人復タ發疱術アルヒハ下劑ヲ施スニ暇アラス。第八十七章ニ於テ。發疱術ヲ施シ並ニ下劑ヲ用ルノ治法ヲ挙ルニ因テ。何トナレハ。愛ニ其異ナル所ヲ言テシヲ別ツ。藥ヲ施スニ製設煮ノ事ノ多時ヲ消スル有テ。

又其上ニ其藥氣ノ浸淫浹洽シテ揩潔ニ達スルコト。俄頃ニシテ得ヘカラサルカ故ニ。若シ生活ノ元運ヲシテ。漸ク長ク絶止セシメ置トキハ。蘇醒シ易カラス。祇ニ是ニ因テ患者ヲシテ死ニ輸カラシムルニ足レリトスルカ故ノミ。

右第九十五章。卒厥ノ心意ノ運動ニ因ル。ノ証治

第九十六章。卒厥ノ偏ス。

若シ夫レ諸脱血過多。アルヒハ自餘ノ諸液大ニ漏崩シテヨリ。此ノ卒厥ヲ發シタルハ。此其血ノ多量ニシテ頭腦ニ輸送ルニ足ラサルカ致ス所ナリト察スヘキナリ。須ク患者ヲシテ頭ヲ置リ

コト卑カラシメ。以テ其血ノ流輸シカタキ者ヲシテ。能ク甚頭ニ致シ易カラシムルノ策ヲ為スヘシ。又須ク其手足ヲ摩循シテ。血脈ヲシテ心藏ヘ収リ入ラシムルヤウニスヘシ。又須ク其全腹ニ據按シテ之ヲ緊摸固持スルコト。彼ノ彭著ナル産後ナラヒニ措法脱泄ノ後。腹中頓ニ暴虚シタルニ施スカ如クシテ。血脈大幹ヨリ血脈ノ大注ヲ詳ニ解体新書ニ見ユ。腹圓ヘ散布セル文別ノ障坊シテ。其血ヲシテ心藏ヘ収入セシムルノ術ヲ為スヘキナリ。〇是証ニ臨テハ。瀉血ノ術ハ戒テ施スコト勿ルヘシ。前章ニ対シテ。其異ナル所以ヲ示ス。

其鼻中ニ撒入スル諸薬ノ。上ニ列スル所ノ如キハ。則チ前ノ諸証ニ於ルカ如シノ之ヲ施スヘシ。良トス。

右第九十六章。卒厥ノ脱血ニ因ルノ証治ヲ論ス。

究猛熱病焚カ如キノ証治ノ。究竟進テ壊疽病ニ変スルコト。第二十五章ニ論シタルカ如キ者。ナラヒニ酷烈ナル暑熱ノ氣。及ヒ腐敗熱病。皆能ク卒厥ノ証ヲ發スル者ナリ。甚タ危殆ナリトス。〇是証ニ臨テハ。宜ク其人ヲシテ。速ニ涼室ノ処ニ移シテ。風氣ノ爽涼ナル処ニ居シメ。而シテ冷水及ヒ醋ヲ以テ面ニ噀キ灑ヘシ。或テ他ノ平常ノ卒厥ニ於ルカ如ク。諸般ノ揮發散越ノ品。ナラヒニ慓悍鋭利ノ薬。及ヒ

子。臓衝逆ノ証トス即チ

其シテ熱セシムルノ剤ヲ用ルコトヲ禁スヘキナリ。○若シ患人省復スルコトアラハ。乃チ更ニ其緒証ヲ治スルコト。第二十五章ニ於テ論セルカ如クスヘキナリ。

右第九十七章。卒厥ノ大塾ニ因ルヲ論ス。

ノ証治

卒厥ノ発スルコト。其原由ノ自ラ能ク明白ニシテ来ルハ。多クハ昌郎（カタル）邊的（ヘンテキ）烈金倔（ヒステリー）ニ詳ナリ。第百十三章ヨリシテ来ルノ一証ナリ。此ヲ腦布私底亞倔（ノイラスチニー）ト曰ヒ。第百十八章ニ出ツ。又第五十二章ノ註ニ見タリ。此其生活ノ元運ヲ抑壓シ。夫ヨリシテ遍體ノ運動。悉皆遏絶シ。只管得テ異政

其驚擾ノ波及ス所

ノ運行ナル。胃ト腸トノミ絶止セサルコトヲ得ルナリ。此其神経ノ循行シ得ルコト關係ナクシテ。彼ニ交渉セサルヲ以テ免ルヽナリ。○然トモ其運行夫ニ付テハ少シハ常ナラスシテ次序ヲ失アニ至ルカ為ニ。氣ノ腸中ニ鬱蓄スルコトヲ致シ。抱体虚急衰廢セルノ體中ニ於テ。間ヽ其噪聒スルノ響ヲ聞リカ如キノ証アリテ。一ニ其愛ニ厭悪ノ物精入テ存スルヲ以テ毎人（トコトニ）ヲ為ル、ニ至ルモノアリ。○此証ノ卒厥ニテハ。其發スルコト甚タ屢ニシテ。大ニ波極スルニ非ルヨリハ。又ニ至ルコト稀ナリトス。何トナレハ。生活ノ元運絶

止スルモ。元来是レ精氣虧虚ニ入ルコトノ強甚ナルヨリシテ發スル昌郎遍的烈金倔ノ。還テ自ラ為ス所ノ生氣ノ退絶ニ係ルカ故ニ。其解独不ルコトモ。亦其自ラ為ス所ニ由ル。而シテ昌郎遍的烈金倔生活ノ為ス所ノ精氣ヲ灌漑スル器ヲ抑壓シテ通セシメサルコト。少シニテモ甘キ緩ムトキハ。忽ニ其精氣再ニ復故ノ如ク前流スルカ故ニ。患人則チ省復スルナリ。○其卒厥ノ時ニ當テハ。患人ヲシテ然ルベキ揮發散越ノ侵襲刺戟ヲ主ル藥劑ニ因テ。營救シテ蘇復スルニ至ラシムヘシ。其此ノ証ニ用テ僕ニ経験アル

布プ

布プ

昌郎布的烈金倔ノモ治シ又蕙ヲ其厥モ治シテ

理精霍香精

モノハ即チ是レ砲砂精。羅思馬里奴謨精。刺賢露辣滅栗。鹿角鹽。琥珀鹽。乾蔵鹽。第七十八章ニ詳ナリ。葛私多儂謨丁窒告尓。其和名物考ニ出ス。遠西酒等是ナリ。○是等ノ諸藥。少許ヲ取テ箇ノ嚢中ニ加ヘテ諸ノ嚢中ニ納レ。又ハ顆顆及ヒ額上ヲ摩擦シ。患人シテ醒覺スルニ至ラシムヘキ。○予是篇ニ於テハ。許多ノ單方藥味ヲ列擧スルコト。他篇ニ異ナル所以ノ者ハ。此急証ニ臨テハ。匆卒ノ際。復思惟シテ其堂キ所ノ藥味ヲ撰用スルニ遑アラサルカ為ニ。只其精要ナル者ヲ選テ此ニ列シ。急未ノ時ニ臨テ他ニ求

ルコトヲ俟スシテ明ナリ。近ク階ヲ期シ得セシメントヲ要スルニ因テ爾スルノミ。○第十三章ニ夫ノ昌郎布的烈金倔ノコトヲ詳ニ挙ケ於テ第百十三章以下ニ詳ニ其原由治階般ノ種属ニテ其説ヲ観スヘキナリ。下ニ記載スル所ノ証治ヲ論ス。

右第九十八章。卒厥ノ昌郎布的烈金窟ニ因

西説内科撰要巻六終

西説内科撰要巻七

遠西

日本 津山 宇田川玄随晋譔
盥官法眼 桂川甫周國瑞 閲

玉函涅斯垤我爾徳児著

第十六

頭旋眩冒篇第十六

頭旋眩冒ノ疾タル。即チ卒厥ト同出ニシテ。只其発スル所ノ証ニ據テ其名ヲ分タルナリ。第九十三章ニ曰ク。卒厥ノ病。其証ノ大較ヲ陳スルニ。若シ人偶其條忽トシテ意ノ趣キ為ンコト欲スルニ。俄ニ運動スルノ机関ヲ失ヒ。並ニ内在スル思慮知識。共ニ之ヲ喪フコトヲ心ル

第八十三章　論外觀診察布病ノ要旨

其始呼吸並尿ト共ニ是ト同ク排泄セラルヘキ諸物象ノ患者ノ眼ニ現スヲ謂フ。此証若シ大ナルニ至テハ。始ハ先ツ瞳子蒙昧ニシテ乃チ脊骨シテ明ヲ失ヒ。遂ニ卒厥ニ陥ルニ至ル者ナリ。

右第九十九章。頭旋眩冒ノ大較ヲ論ス。

窮理學ニ於テ之ヲ研求スルニ。元來瞳子ノ質タル。靜止シ以テ其素トス。人流水ニ鑑スルコト無クシテ止水ニ鑑ス。流水能ハサルヲ。是ニ於テ凡ソ照映スル所ノ物形ヲ照定シ即チ是ノ理ヲ至ル所ハ。遍ク纖悉ク遺スコト無ク。亦皆曲ニ應シテ其本相ヲ易ルコト無シ。諸ヲ眼底ニ達シテ神經ノ觀象ニ供ス。乃チ吾人共ニ是ニ由テ以テ百爾ノ大小方圓邪正動靜多寡遠近

（此行抹消）

崩壊ノ証ヲシテ皆ミ僅スシテ全ニ化体作所等絶脱如ト死ノ呼吸並尿ト是ト同ク排泄セラルヘキ諸物象ノ患者ノ眼ニ現スヲ謂フ。此証若シ大ナルニ至テハ。始ハ先ツ瞳子蒙昧ニシテ乃チ脊骨シテ明ヲ失ヒ。遂ニ卒厥ニ陥ルニ至ル者ナリ。

右第九十九章。頭旋眩冒ノ大較ヲ論ス。

窮理學ニ於テ之ヲ研求スルニ。元來瞳子ノ質タル。靜止シ以テ其素トス。人流水ニ鑑スルコト無クシテ止水ニ鑑ス。流水能ハサルヲ。是ニ於テ凡ソ照映スル所ノ物形ヲ照定シ即チ是ノ理ヲ至ル所ハ。遍ク纖悉ク遺スコト無ク。亦皆曲ニ應シテ其本相ヲ易ルコト無シ。諸ヲ眼底ニ達シテ神經ノ觀象ニ供ス。乃チ吾人共ニ是ニ由テ以テ百爾ノ大小方圓邪正動靜多寡遠近

鏡ハ像ニ隨大ラ焉膜ニ膜ルルル所用ノシルモツ
ヲ門ヲ供トテナ保化ニ三有ニ者樹ヲル孔ム所象コ
取或画スヲ即リス。セ接ニテ倍ハ脂受所眼ルナ目ト
リハクル主チ以之ルス。曰ツタ其木テ孔ヲコシ。交ニ
出窓ニ。所ル。羅テシ者水クテル形涙委眼承トツ以接受
シ一全ツ此文水硝ノ様硝自モ圓ノクニク。シテノク。
テ孔クナヲ膜晶子如液子ラ前ナ如斯置喩主之間其
諸ヲ門リ。三ヲ液膜シ。液護面リ。クニクヘルヲハ。正
ヲ開窓湯液シニト故北水ス頗其一聚ノハ二中上面
孔キ。若トテ照謂ニス晶極ル他般縮鏡室ニ央下直
眼大閉望ス之摂フ名シ液テ平ハ極ス。ノ中曰ニ左線
ニ小チ。云外ヲス三リ。ハノ薄塲差テ其如鏡ノ轉右ノ
置前務リ。象采ル液亦更後シナ希透質シヲ水シ斜射
キ。鏡テ室ヲ覧所ノ一ニ名ル十明タ四假晶水偶ル
白ト逃中照識ノ中膜稠在テノリ。ナル周テ液。晶曲所
浄相暗鏡摂別象此有ナテ蜘シ。偶リ。新ノ像正液突ニ
紙ヒシヲシセ相液テリ。直蛛水尓人ニ照シクニ照論
ヲ稱極照テシヲ最以硝ニ経晶リ類漏摂画葡輻摂ナ
以ヘ。メ。シ観ム受モテ子羅膜液圓ニ滴スク萄湊セシ。
テ前或テ采ルテ。多自ノ文ト一ナ在セルニ膜セサ苟

液所此護諸ス正膜。後始烏膜烏外ヲハ外ヲ之運妄。藏。妄。ヲ鑒
トツヲス膜ル中玲ニヲ晴ノ。第西一各ニ動ヲ別ス
ノナ六ルノ者ニ瓏周斯ニ前繋一テ。稟属ス層。成所。ル
間リ膜所最是孔膜シ。ニ於面リ膜目曰ルス。所其謂シ。ル
ニ三トナ下ヨヲノ細資テ白水ト窠ク所ル三コ
充液ス。リ。ニリ穿下脈ル。ハ膜脈ス。ノ白ア実ル三コ
盈ハ。諸萬在シツ。ニ血四最膓烏二内膜。リ。ハ五液ト
シ一液物リ。テ郎在絡ニ外ヲニニ又相眼輪ツ
外ニヲノ繊眼チリ。ノ曰ノ啓絡曰附コ管目ハテ得
象曰包景密底所即成ノ膜テフ。ノ者レスハ節之ル
ノク裏ス織ニ謂チス脈タ通三強シ。シル自五ニ十
来水シルカ達瞳脈所絡リ徹ニ膜。上結コラ藏充リ。
リ様テ者如ス。子絡十膜物ヲ曰運下膜ト眼配盈究凡
景液眼以シ。六十膜リ。其象為ノ動瞼ト有目。當シスソ
ス玲。賛テ此ニリ。ノ五色ノス玲ヲニ謂ニ五ノ六ル眼
ル瓏ヲコ瞳曰萬前ニ黒映所瓏為連フ。ア藏説筋ニ。目
者膜資、神ノ物面曰ク。射十膜スル。周ヲハハ。以六ノ
必ト成ニ経羅来ニク烏スリ。即ノ此クス。自冬テ膜質
スル水ス知ノ文リシ葡睛ル此チ諸ヲ眼六ラクシツヲ
先晶ルル。布膜景元萄ノ者レ強筋最珠膜五証ヲテ精

子其素ヲ失テ静止スルコト能ハスシテ運溫シ。
是ニ於テ其纏レ抵ルノ諸物ヲシテ。亦照映シ得
テ運動シテ定ラサルコトヲ為サシムルノ罪ニ
アラス。只是レ眼底ニ於テ之ヲ領取觀采スルコト
トヲ主ルノ官。其常職ヲ失テ闇昏不明ナルノ致
ス所ニ在ルノミ。是ヲ以テ瞳子ノ照攝シテ供ス
ル所。靜定ノ物輒チ變シテ運旋ノ狀ヲ為シ。若ク
ハ乃チ象目交接ノ間ノ全ク無キ所ニシテ。獨リ
眼底ニ於テ自ラ諸般ノ異象ヲ現スルコト有ニ
至ルナリ。○是ニ於テ予カ輩其眼底ニ在テ之ヲ
領取觀采スルコトヲ主ル者ハ。甚タ(カ)ナル物有テ

是血運テ眼人ノムミノ白前レ壁ノ生テ各ヲ
ニ二動眼ヲヲ挈ニト空浄鏡ハヲ目着ル此本照ノ
由脈シヲ轉シ内ニ六明紙ニ像須ニ毎カ法相シ如
テ及テ轉シテ筋曰筋氣ナシ相テ於ニ如シヲテク
之ヲ各シテ外人ノハ。彼リテ。愈以ル。借シ。用現紙對
ヲ枕其テ斜視ヲ挈一此其而明テ其テ國フ。シ。上レ
觀點宜斜下セシ下ニ相他レナ幽レ喻舉種輩ニテ内
レ外ニ上セシテ筋曰トノテリ。暗猶トテ々聾入室
ハ。等適セシム。内人ノ照ニ羅水ヲシヲス。之ノモル。ニ
頭ハハシム。五視ヲ挈攝液文晶成鏡謂ヲ物爽其体置
旋内シム。六ニセシ上スハ膜液スヲ〻奇像ハ。其ケ
眩景ム。此ニ曰シテ筋ル即ハハカ照ルトヌス。
冒詳ルヲ曰クム。下人ノチ即即コレコス画大色。
ノ説所六タ上四視ヲ絡中チチトテトト。ク西活則チ
人ニ以筋下間ニセシ介間物孔シ像ア西ニノ澄鏡
ニ景ナト間筋曰シテニ像眼暗ヲリ醫儼一澄諸
於ヲリス。筋人クム。上過亮止ニ黒画云内然画地
テ詳自眼人ヲ挈三視サ盪ル置愈ク。景ト師トノ
ハ。餘目ヲシ外ニセルス所ク甚ノ諸ヲシ秘シ外
瞳ス。動ヲシテ筋曰シノルノノケ牆膜説テシテ像

以テ之ヲ為シ。而シテ其ノ其ノ常ヲ失テ以テ不明ヲ致シ。自ラ非常ノ妄見ヲ發セシムル所以ノ者。何ノ原因有テ以テ之ヲ致スト云コトヲ考究スルニ。固ヨリ所由アリ。即チ左ニ陳スル所ノ如シ。○看ヨ此ノ眼底ニハ。隨處盡ク瞳神經ナル者有テ。其狀糊ノ如ク。其膜ノ細筋纖條ニ憑依シテ布護蔓延シ。人身五司ノ中。目司ル所ノ神經ハ無多ノ為メニ。而シテ其ノ竅ヲ開クヲ以テ第一目ヨリ賦予スル神經ハ。茲ニ於テ自ラ敏異非常ノ運動ヲ現スルニ至ル。此レ即チ頭旋眩冒ノ錄テ起ル所ナリ。

右第百章。頭旋眩冒ノ内因ヲ論ス。

凡ソ此疾ヲ發スルノ諸因ハ。或ハ其眼底ニ縈絡

即チ瞳神經ノ成スル所タルコトヲ得ル所以ノ者ハ。此カ為メニ。茲ニ四十一章ニ見ハレタル説。第三目ヨリ起ル者。皆先ツ瞳神經ノ為メニ。而シテ其ノ竅ヲ開クヲ以テ第二目ヨリ起ル者。亦瞳神經ノ為メニ。而シテ其ノ竅ヲ開クヲ以テ第一目ヨリ起ル者。皆先ツ

スル所ノ動脉ノ小別細支。或ハ其膜ノ細筋纖條。或ハ直ニ瞳神経自ラ淮洑運資スル所ノ精氣。其平素ノ常ヲ失ヒ變シテ常然ニ逆スルノ動ヲ為ストキハ。則チ此ノ頭旋眩冒ヲ將出シ来ルナリ。而シテ其原由大ナル者ニ至テハ。瞳神経ノ中ニ淮洑運資スル所ノ精氣。困テ帝ニ非常ノ運動ヲ為スノミニアラス。進テ遂ニ凝泣スルコトヲ為スニ至ルトキハ。眼目蒙昧シテ明ヲ失ヒ。已而ニシテ止サレハ。則チ卒厥コルニ從フナリ。○右ノ諸般ノ濕序ヲ失ヘル運動ヲ為ス者。其由來スル所ノ諸原一ニシテ足ラス。悉皆同シ治法ヲ以テ療スヘキニ非ス。是ヲ以テ宜ク其所因ヲ分別シテ。診察ナラヒニ治術ニ於テ。錯誤ヲ致スコト勿ルヘキナリ。何トナレハ。其暈倒昏冒スルノ際ニ臨テハ。何ノ藥劑ニ宜シト云コト。其証候ノ明白ニ處分スルニ足レル者ナケレハ。切當ナル對方ヲ得カタキ者ナリ。故ニ豫メ其原由ヲ明辨シテ。然シテ後ニ斯ニ從事スルコトヲ為スヘキナリ。

○諸ノ原由盡ク斯ニ援引シテ之ヲ示シコトヲ要スレトモ。甚タ繁長ニ屬スルカ故ニ。特ニ其中ニ就テ其尤モ較著ナル者ヲ擧テ之ヲ指摘スルノミ。

右第百一章。頭旋眩冒ノ外因ヲ論ス。

血ノ過多洋溢ヨリシテ發スルノ一証アリ。其動脈ヨリ血ヲ頭部ニ輸送スルコト。平常ニ越テ過多ナルニ因テ致ス所ナリ。其原コレヲ其人元来多血ナル稟賦。若クハ居恒血ヲ脱泄スルノ性ヲ齎セルニ。今ニシテ其脱泄ヲ止住シタルカ為カ。或ハ自ラ其股ヲ以テ腹ヲ重壓シ。血脈ノ血ヲシテ多ク心藏ヘ衝逆セシメ。並ニ又動脈大幹ヨリシテ血ノ下流スルヲ凝隔スルコト有カ為カ。或ハ偶其首ヲ低クシテ寝臥スルコト有ニ得ルナリ。此等皆能ク其頸脈ノ循行シテ閧遏シテ通セサラシムルコト。猶夫ノ緊ノ頸ヲ絞紮スルカコトシ。又喉風（第百二十七章ニ詳ナリ。）並ニ諸般ノ肺藏ノ疾ニ於テ。血脈ノ頭ヨリシテ下流スルヲ障碍阻絶スル者ナリ。常ニ多ク右件ノ諸因ヨリシテ此ノ頭旋眩冒ヲ發スルナリ。之ヲ治スルニ須ク瀉血ノ法ヲ以テシ。又ハ清涼ナル下劑ヲ用ヘシ。第十二章ニ出ツ。其瀉血ニ由テ治スル所以ノ者ハ。此其諸血管極テ多ク眼目ニ輻湊シテ。其運用ヲ營為スヘカラシムルコト。自餘ノ諸部ヨリ殊異ニ資成シアル緊要ノ處ナルカ故ニ。其變ニ臨テモ。亦恒ニ諸血ノ衝逆ヲ受易キカ為ナリト知ヘ

ヒ。○是ノ如テ諸熱病ニ於テ。血ノ騰湧シテ頭ニ衝逆スルコト有トキハ。亦觸ノ此ノ頭旋眩冒ノ證妄ニ先タツテ其事ヲ箭ト為リ來ル者ナリ。共ニ前ニ說ル所ノ理ニ依テ其証ヲ將出シ未ルト知ヘシ。

右第百二章。頭旋眩冒ノ血ノ衝逆ニ因ルノ証治ヲ論ス。

不學無術ノ輩。疾ノ本由ヲ蹤跡セス。元ヨリ其因ヲ明ニセスシテ。妄投瞑行スルコト。甚タ危殆ナルコトナリ。學者須ク之ヲ知テ。深ク戒慎シ。其軽ク踰ムヘカラス。若シ概シテ是レ頭旋眩冒ノ藥ト雖シ。其名ニ執シテ之ヲ處スルトキハ。其因元ヨリ一ナラサル。一定ノ劑ヲ以テ諸般ニ應スルニ足ラス。其因ト藥ト方鑿（サク）圓枘（ゼイ）ナルコトヲ救ハス。啻ニ其効キノミナラス。祇ニ以テ害スルニ足ル。讀者須ク能ク之ヲ領解スヘシ。因テ茲ニ其因ノ相交スル者ヲ以テ之ヲ曉ラシメントス。○前章ニ論スル所ノ血ノ衝逆ニ因テ發スル者ハ。○是レ多血ヨリシテ來ルカ故ニ之ヲ泻シ減スレハ。治スルヲ以テ從事シ易シ。若シ夫レ其血ヲ誤リ泻スル等ヨリシテ。血ノ不足ニ因テ發スルノ証ニ至テハ。則チ其事容易ナラストス。而シテ其

毎ニ見ル所ニ據ルニ。其多ノ血液ヲ脱失スルニ因テ常ニ此証ヲ致スコトヨリ遍患ナルハ無シ。〇右ノ証ヲ治スルニハ。其法前章ニ論スル所ノ多血ヨリスルノ証ト冰炭相及スルナリ。即チ第九十六章ニ論スル卒厥ヲ治スルノ術ニ同一ナリト知ヘシ。

右第百三章。頭旋眩冒ノ失血ニ因ルノ証治ヲ論ス。

假令ハ第二十一章ニ論スル性ヨリスル壊液病ノ稀涼ニシテ酷厲ナルノ液ヲ生シ。知覚ヲ為ス神経ニ於テ痛ヲ催シ。及ヒ異政ノ諸器ニ属セル神経ニ於テ煩悶ヲ発スル者。爾ノ此ノ眼底ニ浸淫シテ。資成スル所ノ原機ニ加バルトキハ。一箇ノ次序ナキ非常ノ運動ヲ発スルコト。即チ頭旋眩冒ノ証ニ至ルナリ。〇其寒壊液ノ治セスシテ長ク殫留スルノ間ハ。此証モ亦治スルコト無シ。其因依ニ在テ此ニ在サルカ為ニ。宜ク第二十六章ニ論スル所ニ従テ其原ヲ治スヘシ。而シテ此証自ラ瘳ユ。

右第百四章。頭旋眩冒ノ壊液ニ因ルノ証治ヲ論ス。

夫レ蘇對布的列金倔ノ運動ニ因テ。神経ノ牽掣

寧急スルコト。第百十三章ニ詳ナリ。目膜ノ細筋纖條ニ連及スルノ証。能ク此ノ頭旋眩冒ヲ發スル者ナリ。此其理甚タ鮮ニ易クシテ。其治ハ則チ難レトス。其鮮ニ易キ所以ノ者ハ。此其細筋纖條。彼ノ神経ノ寧急スルカ為ニ。次序ナキ非常ノ運動ヲ為シ。因テ茲ニ照摂スル百爾シテ。亦自ラ非常ノ運動ヲ形サシムルコトヲ知レハナリ。○是ヲ以テ子藏衝逆ノ記（併セ考ヘヘシ第百十三章ニ）及ヒ發癇ニ至ルノ人。尓ク此ノ証ヲ發シ。且ツ常ニ善ク右ノ証ニ係ンテスル者。亦多ク此ノ証ヲ現スル者ナリ。○其治シ難キヿ此証ノミヲ治セントト欲スルモ治スルコト能ハス。而シテ其倫其法後ニ於テ之ヲ明説スルカ如ク。神経寧急ノ疾ヨリシテ。既ニ彼カ如ク其レ治術ヲ施スニ於テ容易ナラサル所ナレハナリ。

右第百五章。頭旋眩冒ノ蘇對布（ストイプ）ニ因ルノ証治ヲ論ス。

斯ニ甚タ異トスヘキニ俱タルハ。生人ノ事態ニ就テ之ヲ蹤跡スルニ。其頭旋眩冒等ヲ患ルノ人ハ。屢コレヲ歷試スルニ。必ス悪心スルカ。又ハ嘔吐ノ証ヲ為ス者ナリ。若シ悪心スルカ。或ハ箇ノ

壞液敗物ノ胃中ニ在ルモ。還此ノ頭旋眩胃ノ征
シ為ス者ナリ。其五ニ因シ相為ス者ハ。見得タリ
是レ頭腦ノ為ス所ノ主動ト。胃ノ為ス所ノ主動
ト。甚タ相通シテ二ナラサルコトシ。學者須ク此
義ニ違スヘキナリ。
上下相隔ルコト遠シ。然レトモ其ノ腦胃ニ於ケル最一殊ナル覺ノ讀リ。篇中ニ遍ノ郎其ア篇ノ第百一ニ。羅八ル動因テ二ナラサルコトシ。學者須ク此
盤関其神上般敏感ニリノヒ隔シ處ニ於ケル最一殊ナル覺ノ讀リ。篇中ニ遍ノ郎其ア篇ノ第百一ニ。羅八ル動因テ二ナラサルコトシ。學者須ク此
則ナ人経開ナア。繩絡直故フニシ處ニ於ケル最一殊ナル覺ノ讀リ。篇中ニ遍ノ郎其ア篇ノ第百一ニ。羅八ル動因テ二ナラサルコトシ。學者須ク此
シル身有哆リ知フニシ處ニ於ケル最一殊ナル覺ノ讀リ。篇中ニ遍ノ郎其ア篇ノ第百一ニ。羅八ル動因テ二ナラサルコトシ。學者須ク此
主カ孤テセト存覚コ多芳スルト甚トルル覺ノ讀リ。篇中ニ遍ノ郎其ア篇ノ第百一ニ。羅八ル動因テ二ナラサルコトシ。學者須ク此
ラ故生茲ル心ス。甚トルル覺ノ讀リ。篇中ニ遍ノ郎其ア篇ノ第百一ニ。羅八ル動因テ二ナラサルコトシ。學者須ク此
レニ存ニ部腹胃タ周ニ。雖ノ頭ノ部腹胃タ周ニ。雖ノ頭ノ部腹胃タ周ニ。雖ノ頭ノ

大幹ヨリレテ。分レテ睾丸ニ下リ。又テ精ヲ製スル所ノ精脈ト。腎ヨリ膀胱ニ達スル輸尿道ト。近ク相ヒ並フテ。些ノ紛錯ヲ致スコト。抑モ亦由アルナリ。病考ニ詳論ス。此証ノ胃中ニ壊液敗物ノ在ルコト有ルニ因テ発レタルコトヲ蹤跡レテ。能ク得ル。コトアラハ。先ツ其胃ヲ浄刷レテ清閑ナラシムルヲ良トス。其方第十五章ニ載ル所ノ吐薬ヲ用ユヘシ。然レテ後従テ第二十章ニ出ル所ノ健胃劑ヲ用テ。胃ノ消磨化熟ヲ左右スヘシ。〇右ノ如ク其原ハ甚タ相ヒ迥別セル所ヨリレテ出来レトモ。其証ハ則チ同ク是レ一ニ此ノ頭旋眩冒ノ候ヲ発スルカ故ニ。人其証ニ値コトニ。徒ニ患者説ク所ノ標証ニ因テ。皆コレニ蒙ラシムルニ此名ヲ以テシテ。妄ニ一緊レテ治スルコトヲ得サレ。常ニ豫メ其因ノ一ナラサル。名ノ以テ頼ムニ足ラサルコトヲ知テ。深ク思レテ其原ヲ得テ。然レテ後治法ヲ處スヘキナリ。看ヨ此ノ手段。雨ノ難事ニ非ス。斯ク従事スレハ。甚タ由リ易クレテ且ツ大ニ覿實ナルコトヲ。

右第百六章。頭旋眩冒ノ胃中ノ壊液ニ因ル証治ヲ論ス。

斯ニ人アリ。先ニハ其心意知覺ノ操設。動靜云為ノ運營ヲ人ノ猶ク不ニシテ。一モ異ナル所アルコト無カ。今ニシテ乃チ心意知覺ノ事ニ應シテ用ヲ爲スノ便宜ヲ失ヒ。夫ヨリシテ心意ニ思念スル所。並ニ身體ノ運爲スル所。尽ク常ヲ失テ異ナラサル所ナク。人事百慣言語錯亂スルニ至ル。此ヲ精神錯亂病ト曰フ(羅甸ニ之ヲ埃栗留謨ト謂フ。)○若シ其知覺意思ノ常ヲ失フコト。未タ甚シキニ至ラス。或ハ其証偶事件ニ由テ發スル者アリ。乃チ第六十三章ニ出ル喜剌昆埃兒ノ証ト如シ。即チ膽汁敗黒病ナリ。其証必ス故ナク憂悲悶スルコトヲ爲シテ。又且ツ心志知覺常ノ爽明ナラスシテ。支ニ臨テ疑惑迷罔ス。第五卷ニ詳ナリ。此証ノ最モ彰著ナルハ。右ニ説ク所ノ証ニシテ。必ス鬱憂悲惋スルコト有テ並ニ發スルコトヲ爲シ。又常ニ多ク他事ニ於テハ尽ク能ク爽利快了ニシテ。彼此相ヒ副ハサルガ如ク然ル者ナリ。○若シ其人精神意思ノ運營ヲ失フコト有テ。常ト成テ治セス。其証熟ニ由ラスシテ發スル者ハ。之ヲ痼疾(ゲ)ト謂フ。原名厄吉(キ)歇意度(ドマタ卒(ツ)篤歇意度(ド)ト云。精神錯亂シテ便宜ヲ失フ者。

○若シ之ニ加ルニ其氣志ノ動作シテ靜止セサルコト過度已甚ニシテ。瞳目持久。間歇アルコト無キハ。則チ失心癲狂等ノ名ヲ以テ之ニ命スルヲ得ス。○若其大熱亢壯ニ發シテ。患人心意ニ於テ知覺スル所ナク。全然トシテ荒憒シ。騷擾發作罵詈叫喚スルヲ。乃チ熱毒發狂ト名ク。○其熱毒發狂ノ甚シキ者。熱ニ由テ發シ。若クハ熱ト共ニ並ニ痛ムヲハ。常ニ之ヲ譫妄ト謂ヘリ。○夫レ精神錯亂病ノ諸病。其証其名。元ヨリ紛雜ニシテ一ナラス。余今コヽニ厄勒祭亞及ヒ羅甸ノ名稱。若クハ國語ノ中ニ於テ之ヲ攷スルニ。極南ノ地ニ在リ。經度三十四ヨリ四十三ニ至リ。緯度四十四ヨリ五十五ニ至ル。其聲名天下ニ傳聞スル所ノ聖賢及ヒ博物ノ書多クハ是ヲ以テ學者究理ノ接ス。是ヲ以テ學者多クハ

屬シ蹤跡シテ其原由シ
見ツヘキ証候ノ甚タ多
タル者ト雖モ。並ニ拘泥セ
コトヲ要スルノミ。

右第百七章。精神錯亂ノ大較ヲ論ス。

夫レ諸腦ノ運動全クシテ。良善ナル精氣ヲシテ
循行灌漑セシムルコト。次序ヲ失ハスシテ榮養
スルノ間ハ。其人必ス心意知覺ヲ保テ。精神ニ於
テ置之スル所アラサルナリ。然ルニ若シ諸腦ノ
運動全カラス。良善ナル精氣ヲシテ循行灌漑セ
シムルコト。他ノ外物ノ所因ニテ。其次序従テ變

レルモ。テシテ至情藏晦醒ル強シス乃チ妄ニ豚ニ呉有可
コ期相ト。テ狀府眼難者ナ醒昧ル花キアル稟ト言其必蒼
トセヒ此ハシ及者リ。者。斯ス發其則考賦及者リ。者。テモ動ナ洪飲疫
ノシス為テルノヒア酔壮判神シ。リ。酒邪
如テルニ一。谷頭リ。易熱白思醒其シノシ論ス
シ。相ニ言ナ谷異痛呼クスナ終後変テ如ク
嘆ヒ足フリ。自更ス欠レヘル全シ數。ク
ス似ル所醒同ニル及テノ者乱然言気ル
外ナラス。則チ其外証ノ
ス。梅ン建テ治シ處セントシテ。百尓皆
已ムノミ。○是シ以テ予宜ニ隨テ只其一二ノ種

然トモ其因ハ是

候各異ナリト雖モ。皆一同源ナルコト。此ノ醉者ノ情態ニ於テ觀スルトキハ。則チ以テ其義ノ發明スルニ足ル。夫レ醉者ノ情態。各各兩個カラ云。

右第百七章。精神錯亂ノ大較ヲ論ス。

夫レ諸腦ノ運動全ク循行灌漑セラルルコト。次序ヲ失ハスシテ榮養スルノ間ハ。其人必ス心意知覺ヲ保テ。精神ニ於テ變乏スル所アラサルナリ。然ルニ若シ諸腦ノ運動全カラス。良善ナル精氣ヲシテ循行灌漑セラルルコト。他ノ外物ノ所因ニテ。其次序從テ變

スルコト有トキハ。則チ其難ノ多少。障礙ノ微甚ニ隨テ。諸般ノ精神錯亂ノ種類ノ旁生シテ。種々同シカラサルノ証ヲ發スルコトヲ得ルナリ○其精神錯亂ノ証。ナラヒニ其病因。若シ增長シテ過大ナルニ及テハ。其發スル所。迥ニ夐絶殊異ニシテ復タ同困ヨリシテ生スト謂ヘカラサルガ如ク。然ル者アリ。知スハアル可ラス。

右第百八章。精神錯亂ノ病因ヲ論ス。

若シ人アリ慓悍酷烈アルヒハ慘憺醞腊ナルノ諸飲ヲ用テノ後。多時ナラスシテ此ノ精神錯亂ノ証ヲ發スルコト有ハ。則チ彼ノ飲酒シテ酩酊セルト一般ニシテ。大抵コレニ傍テ發シ來ル酔眠ノ中ニ消散シテ。尓後従テ故ニ復スル者ナリ。此其精氣ノ外物ニ震盪湧發セラレタル者。尋テ稍々ニ吾カ體中ノ生氣運動ノ主能ニ因テ。即チ人身中ノ自然ノ良能。第四章及ヒ第三百七章等ニ考ヘ論ス。其物ヲ包攝降伏シ。又従テ之ヲ外表ヘ排擯シ去ルカ故ニ。斯ノ時ヲ移スヘトキハ故ニ復スルコトヲ得ルナリ。○然トモ若シ精氣ノ震盪湧發スルコト過大ナル者ニ至テハ。其消散スルノ間モ。亦必ス之ニ應シテ多時ヲ須テ然シテ後ニ能クスルナリ。○此証ハ毎人是レ其被酒ノ致ス所ナルコトヲ知リ。且ツ其

多時ヲ ラスシテ醒復スルコトヲ明ニスルカ故ニ。復タ之カ為ニ治ヲ需ルコト有コト稀ナリ。○但其久ク連絡シテ右ノ雲蘊湯発ノ諸飲ヲ常将スル人ハ。善ク箇ノ精神錯乱ヲ発シ。歳月長ク治セス。遂ニ習テ性ト成ルノ慢ヲ生スル者ナリ。予カ歴視スル所。男子ヨリハ婦人ニ多ク此証ヲ発ス。此皆其慓悍酷烈ノ飲ヲ用ルニ因テ。其ニ染漬セラル、ノ致ス所ナリト知ヘシ。○此レ明ケシ其持久シテ慓悍酷烈ノ飲ヲ誤用スルノ過ニ因テ。斯ク大ナル患祟ノ寝出シテ。諸神経及ヒ諸脳ノ精氣。常行ノ次序ヲ過越シテ奔激迸散スルノ癖ヲ成スカ故ニ。生氣運動ノ官能ト雖モ。亦其カスル所ニ非スシテ。故ニ復スルコトヲ為スコト能ハス。ス云コト。此証夫ノ曼陀羅花及ヒ弼尓生格禄乙突ヲ用ルニ於テモ。亦コレヲ発スルヲ見ル。且ツ有ノ麻痺ニ。耳痛ニ。人事不省ニ。内服スレハ。其用ヒ方ニ。外用シテ。諸腫ヲ治シ。脚痛ヲ止ムル者ノ如キハ。其刺ス所ノ穴ニ。中テ多格禄乙突ノ其性大寒ニ。シテ。諸腫ヲ催シ。痛ヲ発スルニ。其子コレヲ服スレハ。口舌麻痺シ。目睛黄渋ラク。白睛赤クシテ。紫條ヲ現シ。面色青黒ク。精神恍惚トシテ。譫語妄言シ。或ハ狂躁シテ。自ラ制スル能ハス。又云ク。曼陀羅花ノ其性タル。烏斯加本草ニ云ク。曼陀羅花度澁ノ草ニシテ。形状銀杏葉ノ如ク。而シテ大ニ。高サ数尺。葉ハ長サ大ニ。寒ヲ経テ。荒野砂地ニ生ス。其花長ク。突出シテ。小濶鐘ノ如ク。而シテ多ク。重弁ニシテ。或ハ単弁ニシテ。或ハ黄或ハ白或ハ紫或ハ黒色ヲ帯ヒ。結実ハ大ニ。圓長ノ嫩莢ヲ成シ。中ニ腎形ノ黒子ヲ蔵ス。其葉ハ

廃荒散脱セル。其記ノ微劇ニ因テ。他ノ動静ニ由テ。甚タ事ニ害アラサル者アリ。又胡動妄作殆ト人ノ困護ニ頼リ。許多ノ攪擾ヲ費ス者アリ。俱ニ終身治セサル者仍コレアル者ナリ。〇玆ニ論スル所ノ記ハ。復タ其所因ヲ考按スルコトヲ記載スルヲ須タスシテ自ラ能ク明白ナルカ為ニ例ニ依テ特ニ其治法ノミヲ説テ左ニ示ス〇斯ノ事ニ従フニ必ス須ク記得スヘキ者並ニ其良法アリ。先ツ宜ク諸般ノ慓悍酷烈ノ飲ヲ禁スヘシ。若シ右ノ如クシテ其証猶尚應シテ已サル者ハ。随テ即チ刺絡法ヲ行フヘシ。其著明ナルハ。身體ノ運動過度ナル者ニ施スヘシ。尋テ然シテ宜ク數清涼ナラシムルノ下劑ヲ飲シメ下利ヲ催サシムヘシ。其方第十二章ニ載ス。従テ其擧動ヲシテ静安ナラシメ。且ツ清涼ニスルノ法ニ従テ之ヲ將息スヘキナリ。〇差後ト雖モ。猶且ツ慓悍酷烈ノ飲ヲ用ルコトヲ禁スヘシ。何トナレハ。此証一タヒ發シテノ後ハ。甚タ再發シ易シ。而シテ其再發ノ際ニ及テハ。復タ初起ノ如クナラス。容易ニ治スヘカラサルカ為ナリ。

右第百九章。精神錯亂ノ酔汚染漬ニ因ルノ証治ヲ論ス。

凡ソ一身遍體ノ中。熱毒ノ影響滋ナル處ハ。或ハ此ニ於テシ。或ハ彼ニ於テシ。此ノ疆彼ノ界ト為リ。其在ル所便チ箇ノ熱毒ヨリシテ來ルノ諸見証ヲ發スルコト。亦增多ナル者ナリ。此レ其所在熱毒ニ擾乱セラルヽニ由テ尓リ。其熱毒ニ擾乱セラルヽニ由テ彼ノ擾乱ヲ受ルノ謂ニアラス。正モ。居然トシテ彼ノ擾乱ヲ布熙。其毒ヲ排擯斥除センカ為ニ。之ニ膚リ之ヲ熏熱瘡瘡ヲ發シ。即チ寒熱瘡瘡ノ諸篇ニ説ク如シ。〇若シ夫レ其毒ノ進テ腦中ニ至ル。則チ患人啻ニ第一章ニ陳スル所ノ熱病ノ諸徴候ヲ發シテ。且ツ甚劇重難ノ証ヲ現ハスニ至ル。腦ハ精神ノ存スル所ノ都城タルカ故ニ。第百六章ノ註。參看下ノ騒乱。他處ニ比スレハ其傷タルコト甚シ。是ニ於テ精神錯乱ノ變生ス。其呢喃。譫言妄語等ハ。是其精神錯乱ノ微甚ハ。憒。睡中人事昏躁暴發狂。高ニ登テ歌ヒ。水ニ投テ避サル者ナリ。若シ夫レ衣ヲ裂キ走リ。垣ヲ踰ヘ屋ニ上リ。火ニ赴キ避ケル。是其甚シキ者ナリ。

熱ノ發作ノ多少ニ隨テ異ナリトス。〇治療ノ法。第十二章ニ陳スル所ノ常例ノ熱病ノ治ニ隨テ之ヲ療スヘシ。但其中並ニ多ク下利ヲ為サレムヘシ。以テ其頭腦ニ衝逆スル所ノ毒ヲ下降シテ。之ヲ下利ニ從ハシムルカ為ナリ。即チ清涼ナラシム下劑コレヲ主ル〇若シ其精神錯乱ノ候。時有テ來去スル者ハ危カラズ

トス。若シ然ラスシテ。長ク遷緩シテ斷ハス。所謂ル發狂熱ナル者ニ至テハ。則チ更ニ危シトス。何ドナレハ。若シ其証已ニ精神錯亂ノ候ヲ見ハスニ至ルハ。則チ熱毒已ニ腦中ニ深入シテ攪亂スルノ致ス所ナリ。是時ニ方テ只其毒ノ下降シテ泄除センコトヲ望ム。然ルニ今却テ其頭腦ニ底止滯著スルコトヲ辨シ。若クハ之ニ加ルニ稀清ニシテ透明澄徹ナル小水。彼ノ白淫ニ代テ發シ。未ルコト有ニ値ハ、。コトヲ慮圖シテ可ナリ。此其熱毒ノ瀉下シ除ノ(自注ノ説。第六章ニ見タリ。)其大ニ危キコト能ハサルカ為ナリ。

○精神錯亂ノ熱病ニ發スルニ於テ亦甚危キ一証アリ。此其熱毒ノ過越シ。進テ壞液病ニ變シタル者是ナリ。第二十五章ニ詳ナリ。何トナレハ。血ノ相當スル所ニ非ス。而シテ發汗劑ヲ與シハ亦却テ其譫妄ヲシテ益甚カラシム。然ラハ則チ如何カ從事シテ可ナル。條ノ巾帛ヲ將テ之ヲ醋ニ蘸シテ。用テ以テ頭首ヲ圍繞シ。従テ第二十五章ニ載ル清涼ニシテ且ツ腐壞ヲ救復スルノ藥劑ヲ用ヘシ。而シテ其ヲシテ大ニ多ク下利セシメンコトヲ要ス。其方第十二章ニ記スル所ノ運動大過ノ熱病ニ用ル所ヲ與ヘ且ツ之ニ附スル

ニ少シノ催睡藥シ以テシ兼行フヘキナリ。

右第百十章精神錯亂ノ熱病ニ因ルノ証治

シ論ス。

凡ソ翁篤(シントク)私(ヒ)爹金(テキン)倔(グ)第(ダイ)六(ロク)十(ジフ)一章私(ヒ)斯(スト)但(タン)私(ヒ)ク鉾(ホコ)キ倔(グ)レル金(キン)ノ田(デン)テス帥(スイ)義倔(グ)テ下等(カトウ)ノ小(セウ)ノ十藍(ランニ)者(モノ)。在名十名リ。赤(アカ)ハ杉(スギ)テアルヲ然(シカ)ト。漢田(カンデン)能(ヨク)リ。者(モノ)ソト等(トウ)深(フカ)ク玄(クロ)ク又(マタ)ハ。テモノキ重(ヂウ)ク。其名者(ソノナハ)深(フカ)ニリ。其(ソノ)蒲(ホ)之(ノ)肌(ハダ)ノ白(シロ)キ雖(イヘドモ)私(ヒ)章(シヤウ)ノ脫(ダツ)ノ註(チウ)ノ而然(シカレドモ)私(ヒ)ニ的出(テキシユツ)ス。モ。ノアル。ヲ是(コレ)キニ者(モノ)ノ。ヲ如(ゴト)ク鉾(ホコ)ス。其(ソノ)諸(モロモロ)昏(コン)迷(メイ)ノ。徴(チヤウ)者(モノ)。ヲ新(シン)蔓(マン)部(ブ)是(コレ)ノ。ヲ如(ゴト)ク倔(グ)ス。其(ソノ)部(ブ)ノ運動(ウンドウ)甚(ハナハ)タ。

強盛ニシテ膓脹スルコト。予カ著ス所ノ瘍科精選ノ中ニ論スルカ如クナルカ為ニ。即チ是レ其証ノ腦蓋膜ニ發スルニ至テハ閉固密塞セル處ナルカ故ニ。其運動ノ強甚ナルコト。固ヨリ宜ナリト云コト。以テ其義ヲ領シ易シ。是ヲ以テ復タ軽易ナル精神錯亂ノ証ニ非ス。箇ノ譫妄發狂。即チ此ノ者ノ証ヲ發シ。誘シテ共ニ隆盛ニシテ斷ヘサル壯熱有テ。身體火ニテ燒カ如ク。頭部ノ動脈尽リ強盛ニシテ鼓陽發跳シ。頭痛破ルカ如ク。耐忍スヘカラス。然トモ患者自ラ之ヲ告訴スルコト能ハサルニ至ル。此其已ニ知

覺シ爽失スルカ為ナリ。○其必ス發スル所ノ變証ヲ言フニ。若シ夫レ譫妄發狂ノ腦蓋膜ノ翁筭（シント）私篹（テエ）金倭（ゲ）ヨリ發シタルトキハ。病治スルコト稀ナリト知ヘシ。何ヲ以テ之ヲ言ハヽ。其癰腫（即チ翁筭ノ倭（ゲ）鉗（ル）私篹（テエ）ナリ）已ニ膿ヲ成スニ及テハ。其救ハレサルコト必セリ。此其腦中ニ在ルカ故ニ。其膿ヲ泄除スルニ所ナキカ為ナリ。○是故ニ。須ク始ニ於テ速ニ刺絡シテ瀉血スヘシ。夫ニテ十分ニ靜止セスハ。又復シテ刺絡スヘシ。且ツ第十二章ニ出ル清涼劑ヲ用テ。之ヲ下利シ。中ヲ將テ醋ニ蘸シ。以テ頭首ヲ圍繞シ。患者ヲシテ移テ風氣清涼ノ處ニ居シムヘシ。然トモ晴明ノ處ニ宜カラス。又陰ノ氣カヲ動作スルコトヲ防禦シテ。其ヲシテ安靜ナラシムヘキナリ○譫妄發狂ノ熱ト偕ニ發スルノ証。所謂ル發狂熱ナル者。皆尽ク右ノ腦蓋膜ノ翁筭私篹（テエ）金倭（ゲ）ヨリシテ將ニ然ントスルノ候ナレハ。箇ノ羅斯（ラス）ノ如キモ。（上ノ翁筭私篹鉗倭ノ註ニ見タリ）其毒頭首ニ衝迫シ及ヒ其熱毒ノ致ス所腐敗ノ傷筒ノ諸液ニ加リ。以テ頭ニ輸送スルコト右ニ及テハ。俱ニ同ク譫妄作狂ノ熱ト偕ニ相伴テ發スルコトヲ為ス故ナリ。

右第百十一章。精神錯亂ノ腦蓋膜ノ翁筭（シント）私

遠西

日本 津山 宇田川玄隨晉譚
醫官法眼 桂川甫周國瑞閱

玉函涅斯垤我爾德兒著

曷郎布蘇對布的列金倔篇第十八

曷郎布的列金倔及ビ蘇對布的列金倔ノ二名ヲ。併セ題スル十リ。曷郎布的列金倔ハ。神經筋條ノ拘攣急了奏スル症ヲ。並ニ其別アリ。攣引ノ義ト雖モ。散文ニ於テ對スル時ハ。共ニ相通スルコト。本文ニ見ヘタリ。即上第六十三章ニ論スル。敗黒膽汁。血脉ニ混淆シ。從テ上コレヲ腦中ニ輸セハ。一種ノ精神錯亂ヲ來ス者ナリ。之ヲ膽汁敗黒病ト謂フ。然トモ其症只資性ノ壞液ヨリ生ルタルヲハ。之ヲ非剥毘堕兒ト通稱ス。其症乃チ精神急思ニ於テ缺損スル所有モノナリ。其詳ナルコト已ニ第六十五章第六十六章ニ於テ之ヲ論セリ。

右第百十二章。精神錯亂ノ証治ヲ論ス。

西說內科撰要卷七終

漢醫ノ所謂ル痺痙攣風。角弓反張。搐搦。抽。瘛瘲蹉寧。筋惕肉瞤ノ類。皆コレニ屬スル者アリ。並ニ病者ニ詳ニス。

凡ソ吾人意ノ欲スル所ニ動靜云為スルコトヲ得セ使ルノ諸筋。若シ吾カ思フ所ノ外ニ。卷縮引急シ。伸ヘキ所ニシテ自由ニ伸ビス。又動スコトヲ要セスシテ自ラ掣抽シ。又胃ト腸トノ如キ。矛常是レ動作運用ヲ為スカタメノ諸器ナルニ非ルニ。右ニ係リ存スル所ノ筋條。彼ヨリシテ自ラ拘攣掣急等ノ証ヲ發ス。此ヲ名ケテ的列金倔ト云。又蘊對布的列金倔トモ云ナリ。〇別テ之ヲ言ヘハ其証若シ長ク緩弛セスシテ。稽留固滯スルコトアル。乃チ吾輩コレヲ名ケテ羅甸ニ所謂ル的斯奴斯ナリ。其休止スル時有テ。復タ強ク發ルヲハ。右ノ所屬トシテ之ヲ藴對布的列金倔トス。羅甸ニ所謂ル昆弗尓叔ナリ。然トモ右ノ二種大抵通シテ同名モテ稱スルノミ。

（寶函ニ藴對布ト。通云。他ニ非ルナリ。）

右第百十三章。曷郎布藴對布ノ大較ヲ論ス。

前章ニ言フ所ノ如ク。吾人意ノ思フ所ニ迎ヒ。又思ハサルニ之ヲ得ル。何レ意思ノ自由ニスルニ二條アルナリ。即チ運動セント欲スルヲ俟テ然シテ後運動スル者ト。思欲ト能ハサルノ運動ニ二ツ

（思ハサルニ之ヲ得ルモ亦是レ意思ノ自由ニスルノ運動ノ部ニ屬スル病ナリ）

即チ常ノ如ク主動此ノ二樣アルヲ是ノ者ニ右ノ運動ヲ發スルナリ

今意ハシテ動カズ一也

身体ノ運動右二條ニ外ナラズ

「運動ノ此患ヲ発スルヨト」トイル方意ニヨク熟考スベシ

ニ隨ハスシテ内ヨリ自然ニ運動スル者トナリ。喩ヘハ手足ノ如キハ。運動セント欲スルニ非レハ。運動セズ。然ルニ今思ハサルニ自ラ掣曳スルモ自由ナラス。是レ一ナリ。又胃等ノ如キ。其運動元ト一人意ニ隨フ者ニアラス。腸亦動カスコトヲ欲セズ。然レトモ自由ニ今拘攣急ス。是レ二ナリ。右二條ノ思欲ニ迕レ外ナル運動ヲ此患ヲ発スルコト。其部ヲ一ニセズ。然レテ其発スル所。又必ス能ク人身シテ谷自其営為ノ官能ヲ失ハシム。其証候ノ発スル所甚タ多端ナリ。是ヲ以テ各自ニ名ヲ蒙ラシメ。其名ニ據テ之ヲ極メント要スル時ハ。帝ニ勝テ窮尽ス可ラサルノミニアラズ。却テ眩亂紛糾シテ。錯誤ヲ致シ易ラシムルニ足ル。學術ヲ精究シ事

此運動ハ是レ常ノ運動今則拘攣急引ス而

理ヲ研明スルニ非ルヨリハ。斯ニ辨晰ナルコト能ハサル所ナリ。○此病ノ諸証ヲ発スルコト。甚彰明較著ナル状態ヲ発シ。且ツ甚タ相ヒ迥異ナルノ別候ヲ形スナリ。此其発スル所既ニ然リ其部ヲ一ニセサレハ。主動モ亦隨テ各同シカラサルニ因テナリ。是ニ於テ人其標ヲ殊ニシテ本ヲ同シ。百候ニシテ一原ナルコトヲ知ラス。患者ノ常情。乃チ醫家ヲシテ証ヲ尋テ標ヲ逐ヒ。詳悉ニシテ遺スコト無ラシメノミコトヲ欲シ。異状委曲。鄭重ニシテ自ラ已ムコト能ハサルニ至ル。以為ラク必ス關係スル所有テ。大ニ施術ニ裨益アラン

王莽徐非皇天所以鄭重符命之意注即重犹頻頻

ト。必シモ然ラサル十リ。○其治法ノ要トスル所ハ。大畧其殊異ナルニ拘泥セス。只其痼疾ノ辨察ヲ精シクシテ務トス。是ヲ以テ予爰ニ其傍ヒ來ル所ノ諸証。若クハ先ツ發スル所ノ徴候ヲ以テ。各異ノ所因ヲ察スルノ諸件ヲ陳列シテ。由テ治療ノ術ニ從事セシメントス。

右第百十四章。曷郎布藹對布ノ分別ヲ論ス。

夫レ死シタル身體ニ於テ。此病ノ發スルコト能ハサルニ就テ之ヲ觀ルニ。生活セル間ノ諸運動。悉ク是レ精氣ノ灌注シ入ルニ因テ。之ヲ營為スルコトヲ知ル。則チ此病ノ發シ來ルコト。是レ精氣ノ諸筋或ハ細筋纖條ニ灌注シ入ルコト強甚ナルカ為ニ。其運動吾人ノ意外ニ出テ。思欲ニ聽從セサルコトヲ致スコト明ケシ。是ニ由テ之ヲ觀レハ。其曷郎布的列金倔ヲ發スル所ノ精氣強クシテ。相ヒ知ヌ是レ其灌注シ入ル所ノ精氣強クシテ。相ヒ持シテ除サルノ致ス所ナルコトヲ。只其藹對布的列金倔ニ於テハ。是レ其精氣ノ強ク灌注シ入リ。然シテ時々休止スルコト有テ。又再ヒ強ク灌注シ入ルコトヲ為スナリ。○右ニ説ク所ハ。此其内因ヨリシテ常ニ然ル者ノミ。自餘尚其由ル所復ニ殊ニシテ。斯ニ非常ノ運動ヲ發スル者アリ。

宜ク與ニ現ハス所ノ諸証。若クハ前ニ有ル所ノ徴候ニ據テ之ヲ明ニスベシ。○其所因ニ従テ善ク生平意ニ随フノ運動ノ得テ及フコト能ハサル至強ノ動作ヲ發スル者常ニ多シ。

右第百十五章。昌郎布蘊斯布ノ内因ヲ論ス。

夫レ吾輩若シ曾テ歴試シテ大ナル去血ノ証。亦尋テ蘊斯布ヲ發スルコト有ルヲ知ルコト無ハ。則チ此病原極テ精氣灌注ノ強甚ナルヨリシテ發スルノミト妄意ニ謬解スルコト有ベシ。何トナレハ。徒ニ其精氣ノ強甚ニ出ルコトヲ知テ。未タ其虚缺ニ出ルコトヲ知ラス。偶其証ニ値ハ、則チ將タ曰ン。去血是ノ若ク其レ大ナリ。精氣那ソ虚缺セサルコトヲ得ン。蘊斯布ノ証。法當ニ無ルヘキ所ナリ。斯人ニシテ斯証アル。怪ニ非レハ則チ變ナリト。夫レ此ノ如クハ。病ヲ証ヒ事ヲ誤ルコト孰カ焉ヨリ甚シカラン。○是故ニ蘊斯布ノ原尽ク前章ニ説ク如シト謂フコト勿レ亦。虚缺ヨリモ發スルナリ。此レ生人ニ歴試シテ明知スル所ナリ。○即チ此証ノ發スル。必シモ大ナル脱失ノミナラス亦唯其精氣ノ憑テ以テ本資トナシテ其護養ヲ仰ク所ノ諸血液ヲ禁忌ヲ避ズ。部分ヲ論セスシテ妄ニ之ヲ刺瀉シ。或ハ其他

諸ノ脱漏ヲ催スカ如キ謬施誤治等ニ因テ。仍能ク此証ヲ將出シ来ル者有ナリ。〇之ヲ要スルニ其蘊對布ノ来ルハ。外表諸末ノ血ノ脱失ニ因ラス。只是レ脳中ノ血ノ虚缺ニ因テ発スル者ナリ。〇是故ニ。此証ニ臨テ最第一ニ緊要トスル所ハ。大約此血ヲシテ心藏ニ輻湊セ使ルコトヲ為スノ諸術ナリ。假令ハ婦人産後。又ハ氷腫ヲ患ルノ人。其水ヲ利スルコト大甚ナル。又ハ大ニ泄瀉シ。及ヒ暴卒ニ下利シタルカ如キ。宜ク患者ノ腹上ニ據按シ。其血ヲシテ血脉管中ヨリ心藏ヘ流レ入ラシメノ。患者ノ頭脳ヲシテ體軀ヨリ高カラシムルコト無ルヘシ。

右第百十六章。蘊對布ノ脱血ニ因ル者ノ証治ヲ論ス。

若シ夫レ血ニ自己ノ力ヲ以テ孤行スルノ運動アル者ナル時ハ。則チ此証ニ臨テモ。亦其自ラ脳中ニ資給スルノ多キ。以テ精気ノ灌注シテ強甚ナラシムルコト。固ヨリ知リ易シトス。然トモ血ノ質タル。行止已ニ由ル者ニ非ス。一ニ只他ニ牡スル者ナリ。（第百二十二章ヘ併セ考フヘシ。）是ヲ以テ偶爾ク鼓動激躍セラル、ニ由リ。使メラル、所アレハ。則チ時有テ精氣ヲ資スル多外ニ越テ。大過已甚ノ

衝逆ヲ為シ。ソテ蘊對布ヲシテ發スルニ至ルナリ。○其蘊對布ノ發スルニ當テ。諸ノ多別ノ辨スルニ及ハス。只是レ其多血ノ人ニシテ。假令ハ平常諸ノ出血スルコト有ルガ。俄ニ之ヲ障礙停住スル所アルニ於ルカ如キニ値ハヽ。則チ宜ク先ツ刺絡シテ瀉血シ。患者ヲシテ頭ヲ置クコト高カラシムヘシ。而シテ諸ノ其腹ヲ固抱緊束スル者ヲ解後シテ之ヲ除クヘシ。餘ハ之ヲ處治スルコト。第百二章ニ載ル頭旋眩冒ノ義ニ從テ。講明シテ施術スヘキナリ。

右第百十七章。蘊對布ノ多血ニ因ルノ証治ヲ論ス。

吾人生活セル身體ニハ。自然ノ良智常道アリ。凡ソ之ニ侵刺襲入スル者アルニ値トキハ。其處必ス元運ヲ發動增益シテ之ニ膺當ス。只其侵刺襲入スル所ハ一ナリト雖モ。身體ノ中コレヲ受ル部分ニ於テ。強弱堪不堪ノ差異アルコトヲ致ス。假令ハ人ノ心思意想ノ諸運動ノ如キ。尤モ其差異ナル者ナリ。所謂喜怒憂思悲驚恐ナルモノ類。外ヨリ入ルコト。他ノ外侵者ノ類ヨリハ。尤モ心意ニ襲易シテ感動シ易シ。然ルニ茅ヲ服レテ汗ヲ未レ晞ス。人偶痲サルトキハ。猶得サルコトアリ。誓叔夜カ養生論ニ。嬰情一タヒ萌スレハ沽ス。思フ。曾子哀シ含ムトキハ七日寐ズト云ノ類。亦是ノ物ナリ。

吾輩

或獲而愧集トモ
漁流離於於
茶然トシテ睡ンコトヲ
貧食飢

其中ニ就テ又細ニ之ヲ求ルニ。淺輕ノ因ト雖モ。其感動スルコト甚タ敏速ニシテ且ツ大ナルニ至ルコト。迥ニ別ナルノ一件アルコトヲ見ル。即是レ強壯ノ人ト虚弱ノ者トナリ。虚弱ノ人ニ於テハ。其因甚タ鮮少ナリト雖モ。其感動スルコト。強壯ノ人ヨリハ敏速ニシテ且ツ大ナルニ至ルモノナリ。○其心思ヲ勞動スルノ因。常ニ多クハ長ク續テ失意凶禍等アル。驚怖スル所アル。諸液ノ大ニ脱漏スルニ値フコトアル。長病ニ嬰リタル等ヨリシテ。皆右ノ病因ヲ資ルモノナリト知ヘシ。○甚タ鮮少ノ因ニ始リ。其患終ニ過大ナル

ニ至ルノ最モ彰著ナルハ。其感觸ノ易キ。即チ婦女ノ常態ト云ヘル者。其中蓋シ幾多ノ深意ヲ含蓄ス。七情ノ感動シ易キニ諭ナシ。欲念妄動スル意思ヲ摸擬スルニ逐ケズシテ。專ラ其常態ノ中ニ在ル意思ノモノナリ。天資ノ固有ニシテ。稟性ノ脆弱ナル。其腹中諸藏ニ於テ。禁氣擾雜シテ次序ナキノ運動ヲ為スナリ。夫ヨリ漸々ニ増益シテ。多明ニ是レ上ニ向テ沖升スルコトヲ現ジ。終ニ頸ニ至ルトキハ。乃チ飲食ヲ送下呑嚥スルコトヲ妨碍シ。或ハ又呼吸ヲ障遏スルニ至ル是ヲ名テ子藏衝逆ノ証ト云。所謂ル母兒（ムスル）百爾（ペル）是ナリ。（第五十二章ノ註ニ詳ナリ。）

○此証増長滋甚ナルニ至テハ。遂ニ四末ノ神経

二浸及シ。終ニ其人ヲシテ人事ヲ省セサルニ至ラシムル時ハ。是ヲ名テ發兒連（發兒連ハ倭俗ノ義ナリ。詳ニ病考ニ載ス。）ト云。發兒連病ニ種四支ニ於テ甚タ驚異スベキ奇狀ノ舞蹈ヲ發スルノ証ヲ得ルコト有ルニ至テハ。是ヲ名テ舞蹈病ト云ナリ。醫學寶函ニ曰ク。舞蹈病ハ。妄ニ手足身体ヲ運動スルコト。甚タ驚異スヘキノ奇態ヲ為ス。躍動ト謂ヒ。亂動ト謂ヒ。蘇ト稱スル。是ナリ。○右等ノ諸証ニ於ルカ如ク。自餘尚証ヲ逐テ人コレニ許多ノ諸名ヲ布演スルコトヲ為スト雖モ。予ハ則チ之ヲ濫名ニ屬シテ用ナレトモ。其諸証皆是レ起原ヲ殊ニセサルカ故ニ。同シ法方ヲ以テ治スヘキカ為ナリ。○又。爰ニ明ニ知ル人身神経多シテ感纖シ易キノ部ノミハ。其神経液ト雖モ亦寒シテ酷傷ヲ為シ稀涼ヲ為スコト敏疾ニシテ。上ノ第二十六章ニ記スル所ノ自寒ノ壞液病ヲ將出シ來ルコトヲ。○夫然リ。故ニ其人鮮少ナル因リ。外ヨリスルノ感纖シ易キカ致ス所ナルノミニアラス。内ヨリモ亦自ラ其酷屬液ノ刺戟侵襲スルニ因テ。蘇布的列金倭ノ疾ヲ發スルコアルナリ。○是ヲ以テ藥ヲ用テ唯タ其外証ノ蘇布ヲノミ治セントス可ラズ。亦其内原ノ稀涼ナル酷屬液ヲ連テ攻治スルヲ以

テ緊要トスヘキナリ。○若シ唯其標記ノ治セント要セハ。條ノ帶或ハ何ニテモ右樣ノ物ヲ取テ。胃腹ノ周リヲ緊々地ニ縛(シバリ)ルヘシ。或ハ羅思馬理奴謨精。若クハ鹽。名義上ノ第八十七章ノ註ニ見ユ。或ハ羅思馬理奴謨精。若クハ乾白揮發鹽。又ハ乾白揮發鹽ノ製法。第八十七章ニ載ス。○若シ患者甚心思知覺ヲ失フ程ニ至ラズ。自後續テ長ク苦ヘズ。又ハ屢コレヲ發スルニ至テハ。須ク次ニ列スル所ノ方ヲ用ヒヘシ。

方

藿香水　四十八錢

羅思馬理奴謨精　二錢

琥珀　三分錢之二

揩爾忽刺室列阿勒腦　二十五滴

製法遠西名物考ニ出ス。諸ノ酸敗腐ヲ攻治スルニ甚捷利ニシテ。粘腐瘀蝕ヲ消解シ開發疏通スルコト逼ニ(シ)テ主ラ牢逵扭謨律規需謨　十五滴

製法第九十二章ニ出ヅ。

白蠟栗余利別　四錢

製法第五十三章ニ出ヅ。

右件藥。合シテ調勻シ。小半時毎ニ一匙ヲ服スルコト。甚記ノ者ルレシ半時若クハ一時毎ニ。一匙ヲ服スルコト。其差後ト雖モ。尚ホ一兩日ノ間ハ爾スベキナリ。

十

若シ其疾意ノ如ク治セハ。即チ宜ク其胃腹ヲ緊縛シタル帯ヲ解クコト。須ク徐々トシテ稍々ニ之ヲ緩緊シ。ソシテ降ク至ルヘシ。何トナレハ。其強ク膨漲シテ諸臓ノ運営ヲ逼住シ。且ツソノ悪証ノ従テ来ントスルヲ遏止シタルカ故ニ。若シ急ニ遽テ、之ヲ弛ルトキハ。諸臓勢ニ乗シテ復発スルカ故ナリ。是事予カ幾回トナク現ニ目撃シテ然シテ第二十六章寒壊液ノ篇ニ記載スル所ノ方ヲ用ヒムベキナリ。〇此病ニ於テ。其尤顕赫ナル殊功ノ劑ナリ。之ヲ左ニ示ス

方

乳香　各一銭
琥珀
按尓撒謨　亭露非亞尼　六滴
香櫟皮油　六分
牢達扭謨阿芙蓉點謨　六十分銭之三
亭露非亞尼皮　適宜

右件茱。合和シテ。毎一銭二十九ト為シ。日ニ數回二九ヲ服ス。

右第百十八章。蘇斗布ノ感動シ易キ多神経ノ部ヨリ発スルノ治ヲ論ス。

小兒ノ蘇對布ニ於テハ。小兒ノ蘇対布ハ。小ニシテ
ハ癇瘓驚風等皆是ナリ。ニシテハ搐搦掣抽。大ニシテ
ナル大ニ殊異ナリトス。是ニ因テ其從事スルノ諸
法方ニ至ルマデ。秘スル所アリテ容易ニ之ヲ宣
說セズ。然ト雖モ尋ヌレハ則チ茲ニ其次第ヲ歷說シ
テ之ヲ示シトス。〇初生ノ小兒未タ其胎屎ヲ利
下セサルニ先タツテ。コノ証ヲ發スル者ナリ。須
ク知ヘシ是レ其聚蓄セル所。體中ニ停止スルニ
因テ。窶シテ酷烈ヲ為シ。其兒ノ為ニ疼痛ヲ催シ。
其小兒ノ體最モ柔脆ニシテ感動シ易キカ為ニ。
終ニ微ナル蘇對布ヲ發スルナリ。即チ譬喩而
埵兒國和蘭七洲ノ一ナリ。ニ之ヲ漢成健ト謂ヒ。其他ニ之
ヲ的兒迷念ト謂フ。蒲郎加爾都ノ醫術新論小兒
的兒廸急ノ証ヲ載ス。滴波門斯利斯国ニ称スル
国モ亦和蘭七洲ノ一ナリ。〇此証ニ臨テハ。次
ニ出ス所ノ藥ヲ用テ之ヲ利スヘシ。

方

大黃　各五分　第十章ニ註ス
撒兒尼禮潔別利多ト　千
薄荷水　二十四錢
滿那　二錢

右件合和シ。藥氣ヲシテ融化セシメ。漉過シ
テ滓ヲ去リ。半時若リハ一時半毎ニ。琶布ヲ杪

スルニ用ル所ノ小匙ヲシテ一匙ヲ與ヘ服セシメ。（甜布ハ。彼土通用ニテシテ小兒ヲ養フ所ノ。糜粥ノ如キ者ナリ。）大抵常用匙ノ四分ノ一ヲ容ル。匙ノ容量。已ニ第十三章ノ註ニ見タリ。多クハ其下利ヲ得ルニ至ラレムヘシ。尋テ尚能ク日ニ一兩度右ノ程ヲ、之ヲ用テ通利セシメ。胎屎尽ルヲシテ度トスヘシ。而シテ其記自ラ愈ユ。

○未哺兒ノ居室

要スルヿ初生兒右ノ記多クハ其初生ヨリ即チ之ヲ乳母ニ授テ其腸胃中ニ異物アラシメス頻ニ稠ク通シテ黒糞小兒ニ於テ之ヲ得ル時ハ胃腸ノ働キ未タ活潑ナラス此物其胎屎ヲ滌除セシメンカ為ニ。造化玄微自然ノ

自ラ癒ユ。

右ノ記多クハ其初生ヨリ即チ之ヲ乳母ニ授テ其生母自ラ之ニ乳セサルノ小兒ニ於テ之ヲ得ルモノナリ。此其初生ニ於テ。其胎屎ヲ滌除セシメンカ為ニ。造化玄微自然ノ妙ニテ。正ニ新娩ノ婦（蒲郎加尓都ノ娩術ニ排當置後ノ置ケキヨウ配）ノ常ニ殊異ナル性用ヲ具セル生母ノ初乳。所謂ビイスト私箕ナル者ヲ。常理ニ背テ之ヲ與ヘ。胎屎停住シテ右ノ患ヲ發スルノミ。（蒲郎加尓都ノ娩術ニ産後始テ新論ノ小兒初生門ニ曰ク。人或ハ以為ラク。出ルノ乳汁ノ其性常ニ異ナリ。ノ以テ兒ニ飲シムヘカラスト。殊ニ知ラス其常ニ異ナル所ノ乃是レ造物者ノ機巧全能ノ美ニ

（別件中ニ在ルノ需ス必ス之ヲ除去スヘキヲナリ）否則チ後遺病ヲ生シテ一箇ノ初乳哺兒常ニ堪ヘ難キ由テ之ヲ寫下ス哺兒ニシテ黒糞ノ如キ性質ヲ具スル時ハ胎屎ノ滌剔ヲ除去セサル為ニ是レ造物主ノ補剛カ内利カ小兒胎糞ヲ其下門ニ迫リ胎糞之方最良者即是生母ノ乳汁ナリ。

賊與スルコト愈到周悉ナル所以ナルコトヲ。何トナレハ。娩後ノ新乳。其初生ノ小兒ニ充ルカ為ノ其體ヲ清滌淨刷シテ。兼テ胎屎ヲ疏利スル故ニ。其性ヲ有スルノ物ヲ淨刷疏滌シテ。自然ニ容ニヤト。妙。其歳月ヲ歴タ復奚ソ人為ヲ爾リ。自ル小兒ノ如キハ。是ノ証ノ発スルコト。常ニ多ク。膓胃中ノ酷厲ナル酸敗液ノ所謂収兒ナル者ヨリレテ起ル十リ。此小兒ニ於テハ。夫ノ乳糜第十七章ニ詳リナヲ製造スルノ諸器。甚タ微弱ナルニ因テナリ。何トナレハ。或ハ蒸餅ヲ喫シ。或ハ乳汁ヲ飲テ。其製造ノ器微弱ナル故ニ。傳化セズシテ一所ノ温煖ナル中ニ欝滞スルヲ以テ。自ラ変壊シテ酸敗液ニ至ルトシルベシ。○茲ニ今小兒ノ蘇對布（トイプ）即チ驚搐（ケイレン）ヲ治スルノ。能ク適中切當ナルノ方某ヲ露シテ示サントス。此尽ク其秘スル所ノ者タリ。曰ク末兒叔尼斯（マルヒヌス）散。和蘭局方ニ出ツ。癲癇驚痰。搐搦（ケイレン）。亡神経諸疾。挛急拘攣等ヲ主治ス。其方遠西名物考ニ載ス。曰ク格密鉄泊更（ゲミンテイクム）散。和蘭局方ニ出ツ。其主治亦癲癇痰厥驚搐ヲ療シ。其氣ヲ開達シテ。敗液ヲ攻伏スル等ノ功アリ。曰ク珍珠及ヒ東方酢。譯載ス。曰ク珍珠及ヒ東方酢ヲ治スルノ効。是ナリ。答。小兒ノ形狀諸驚並ニ大人諸痫ヲ治スル。詳ニ遠西名物考ニ載ス。是ナリ。

○然ト雖モ。多ク秘スル所ノ方某ヲ授受スルニ及ハズ。蝋蛄石一品ニテ足レリトス。何トナレハ。是ノ物特ニ其酸敗液所謂収兒（マルヒヌス）ナル者ヲ攻治制伏シテ。其液ヲシテ消蝕セラレテ。復タ驚搐ヲ

發スルニ力ナカラレムルニ至ルカ故ナリ。○是
証ニ臨テ。施シテ最モ宜シク。且其功單ニシテ專ラ
厚キハ。便是レ後方ヲ然リトス。

方

蝋蛤石
鹿角霜　各一銭
琥珀
酒石　五分
橙皮油　三滴

右件藥。合シテ散剤トナシ。兌ニ銅緑ノ名。形圖ニシテ孔アリ。
徑七分
五釐許。ニ劑シテ。落ザル程ヲ嚥ミ。少シノ琵琶布前注

タニ児ニ取テコレヲ和シ與ヘ服セシムルコト。
日ニ數回。

其小兒若シ良長シテ。始テ。蓋ヲ生スルノ時ニ至
テハ。延テ蓋ヲ生スルノ疼痛スルガ為ニ。屢搐搦
故ニ。其時節ニ於テハ。小兒其蓋ノ
故ニ。其膈胃中ナル酸敗液ノ故トニ因テ。常トシ
テ一齊ニコレヲ發スル者ナリ。○是ノ証ニ臨テ
其能ク使用スヘキノ藥ハ。即チ前ニ出スル所ノ散
劑ナリ。之ヲ用ヒシ。而其方中ニ牢蓮扭謨阿芙蓉
黙謨ニ滴ヲカヘ調ス。ヘシ。阿芙蓉ヲ用テ製ス。睡
和シ。吐シ起シ痛ヲ定メ。血ヲ止メ。血ヲ崩漏ヲ治シ。血痢ヲ
療ス。ル等ノ功アリ。壽。寿。出ツ。遠。西名物考ニ

コレヲ譯載ス。○若シ之ヲ加ヘバ。須ク意ヲ用テ仔細ニ調勻スベシ。是其小兒一頓ニ多ク之ヲ服スルヲ能ハズシテ。稍々ニ之ヲ與ルカ為ニ。偏ニ和セザル所アルトキハ。適ニ其加味ヲ服セザルト一般ナルコト有ンコヲ恐テナリ。

右第百十九章。小兒ニ發スルノ論ス。

藥対布ノ誤

頭痛篇第十九

夫醫家者流。科ノ内外ヲ問ハズ。未タ嘗テ諸病ノ名稱ヲ識スハアラズ。是ハ故ニ。若シ為ニ療術ヲ記載スル者ヲシテ。徒ニ名ニ就テ之カ方ヲ處シ。甲ニハ宜ク某ノ方ヲ用ヘシ。乙ハ則某ノ劑ヲ用テ之ヲ主ルト曰テ。而斯ニ從事スル者。據テソノ其肯綮ニ中テ其治效ヲ奏スルコヲ得ヘカラレメバ。則論豈ニ容易ナラサランヤ。是ノ頭痛ノ一門ノ如キ。其証ト名ト。殊ニ知易シトス。何トナレハ。患者自ラ其疾ム所ノ狀ヲ說クヲ聞テ。即其頭痛ニ係ルコヲ知リ。其痛生ズル常トシテ之ヲ得タ

雪井云偏常発看同風

ルコトノ。今ニシテ新ニ発シタリト曰カ若キハ。則是レ所謂設撥剌魯細亞。若シ然ラスシテ久ノ之ヲ患ヒ。或ハ時々発作スト曰フハ。則是レ所謂又其痛一方ニ偏ナルコトヲ設撥剌亞。雪林ノ所謂頭風ナル者剌泥亞。漢醫ノ所謂偏頭痛ト謂或ハ只一箇ノ處ニ於テ之ヲ患ヒ。其痛廣カラサルコトヲ狀スルハ。則是レ所謂蒼剌吸私翻シテ丁子痛ト云。其痛ノ在ル所大ナラストシテ。丁子ノ剌タリト云コトヲ知ルニ足レハ痛ヲ為カ如キヲ云。タリト。〇諸般ノ名稱ヲ分別スルモ。固ヨリ名ニ據テ方ヲ處ス可ラサレハ。一モ治術ニ於テ益アルコトナシ。然ラハ則何如カ従事シテ可ナルトナレハ。只是其附來ル所ノ徵候ニ因テ。其病原ヲ明辨シテ。然後以テ其治術ヲ處置スヘキナリ。

右第百二十章。頭痛ノ。大較ヲ論ス。

吾人ノ身體。元来始成シタル所ノ常然ノ性。其精氣ノ循行流榮。所謂神經ノ中ヲ通テ。愈シテノ知覺ヲ主ルノ諸器ニ向ヒ行クナリ。若シ之ヲ抑塞スルコト有トキハ。其處則痛ムコトヲ為ス。此即有生ノ始ヨリシテ。然ノ構造スル所ニシテ。造物者ノ天工ナリ。〇是故ニ。凡百ノ感觸寒熱痛痒等ヲ知ルコトヲ主ルノ神經ヲ。或ハ押壓スルコトアリ。或ハ強暴非理ニ運動ス

ル等ノ事。皆是諸痛ノ原由トスル所ナリ。○其諸痛ノ發スル所。千百ヲ以テ算ヘシ。是ヲ以テ能ク其因ヲ蹤跡シテ斯ニ從事スルニ非ルヨリハ。何ンヤ。○予其幾多ノ中ヨリ。其最(モ)彰較ナル。常トシテ是ノ頭痛ヲ催スノ條件ヲ撰出シテ。茲ニ之ヲ示サントス。

病因

・右第百二十一章。頭痛ノ原由ヲ論ス。

凡ソ血液ハ。自己ノ力ニテ循行スルノ性アル者ニ非ス。其一身百體ヲ循行スルヲ為スハ。尽ク是レ動脈ノ所為ニ因テ。前行セサルヲ得ズシテ前行スルナリ。人須ク是ニ由テ以テ領解スベシ。其血ニ諸痛ヲ為スノ所以ナレハ。假令頭痛スルヿ有テ。是レ其騒擾シテ頭ニ衝突逆注スルノ致ス所ナルヘシト曰フト雖モ。它テ其因ヲ血ニ於テ求ルノ義ナキヿヲ。○右ノ如ク血ノ運動大ニ騒擾シテ頭ニ向フモ。唯血ノミ頭ニ衝激湊逆スルニ於テハ。常ニ頭痛スルヿハ無モノナリ。此其多ク熱スルヿヲ為シ。及ヒ動搖スルノ事技ヲ為スノ人ニ於テハ。必ス大ニ血ノ騒擾シテ頭ニ衝逆スルハ常ナリト雖モ。未タ曾テ頭痛ヲ患ルヿ有ヿ無カ故ニ之ヲ知ルノミ。○只是レ熱毒多ク頭ニ送ルヿヲ為シ。或ハ頭ニ滞住スルニ至

テハ。則其熱ノ発作スルニ。當テ頭痛ヲ得ルモノナリ。且ツ誘レテ頭部。鼓動シ。顔顳モ亦跳躍シ。耳ニ蝉鳴ヲ聞キ。面目赤色ニシテ脹起シ。患人自頻ニ小蛇ノ如キ赤條。及ヒ火光ノ飛迸シテ眼中ヨリ閃発スルヲ見ルコトアリ。夜中寐ルコト能ハス。又ハ微ノ鬱冒シテ醒了ナラサル等ノ諸証ヲ発スル者ナリ。熱毒ノ事第四章ニ説ケリ。○右ノ頭痛ニ至テハ。第百十一章ニ出セル譫妄発狂及ヒ発癇。若クハ第八十六章ニ載ル昏睡病ノ。前條（キタル）ナリト知ヘシ。○然レモ若シ爰ニ鼻血ニテモ発スルコトアリト雖モ。則其痛甘キ。復右ニ列挙スル所ノ悪候ノ隨テ来ントト知ヘシ。○是ヲ以テ是ノ如キノ頭痛ニ逢ハヽ。宜ク數刺絡シテ瀉血シ。第十二章ニ出ス所ノ清涼ナル下劑ヲ用ヒ。而シテ尽リ予カ（精神錯乱）譫妄篇ニ於テ講明（説与）セシガ如ク。第百十二章ニ見ヘスヘキナリ。第百十一章及ヒ第百十二章。頭痛ノ血ノ衝逆ニ因ルノ証治ヲ論ス。

夫ノ患者頭痛ヲ告ケ。察スル所。配シテ彼ノ冒寒傷冷毒ノ諸徴ヲ具シ。其痛定テ一處ニ在ルコト人キヲ能ハス。只偶尓トシテ作発シ作止シ。條忽ト

テハ。則其熱ノ発作スルニ當テ頭痛ヲ得ルモノナリ。且ツ誘レテ頭部鼓動シ。顳顬モ亦跳躍シ。耳ニ蝉鳴ヲ聞キ。面目赤色ニシテ脹起シ。患人自頻ニ小蛇ノ如キ赤條。及ヒ火光ノ飛遊シテ眼中ヨリ閃発スルヲ見ルコトアリ。夜中寐ルヿ能ハス。又ハ微ノ鬱冒シテ醒了ナラサル等ノ諸証ヲ発スル者ナリ。熱毒ノ事第四章ニ説ケリ。○右ノ頭痛ニ至テハ。第百十一章ニ出セル譜妄発狂及ヒ発癇。若クハ第八十六章ニ載ル昏睡痛ノ。前條(サキ)ノ嘔吐(ヅ)ナリト知ヘシ。○然レ共若シ爰ニ鼻血ニテモ発スルヿ有トキハ。則其痛甘キ。復右ニ列擧スル所ノ悪候ノ隨テ来ントスルヿヲ恐ルヽヿナシト知ヘシ。○是ヲ以テ是ノ如キノ頭痛ニ逢ハヽ。宜ク數刺絡シテ瀉血シ。第十二章ニ出ス所ノ清涼ナル下劑ヲ用ヒ。而シテ講明(説ヲ)セシガ如クスヘシ。第百十二章ニ見ユ。

一ノ因ニ由ル頭痛ノ證治ヲ論ス

夫ノ患者頭痛ヲ告ケ。察スル所。配シテ彼ノ冒寒傷冷毒ノ諸徴ヲ具シ。其痛定テ一處ニ在ルヿ久キヿ能ハス。只偶尓トシテ作発シ作止ミ。條忽ト

シテ遷移スルヿ。高ヨリ下ニ至リ。眼目耳鼻。
齒牙咽喉。及ヒ自餘ノ諸部ニ於テ。其痛ヲ發スル
コトヲ為ニ値ハ、則其頭痛。是レ其骨寒傷冷毒所
謂聖京健ニ因テ發スル者ナリト知ヘキナリ。漢醫
ノ謂フトコロ頭風ノ証。素ト瘀アル者。或ハ欝沐鬱
冷ヲ取リ。酔飽シテ臥シ。賊風腦ニ入リ頂ニ入
リ。耳目口鼻。肩臂及ヒ頂項ノ耳ニ入リ。頸ヲ
サルヿアリ。或ハ耳聾シ。上下牽痛スル所ナリ。其通シ用ル所
ノ治法。前ノ第四十四章ニ於テ之ヲ記ス。是ニ
臨テハ。宜ク其頭首ヲ清潔ニシ。其毛髪ヲ刷浄シ
テ。コレニ灌洗スルニ次ニ記スル所ヲ以スヘシ。
方

羅思馬理奴謨精　八銭
急成礬砂精　一銭
右件藥合シテ調匀シ。使用ス。乏ヲ灌洗劑ト云。
隨テ廼チ尚且ツ香竄藥料ヲ用テ小枕子ヲ造リ。
以テ其頭ニ襯スルヿヲ為スヘシ。小枕子ヲ造テ
以テ用テ患處ニ貼スル。盛ルニ藥品ヲ
章ノ扶胃枕子ノ方アリ。第二百六
モテ造リタル小帽兒ヲ。又一箇ノ旃罽
奴謨ノ煙ヲ以テ。是ヲ熏スルヿヲ為スヘシ。
右第百二十三章。聖京健ニ因リ。ヲ論ス。
又其伊倔篤ノ酷厲液ノ外表四末ノ諸部ノ神経及
ヒ諸膜ニ嬰ル者。常トシテ善ク逃不過腦膜ニ浸

頭痛ノ証

淫シテ。屢耐難慾的ノ頭痛ヲ發スルノ変ヲ生スルヿ。亦甚多キモノナリ。○之ヲ察スルノ法。大抵定リタル第四十六章ニ列スル諸証ヲ以テ之ヲ候スヘシ。其較著ナル者ハ。其外表四末ノ痛消散スルヲ承テ。即チ頭痛之ニ代テ發スルヿヲ為ス者。是其徴ナリ。○是証ニ臨テ。之ヲ治センヿヲ要セハ。宜ク第四十九章ニ出スル所ノ伊倔篤ノ諸藥ヲ用テ。然メ且ツ宜ニ隨テ其液ヲ頭ヨリ外表四末一送リ發スルコヽヲ務ムヘシ。即チ斑蝥ヲ貼スルノ方ニ因テ之ヲ施スヘシ。第八十七章ニ出ル發泡術是ナリ。○考ヘラル。是ノ証ニ臨テ甚必用タルヿヲ識得ス。是ヲ一レムルヲ妙トス。○呼毒滲其法多端ナリ。要スルニ彼ノ毒ヲ在ル所ニ釣テ。此ニ聚リ。或ハ手足ニ或ハ項ニテ。之ヲ於ル所ニ填穿シテ。膿ヲ作リ。藥ヲ以テ。之ヲ發泡術ニ至ルヲ用ヒ。或ハ焼鉄ヲ以テ。其ヿヲ端ナリ。特ニ

○若シ其液聚瀦擁鬱積スルニ至レハ。頑悪ノ痛ヲ發シテ。頭重ヲ覺ルコトアリ。為スナリ。若其滞著底止スルニ因テ。変シテ酷厲ト為ルトキハ。則チ瞋目弥久ニシテ休止スルコト能ハス。○右ノ諸証ニ宜キハ。其停液ヲ泄除スルニ。臭ヨリスルコトヲ得ベシ。又下利ニ道シテ去ルコトヲ得ベシ。延テ次ニ列スル所ノ發遣劑ヲ用ヘシ。

方 茉莉 馬玉剌納 薄荷

藿香 各一銭
霸王鞭 六分銭之一
右件藥。合シテ散劑ト為シ。少許ヲ取テ鼻中ニ嗅引シ。以テ發嚏スルニ至ルコト。日ニ數回。

瀉利丸ノ方

安謨泥亜吉腊 一銭 世ニ盧會ヲ代用スル者アリ
蘇合香 五分
私甘謨扭毋 三分銭之一 没食子ヲ代用スベシ
羅思馬理奴謨油 五滴
酒石鹽 六分銭ノ一
右件藥。合シテ毎一銭ニ十丸子ト為シ。朝夕両

度ニ各六丸ヲ服ス。其下利ヲ視テ以テ其服度ヲ増減ス。日ニ下利スルコト三次ナルヲ以テ妙トス。

右第百二十五章。頭痛ノ頭中ノ欝液ニ因ヲ論ス。

夫レ胃ト頭ト。上下遠ク相隔處ストイヘドモ。其事甚相通レテ近一十ル者ナリ。其頭ノ諸疾何ニテモ常ニ善ク胃ニ浸淫スルヲ為ス。若シ上頭痛ヲ患ルノ人ハ。例シテ下必ス食ヲ欲スルヲ失フノ証有テ。是ニ配スル者ナリ。又其反對ニテ。下胃中ニ悪液等ヲ將未ルトキハ。則チ大抵上必ス頭痛ヲ偕ニスルヲ為スナリ。○是ヲ以テ頭痛ノ証ニ値フ毎ニ。是レ其胃中ノ欝積ヨリ致ス所ニ非ルヲ無ヤト云フヲ採察スルヲ緊要トスルナリ。何トナレハ。若シ右ノ胃中ノ因ナルニ。是ヲ思察セスシテ。徒ニ諸般ノ頭痛ヲノミ治セントスルノ藥ヲ用ルトキハ。皆勞シテ効用アルヲ無カ故ナリ。○若シ患人従来前ニ飲食ヲ思ハス。飲食スル所消化セス。酸臭液ヲ吐シナドスルノ証有テ。尋テ而シテ頭痛ニ陥ルヲアラハ。則宜ク先ツ第一ニ其胃ヲ浄刷スルニ第十五章ニ出セル吐劑ヲ以テシ。従テ而シテ第二十章ニ載ル健胃劑ヲ用テ。以テ其胃ノ官能ヲシテ再ヒ故ニ復セ

レムルヲ為スベキナリ。(二)其間須ク紡縲昏載
レタル所ノ丸子ニ由テ。大便ノ通利ヲ開達スベ
シ。抄トス。〇是証ニ臨テ。大抵ハ頭痛ヲ治スルノ
薬ヲ用ヒズト雖モ。見ヨ其頭痛自ラ差ルコトヲ。是
其頭痛ヲ為スノ因除クガ為ナリト知ヘシ。

右第百二十六章。胃中ノ悪液ヨリ発スル。ヲ頭痛ノ種治論ス。

病屬頸項

喉風篇第二十

従來羅甸ノ安及那ヲ譯スルニ。多クハ咽喉ノ翁篤私底金倔ハ。是ニ充ツ。然ルニ咽喉ノ翁篤私底金倔ハ。是レ安及那ノ中ノ一種ニシテ。其因翁篤私底金倔第六。十一章及ヒ百十一章ノ註ニ詳ナリ。文ニ統領スル并ニ外ニ義ト處ト。義處創稱ノ別アリ。而シテ重浅深ノ分ルヽ。而シテ其熟ノ統領スル冠冒スル者。大抵ハ。誰的是レ翁篤私底金倔ノ如キ。偏ニ熟ノ甚キ者ヲ指ス。其因翁篤私底金倔ノ如キ。偏ニ熟ノ甚キ者ヲ指ス。其因翁篤私底金倔ノ如キ。偏ニ熟ノ甚キ者ヲ指ス。

レムルヲ為スベキナリ。㊀其間須ク紡綿ニ昏載シ。
レタル所ノ丸子ニ由テ。大便ノ通利ヲ開達スベ
シ。抄トス。〇是証ニ臨テ。大抵ハ頭痛ヲ治スルノ
薬ヲ用ヒズト雖モ。見ヨ其頭痛自ラ差ルコトヲ。是
其頭痛ヲ為スノ因除クガ為ナリト知ヘシ。

右第百二十六章。胃中ノ悪液ヨリ発スルヲ
論ス。

頭痛ノ証治

病屬頸項

喉風篇第二十

従來羅甸ノ安及那ヲ譯スルニ。多クハ咽喉ノ翁
篤私底金倔ノ。是レ安及那ノ中ノ一種ニシテ。其因翁
篤私底金倔シソテ是ニ充ツ。然レ咽喉ノ翁篤私
底金倔ハ

ヨリ生スル者ニ係ル。未タ以テ全ク安及那ヲ尽スニ足ラス。而レテ喉風ノ名タル。原名蒲是レ膿特兒蘭陀（デフテリー）（アンヂナ）（ヂフテリー）（アンヂナ）（ヂフテリー）（アンヂナ）亦和蘭ヲ謂フ

是レ西垣兒蘭陀ノ人ノ遍称スル所ニシテ。其指シ言フ所ノ証候。即チ能ク安及那ニ合ス。因テ今其名義稱呼ノ馴正ニシテ相應シコヲ要シテ。改テ喉風ヲ以テ安及那ニ充テ。以テ篇ニ題スルノミ。其証候如何トナレハ。大凡其病ニ嬰ルトキハ。呼吸ヲ妨害スルコト有リ。又ハ呼吸飲食ナラヒニ之カ災ヲ共ニスルコト有テ。其原アルヒハ喉頭ニ在リ。或ハ咽門ニ在ルニ起リ。又ハ二ノ者一齊ニ病ニ係ルニ因ル。山ヲ喉風ト云ナリ。

右第百二十七章喉風ノ大較ヲ論ス

夫レ呼吸ヲ通シ飲食ヲ下ス。彰較緊要ナル両箇ノ營為ヲ妨害障碍スルコト。其由来スル所ノ原。甚多端ナリ。況ヤ自餘諸處ニ在テ。病ノ発スル所ノ一ニセス。共ニ同ク是ノ患ヲ為スニ於テヲヤ。宣ナル哉學識淺陋ニシテ。術業習煉ナラサルノ輩ニ於テハ。其病ヲ的認明辨スルコト能ハス。其証候如何カ處置スヘキヲ知リ難キニ困スルコト。固ヨリサル所ナリ。其所ニシテ復タ怪ムニ足ラサル所ナリ。

其上ナル証候ノ據テ以テ徴ト

ヨリ生スル者ニ係ル。未タ以テ全ク安及那ヲ尽スニ足ラス。而レテ喉風ノ名タル。原名蒲是レ膿毬兒蘭陀ノ人ノ通稱スル所ニシテ。其指シ言フ所ノ証候。即チ能ク整家者流ニ用ル所ノ安及那ニ合ス。因テ今其名義稱呼ノ馴正ニシテ相應シコヲ要シテ。改テ喉風ヲ以テ安及那ニ充テ。以テ篇ニ題スルノミ。其証候如何トナレハ。大凡其病ニ嬰ルトキハ。呼吸ヲ妨害スルコト有リ。又ハ呼吸飲食ヲ障碍スルコト有リ。或ハ飲食ヲ障碍スルコト有テ。其原アルヒハ喉頭ニシカ災ヲ共ニスルニ在リ。或ハ咽門ニ在ルニ起リ。又ハ二ノ者一齊ニ病ニ係ルニ因ル。山ヲ喉風ト云ナリ。

右第百二十七章喉風ノ大較ヲ論ス

夫レ呼吸ヲ通シ飲食ヲ下ス。彰較緊要ナル両箇ノ營為ヲ妨害障碍スルコト。其由来スル所ノ原。甚多端ナリ。況ヤ自餘諸處ニ在テ。病ノ發スル所ヲ一ニセズ。共ニ同ク是ノ患ヲ為スニ於テヲヤ。宜ナル哉學識淺陋ニシテ。術業習煉ナラザルノ輩ニ於テハ。其病ヲ的認明辨スルコト能ハス。其証候如何カ處置スト云フヲ知リ難キニ困スルコト。固ヨリ宜ナル所ナリ。〇其上ナル証候ノ據テ以テ徴ト

スヘキ者ニシテ。疑似蒙昧未タ明瞭ナラス。ソレテ紛錯ヲ致スニ足ル者アリ存ス。其呼吸ヲ妨害スルヲ徴セント欲スルトキハ。則チ肺ノ病ニ因テ亦能ク呼吸ヲ妨害スルコアリ。是ヲ喉風ニ屬セズ。徴ソテ徴トスルニ足ラサルニ非スヤ。抑亦飲食ヲ障碍スルニ據ンカ。則チ胃系ノ病アル。共ニ同ク飲食ヲ障スレ圧。亦算シ得テ此門ニ収メサレハ。其証ノ辨シ難キ。ソテ知ルヘシ。○其喉頭ナラビニ咽喉中ニ病アルモ。呼吸飲食ヲ妨害障碍スルコ無ク。只是レ生平ノ如ク十分安快ニ呼吸飲食スルト能ハザルノミノ患ナルトキハ。亦之ヲ喉風ニ係サル十リ。○假令ハ鼻中息肉ノ生シ。浸長シテ咽門ニ垂掛スルニ及フ者。（原名剥利普斯ト云ヘリ。醫学寶函ニ詳ナリ。）魚骨鯁及ヒ自餘何ニテモ咽中ニ梗塞スル者。喉頭ニ係ル所ノ筋痺スルニ因テ。暴啞シテ聲音ヲ作スコ能ハサル者。葛郎布的（カラップ）列金（ディキン）倒テ。頸部ニ給フノ筋拘攣製急シテ。分明ニ是レ夫ニ因テ咽喉閉塞シ来ルコ。子藏衝逆ノ証第五十章ニ第百十八章ニ見タリ。ニ於ルカ如キ者。食道胃系ノ諸筋痺シテ飲食スルコ能ハサル者。○右ニ列スル所。及ヒ自餘是類ノ病ニテ。呼吸飲食ヲ妨害障碍スト雖モ。輒必ス之ニ蒙ラシムルニ喉風ノ名ヲ以テ

スルヲ為ザルナリ。○加之（シカノミナラス）撰述家又其中ニ就テ。曲ニ許多ノ區別ヲ為スニ。其目立タル腫脹ノ有無ト。其咽喉ニ於テ腫脹ヲ發スルヿ内ニ於テスルカ。唯其食道ニノミ在スルカ。將タ外ニ於テスルカ。又ハ特ニ喉頭ニ在ヤ。抑亦二ノ者俱ニ痼ムヤヲ詳ニセス。蓋シ其術ニ於テ従事シ難キニ窘ムノミナラス。其吸蒲黄翁涅槃ノ秘ノ奈何ヲ以テ。許多ノ名目ヲ工夫シ出シタル者ノ家言ニ因テ。其目ヲ眩セシムルニ至ルヲ免レサルナリ。

○其吸蒲黄翁涅槃ノ秘ノ奈何ヲ以テ。許多ノ名目ヲ工夫シ出シタル者ノ家言ニ因テ。其目ヲ眩セシムルニ至ルヲ免レサルナリ。

○加之（シカノミナラス）撰述家又其中ニ就テ。曲ニ許多ノ區別ヲ為スニ。其目立タル腫脹ノ有無ト。其咽喉ニ於テ腫脹ヲ發スルヿ内ニ於テスルカ。唯其食道ニノミ在スルカ。將タ外ニ於テスルカ。又ハ特ニ喉頭ニ在ヤ。抑亦二ノ者俱ニ痼ムヤヲ詳ニセス。蓋シ其術ニ於テ従事シ難キニ窘ムノミナラス。其内外ノ深キ淺キ。筋膜ノ腫ノリ。且ツ其腫ノ屬テ筋ニ在ルカ。皮膚ニ在ルカ。其内外ノ筋ニ在ルカ。其内外ノ筋膜ニ在ルカ。其腫ノ屬テ筋ニ在ルカ。皮膚

縁ナク。以テ其對証ノ法方ヲ處置スルヿ能ハズ。是カ為ニ難キナリ。

右第百二十八章。喉風ノ多別ヲ論ス

喉風ノ熱毒ヨリシテ發スルノ証ニ。二種ノ同シカラサルヿ有ナリ。知ズハアルベカラズ。〇其一ハ。呼吸並ニ飲食ヲ妨害シ。且ツ痛ムヿシ為ス。其之ニ嬰ル多クハ初夏ノ頃ニ於テ暴卒ニ之ヲ得ルモノナリ。其初証悪寒振慄スルヿ。他ノ熱病ニ於ルカ如シ。夫ヨリ喉風ノ証忽チ之ニ續テ發ス。即チ咽喉或ハ頸外腫脹ス。又ハ腫脹スルヿ無ヿアリ。此其熱毒ノ多クハ咽喉頸部ノ諸管ニ鬱結滞住スルカ致ス所ナルヿヲ知ヘシ。〇此ノ一種乃是ヲ名テ真ノ喉風ト呼フナリ。〇右ノ一種ハ熱病ノ類ナルニ因テ。初ニ於テハ其部ニ腫脹スルヿ少シト雖モ。漸々ニ増益スルヿ有ヵ故ニ。須ク其究ヲ恐ルヘシ。畢竟必ス其熱ノ極ニ至ルニ先タツテ。咽喉必ス窒塞シテ。呼吸飲食トモニ全然トシテ壅絶スル者ナリ。〇是ヲ以テ宜ク先ツ第一ニ刺絡術ニ由テ瀉血シ。以テ熱毒ノ騒擾衝迸ヲ減シテ。之ヲ節ニスヘシ。若シ一次ニテ思フ程ニ差スハ。則其間久々廃置クヿナカレ。再ヒ報刺スヘキナリ。何トナレバ荏苒トシテ少クモ濡滞ス

ルトキハ。咽喉尋テ將ニ塞スルニ至ントスルカ故ナリ。〇又宜ク之ニ續テ清涼ナル吉利詞(ケリスデ)參兒(ル)及ヒ清涼ナル下劑ヲ用テ。其餘ノ物ヲ送下スベキニ及テ與ヘ行フヘシ。方ハ第十二章ニ出ツ。

〇又一箇ノ含嗽劑ヲ作テ。以テ之ヲ與ヘシ。以テ咽喉ヲ閉塞シテ其ヲシテ乾燥セサラシムルニ取ル。必シモ含嗽セス。

含嗽劑ノ方

玫瑰花
接骨木花　各半溢

水　八十錢

右件火ニ上セテ煮テ。濾過シテ滓ヲ去リ。次ノ藥味ヲ加フ。

石硫黄精　適宜
蜜　八錢

右ノ劑ヲ作ル。(二)酸味ヲシテ口ニ可ナルヤウ(ラシム)(ヘシ)之ヲ調和スヘシ。(ルコトヲ)方中ノ石硫黄精ハ是レ酸味ヲ爲スノ品ナリ。然ルモ若シ石硫黄精ヲ得ル能ハスハ。覆盆子汁液(二物モ)亦夫モ偶或ハ香櫞汁ヲ代用シテ可ナリ。若シ(ル)關ルニ値ハヽ則チ醋ヲ用テ此ニ渚入スヘシ。外用ニハ宜ク蒸餅毋(原名收兒埵(ヒウル デ)越及トス)蒸餅ヲ造ルニ必ス用ル所ノ者。

ルトキハ。咽喉尋テ將ニ窒塞スルニ至ントスルカ故ナリ。○又宜ク之ニ續テ清涼ナル吉利詞(キリステ)參兒(ルヂ)及ヒ清涼ナル下劑ヲ用テ。其餘ノ物ヲ送下スベキニ及テ與ヘ行フヘシ。方ハ第十二章ニ出ツ。(ニ〇ページ)

咽喉ヲ閉塞シテ其ヲシテ乾燥セサラシムルニ取ル。必シモ含嗽セス。

含嗽劑ノ方

玫瑰花
接骨木花　各半溢

水　八十錢

右件火ニ上セテ煮テ。濾過シテ滓ヲ去リ。次ノ藥味ヲ加フ。

石硫黄精　適宜
蜜　八錢

右ノ劑ヲ作ル。(二)酸味ヲシテ口ニ可ナルヤウ(ラシム)ニ(ヘシ)之ヲ調和スヘシ(ルコトヲ)。(二)方中ノ石硫黄精。是レ酸味ヲ爲スノ品ナリ。然ヒモ若シ石硫黄精ヲ得ル(ヒ)能ハスハ。覆盆子汁(ヒ)液(二物モ)或ハ香櫞汁ヲ代用シテ可ナリ。若シ亦夫モ偶闕ルニ値ハヽ則チ醋ヲ用テ此ニ淮入スヘシ。

外用ニハ宜ク蒸餅毎ヲ(原名收兒(シウル)埵(ヅ)越(ヱツ)及ト云。蒸餅ヲ造ルニ必ス用ル所ノ者。

皆麥 本個集約麥小麥 粉拌水和餅麥 裹待上蒸取晒 麩麵出本個麵集 約

ナシ。黄蒸麹麹ノ類トシ。名物考ニ詳ニス。

リ。亦名物考ト胡麻仁未トシ。ソシテ。琶布ノ罨慰スル上ニ。ヲ造リ。塩ヲ糝シテ之ヲ貼スベシ。○若シ酥淳ヲ得ルコト能ハス。酢及ヒ水ヲ用ルモ亦可ナリ。○若シ患人倥ノ容易ニ呑飲スヘキハ。為ニ大麥或ハ燕麥ノ麩ヲ煮テ。香櫟汁及ヒ撒兒布爾涅而刺少許ヲ加テ。箇ノ飲劑ヲ製シ與フヘシ。鹽學寶曰ク。燕麥麩ハ。治シ。碎セル者ヲ取テ煮服シ。主テ出サルヲ。殊ニ必用タリ。又舎利別ニ用ル法アリ。痂ヲ治スト。第二十五章熟壊液ノ物ナリ。○其

ノ其毒ヲ咽喉ニ移スニ因テ忽チ起ルコト能スルナリ。然ト其来ル甚遅シ。尤較著ナルハ。熟ノ終ニ於テ發ス。是ニ由テ大抵ハ救ハレサルニ至ルの此其咽喉ノ其部狭隘ニシテ。爾ノ膿壊セル熟毒ヲ多ク容納スルニ足レル餘地有ルコト無ガ為ナリの縦ヘ幸ニシテ死セサルコトヲ得ルモ。多クハ皆変シテ肺癰或ハ内癰ノ留ニ在ル者の胸内癰ハ即チ東西病考ニ詳ニスの

右第百二十九章。喉風ノ熟毒ニ因ルノ記治ヲ論ス。

夫レ羅斯及ヒ翁篤（ロウトニ）私爹（テエキニ）金倔（グ）共ニ第六十一章及ヒ百十一章ノ註ニ

名物考ニ詳ニス。亦名物考ト胡麻仁ニ未ト詳ニス。
粉粹水和放餅焙裏待上至夜取晒
裏待上至夜取晒出本個麹集名

ノ造リ。頸ノ攣レテ之ヲ貼スベシ。○若シ酥淳ヲ得ルコト能ハスハ。酪及ヒ水ヲ用ルモ亦可ナリ。○若シ患人僅ニ能ク容易ニ呑飲スヘキハ。為ニ大麥或ハ燕麥ノ麭(ヒキワリ)砕セル者ヲ取テ。水ヲ以テ之ヲ煮テ。香橼汁及ヒ撒兒布爾(サルプル)涅而(ヲルテ)剌少許ヲ加テ。箇ノ飲劑ヲ製シ與フヘシ。鹽學寶函ニ曰ク。燕麥麭ハ咽風咽喉熱腫スルヲ治シ。又咳嗽ヲ療ス。熱病ニ於テ。殊ニ必用タリ。又舎利別ニ製法アリ。疱瘡(ホウサウ)卧爾(トル)散児(サルプル)ト。第二十五章熱壊液ノ物ナリ。○其ノ毒ヲ咽喉ニ移スニ因テ忽チ起ルコトヲ能ス

ルナリ。然ト其来ルコト甚遅シ。尤較著ナルハ。熱ノ終ニ於テ發ス。是ニ由テ大抵ハ救ハレサルニ至ル。此其咽喉ノ其部狹隘ニシテ。膿ノ膿壊セル熱毒ヲ多ク容納スルニ足レル餘地有ルコト無ガ為ナリ。縦ヘ幸ニシテ死セサルコトヲ得ルモ。多クハ皆変シテ肺癰或ハ胸内癰ノ胸内ニ在ル者ト為ル者ナリ。胸内癰ハ即チ東西病考ニ詳ニス。

右第百二十九章ノ熱毒ニ因ルヲ論ス。

夫レ羅斯(ロス)斎剌(ヘラ)斯蘇(サルサ)森ニ

夫ノ羅斯ヲ斎剌斯蘇森ニ第百二十一章ニ詳ニス。
古第百二十七章ノ回虫ニ第百二十一章ニ詳ニス。

詳ナリ。ノ二病ノ咽喉ニ発シ来ル。其二ノ者ニ於テ。共ニ疼痛膿脹燃赤シ発シ。従テ而シテ発熱スルコト有カ故ニ。毎々ニ証相ヒ混淆シテ分別シ為シ難シ。証候ノ以テ診察シ定ムベキ者鮮キ

咽喉ニ発シ来ル。其二ノ者ニ於テ。共ニ疼痛膿脹燃赤シ発シ。従テ而シテ発熱スルヿ有カ故ニ。毎々ニ証相ヒ混淆シテ分別シ為シ難シ。証候ノ以テ診察シ定ムベキ者鮮キ毎ニ証相混淆シテ分別シ為シ難シ。証候ノ以テ診察シ定ムベキ者鮮キモノナリ。○是故ニ。大抵堅シテ翁篤私爹金倔ヲ以テ之ニ霎言シ。其治術モ従事ス。此其収斂劑ヲ用テ。能ク手ニ應シテ治スルコノ翁篤私爹金倔ノ方ヲ用タルヨリ宜キカ為ナリ。而メ是ノ喉風ニ於テモ。亦復爾リ。右ノ法方ヲ用テ能其治功ヲ収ル。コヲ得ル十リ。○羅斯モレヒセヨ翁篤私爹金倔ヲ以テ之ニ霎言シ。其治術

ハ。各異ノ膿腫ヲ療スルノ法方有テ存ス。就テ之ヲ用ヘシ。尋カ著ス所ノ瘍科精選ノ中ニ是ヲ記載ス。

右第百三十章羅斯及ヒ翁篤千參金倔ニ因ル証治ノ論ズ。

仍咽喉ノ諸部ニ屬スルノ裏面ハ。其膜甚タ鬆脆嫩輭ニシテ。其質尽リ珈瓏硝ノ似ク一般ナリ。此其多ク粘津滑液ヲ玆ニ分利シ玆ニ保有シ。ソテ咽喉通利ノ道路ニ灌漑浸潤シ。常ニ渇涸セザルカ為ナリ。是故ニ。右ノ津テ滑澤順潘ナラシムル液其常然ヲ失フコト有トキハ。亦能ク其部ニ鬱滞シテ。ソノ腫脹ヲ發スルニ至ル。之ヲ寒液腫ト謂ヒ。即チ巴旦杏核。原名遏滿垤連。西洋醫言釋體ノ如キ。之ヲ過滿垤連ト云者是ナリ。形ヲ以テ名ク。上腭後軟肉ノ部。食道裏面ノ膜。喉頭裏面ノ膜等鬱脹浮腫シテ。或ハ呼吸通セス。或ハ水穀下ラス。又ハ呼吸飲食共ニ之ヲ妨障スルモノナリ。○若シ其咽喉ニ於テ。或ハ外表。或ハ裏面。腫ヲ發スルコト寒慘ニシテ黯蒼ナルヲ見。然シテ患者呼吸飲食ニ於テ大ニ蹇難不利ナルコトアリテ。熟アルコト無キハ。唯其窒塞シ來ルノ危險ヲ恐ルヘキノミ。○是証ニ臨テハ。刺絡ノ宜キ所ニアラズ。只須ク。斑蝥ヲ貼スル發泡

（注）和蘇斯ハ海産。此ニ海綿ト云ヒ形故繋ノ如ク。針眼氣孔アリ。潮ニ隨テ海磯ニ漂極メス。

術ヲ施スヘシ。又須ク燕窩ヲ用テ琵布(パップ)ヲ造リ。之ニ加ルニ苦薏花少許ヲ以テシ。頭ヲ嬰(メグラ)シテ之ヲ貼スヘシ。又須ク患者ヲシテ乳香ヲ用テ造ル所ノ薬糕子(カステラ)寒(ヒヤ)ノ如ク之ヲ用フ。小児ニ施スニ便ナリ。又大人ニモ用フ。諸菜品糖蜜ヲ和シテ煉成シ。横シテ収ムル。或ハ火炙シテ乾シテ。諸形ヲ定メ。従テ其用ル所ニ名物考ヲ詳ニス。ヲ齧シムヘシ。以テ其ヲシテ多ク鬱壊粘穢ナル寒液ヲ泄サシムルカ為ナリ。

右第百三十一章寒(喉ノ)液瞳ニ因ル(証治)ヲ論ス。

假令ハ第百十三章ニ論スル葛郎布的(カンプ)列金(ケリング)倔ニ因テ。身體中ナル百爾ノ諸筋。其欲スル所ニ及シテ爾ク強ク引急拳縮シテ。支體骨節復平常ノ如ク思フ能ニ屈伸運動スベカラザルニ至ルガ如シ。其病ノ胃系食道及ヒ肺管喉頭ニ係屬スル所ノ諸筋ニ届リ及フテ喉中。皆為ニ纏縈セラル、カ故ニ。亦因テ閉塞スルノ患ヲ発スルモノナリ。○其発シ来ルヤ甚キニ至テ且ツ屢コレアルモ亦久カラスシテ復スルナリ。○若シ夫ノ昌郎(カン)布的(プ)列金(ケリング)倔ノ頸脈ヲ壓止スルニ及テハ。其人ヲシテ面尽ク青色ナラシム。是証毎ニ多シ。此其出スル所ノ血ヲ遏止シテ。之ヲシテ上頭部ニ循行スルヲ得サラシムルガ致ス所ナリト雖モ。之ヲ還リ降ルヲシテ

知ヘシ。〇是ノ一種ノ驚異スベキハ。患者右ニ云如ク。暴卒ニシテ咽喉閉塞シテ呼吸絶シ。従テ而メ死ニ瀕スルノ状ヲ現シ。殆ト續ヲ屬センコトヲ欲スルバカリニシテ。忽チ復メ蘇シテ故ニ復スルニ。一モ發泄スル所ノ者有ラナカリシ。第百六十章ニ曰ク。肺ノ運動ト。他ノ諸臓ノ運動トハ。互ニ異ニ孤行メ独立シテ。各自ノ職ヲ盡スモノナリト。故ニ肺ノ運動ニ障碍ヲ生ズルトキハ。其ノ影響ハ。必ズ他ノ諸臓ニ及ボシ。其ノ作止ハ。悉ク肺ノ運動ニ従テ。其ノ作止ヲ同フスル

如キニ至ルニ及テハ。刺絡シテ瀉血スルヲ要ス。由テ以テ其昌(プ)布的(テ)列金(ギン)倔(グ)ヲシテ緩弛セシムルカ為ナリ。然ルニ刺絡ノ擧。後ニ至テハ大抵不利ニシテ宜シカラサルニ帰スルナリ。且ツ其數數ニ再發スルニ方テ。瀉血ノ毎ニ施スヘカラサルカ為ナリ。只宜ク藥剤ヲ用テ。其未病ニ逮テ豫メ之ヲ救ベキナリ。方ハ第百十八章昌(カ)郎布的(プテ)列金(ギン)倔(グ)ニ於テ之ヲ記載ス。

右第百三十二章。昌(カ)郎布的(プテ)列金(ギン)倔(グ)ニ因ルヲ論ス。

西説内科撰要巻八終

ノ証拠

西説内科撰要巻九

遠西 主函涅斯垤(テル)爾德兒著
日本 津山 宇田川玄隨晉 譯
醫官法眼 桂川甫周國瑞 閲

病屬胸膈

咳嗽篇第二十一

咳嗽ハ羅甸(ラテン)ニ之ヲ外ヨリ物ノ侵刺襲戦スルニ因テ。其思欲ヲ待ズシテ。彼ヨリ自ラ發スルノ運動ナル者數種アリ。

其數種ノ中ニ於テ。此ノ咳嗽ノ一証ヲ以テ稱首トス。何トナレハ。元來此ノ咳嗽ナル者ハ。其喉頭ニ侵刺襲戟スル者アルカ為ニ。肺管ノ纖筋細條コレニ應シテ。之ヲ排擯仆出センカ為ニ之ヲ發スルナリ。啻ニ夫ノミナラズ。腹中ノ諸筋。及ヒ其他ノ諸物。常ニハ思欲ニ聽從シテ意ノ驅使ヲ待テ而後ニ運動スル者モ。亦共ニ同ク思ハサルニ運動ヲ作シテ。カヽル戮セテ其排擯仆出ヲ左右テ。夫ヲシテ功ヲ成シ易カラシメンカ為ニ斯ニ從事スルナリ。〇外表ニ侵刺シテ人ニ害アル者ヲ。人為ヲ以テモ亦之ヲ除治スルコヽヲ得ベシ。然レハ體中ノ變故ニ於ルガ如キニ至テハ。之ヲ除治センコトヲ思欲スルノ意切ナリト雖モ。毫モ人功ヲ施スニ由ナキノ處ニ及テハ。則チ右ノ如ク彼ノ自ラ思欲ヲ俟スシテ。其侵刺襲戟シタル所ノ者ヲ排擯仆出スルノ運動ヲ作シ。以テ其害ヲ免レシムルニ至ルノ見ツヘシ造物主ノ奇巧全能。愈到周悉ニシテ届ラサル攸ナキコヽヲ。〇此ノ咳嗽ノ仇タルコヽヲ。其狀ヲ說クコヽヲ待スシテ。毎人知ラサルコヽ無キ所ニシテ。即チ患者ト雖モ。已ニ能ク自ラ知テ更ニ言フニ及サルトキハ。則チ術ヲ操リ藝ヲ執レル醫家者流ニ於テハ。固ヨリ耳聞目

見スル所アレハ。則チ論ナキノミ。○其咳嗽ノ發スル所以ノ者ハ。多朋ニ是レ其侵刺襲戦シテ喉頭ニ附着シタルヲ仆出シテ。其害ヲ免レシムルカ為ナルナリ。是レ天然ノ良能ノ致ス所ニ出ルトニ至テモ。亦以テ自ラ知ルニ足レルノミ。

右第百三十三章。大較ヲ論ス。

乱ソ喉頭ノ内膜ニ於テ。或ハ疼痛ヲ為シ。或ハ侵刺襲戦スルヲシテ致スノ諸因ヨリシテ。皆能ク咳嗽ヲ發スルヲシテ致スナリ。○第一ニハ。諸ノ辛烈苛厲ニシテ微細ナル者。氣息ニ随テ吸納シテ。喉頭ノ内膜ニ粘着スルカ。或ハ辛烈苛厲ニシテ微細ナル粉ヲ仆出シ。或ハ痰ヲ仆出シ。或ハ血ヲ仆出シ。或ハ膿ヲ仆出シ。或ハ水ヲ仆出シ。或ハ涎ヲ仆出シ。或ハ粘液ヲ仆出シ。或ハ酸液ヲ仆出シ。或ハ鹹液ヲ仆出シ。或ハ苦液ヲ仆出シ。或ハ辛

ルガ如キニ出ツ。第三百十九章ニ論ス。○第四ニハ。肺藏ナラビニ胷中ニ物有テ聚ルニ出ツ。第四百章ニ論ス。○第五ニハ。喉頭ノ空虧（クワイ）中ニ物有テ聚ルニ出ツ。第四百一章ニ論ス。○第六ニハ。羅斯（ロアス）ナラビニ翁鷲私風（オニトルスアラヒンギー）金偏ノ此部ニ發シタルニ出ツ。第四百二章ニ論ス。○第七ニハ。胃ノ水穀ノ化熟スルヿ劣弱ニシテ。其製造未タ至ラサル不成液ノ。此部ニ將來ルニ出ツ。第四百三章ニ論ス。○自餘（ソホカ）斯ノ若キノ類。此ノ病因ト為ル者尚多シ。

変ノ之ヲ歴挙セント要スレ𪜈。右ノ諸因ニ據テ之ヲ類推セハ。其他自ラ能ク知ルベキガ為ニ。復ヒ列セザルナリ。

第百三十四章　病因ヲ論ス。

夫レ咳嗽ノ發スルノ外物ニ係ルヿ。隨テ吸納シタル辛烈苛厲ノ諸氣（水火ナラヒニ發出スル呼ノ氣ノ所謂寶氣癘氣ノ如キ是ナリ）ヨリシテ來レル者。又ハ飲食スルノ際ニ臨テ。咽シテ氣管ニ誤リ落ルニ値テ然ル者ノ若キハ。共ニ是レ人人ノ常ニ知ルトコロ。皆其入タル所ノ者ヲ却ケ出スガ為ニシテ。一時偶コレ有ルノ事。以テ病トスルニ足ラス。○只其咳嗽スルヿ一頓ニシテ止ズ。頻ニ連續シテ絶サルヿ甚タ久キハ。此其吸納シタル微細ノ外物ヲヨビ汁液。那ノ

膠粘ナル喉頭ノ内膜ニ繋着シテ。復タ咳嗽ノ勢ニ乗シテ。推盪漂去スルノ氣息ノ。カシ為シ易カラザル所ナルカ為ニ。斯ノ若ノ其レ撹閣スルヤ。要カナラズ沸湯ヲ取テ。其蒸氣ヲ吸納シテ。其津潤ヲ助ケ。以テ其繋着スル所ノ外物。又ハ酷厲ノ液ヲシテ。發泄シ易カラシムベキナリ。○此一証ニ臨テ。妄ニ潤滑ノ劑ヲ以テ之ニ與ル者アリ。甚タ無益ニ屬ス。何トナレハ。其藥以テ蒸氣ヲ起シテ津潤ヲ滋盛ニスル能ハス。且コレヲ飲服スルモ。只是レ箇ノ咽門ヨリ。那ノ食道ニ向テ。一道畑ニ下去リ了ルカ為ニ。呼吸

ヲ主ル氣管ニ於テハ。毫モ其澤ヲ被ルコト無シ。実ニ沒交渉ナレハナリ。

右第百三十五章。外物ヲ吸納シタルニ因ル諸般ノ熱病（即チ哥爾都ノ第一巻寒熱篇ニ詳ナリ。）常ニ多ク咳嗽アルモノナリ。此其熱毒ノ喉頭ノ液中ニ混淆シ。其内膜ニ侵刺襲戟スルカ故ナリ。○其熱毒若シ滋甚盛ニシテ。喉頭ノ内膜ニ侵戟シテ足ラズ。更ニ他ノ部ニ濫流浸淫スルトキハ。因テ遂ニ治シ難キノ咳嗽ヲ發スルモノナリ。之ヲ要スルニ究竟必ス其侵刺襲戟シタルヲ排斥センガ為ニ。其

所在盡ク為ニ膿ヲ醸シ成シテ。以テ其毒ヲ包摂誘導シ。形ヲ咳出スル所ノ白痰ノ中ニ混シテ之ヲ除クニ非ルヨリハ。素麿スルヿ無ノ。又救療スヘキノミ。〇第七章ニ於テ示ス所ノ。平常験用ノ熱病ヲ治スル薬ノ外。宜ク和胸湯ヲ用テ之ヲ柔ケ和スヘキナリ。

和胸湯方

款冬葉
錦茎葉　各一溢
蜀葵根
甘草根　各八銭

水二百四十銭

右件合シテコレヲ煮テ。漉過シテ滓ヲ去リ。麥酒盃ニ一盃ヲ熱服セシムルヿ日ニ數度。〇其熱服スルニ於テハ。其利益アルヿ冷飲ヨリ極テ多キヿヲ得ルヿ有ントス。

咳嗽ノ証治

第三十九章ニ出ス所ノ胃寒傷冷ノ伏毒。夫ノ氣（ヲシテ肺ヲ強壮ニスルノ功最勝レリ是ヲ以テ咳嗽及ニ喘急ヲ主治ス）

黙失刺蘆葉（ヲシテ黙ヲ失ハシムル）

固有ノ滑液ト混淆シ。瞶目弥久ニシテ全サル咳嗽ヲ發スルヿアリ。年長ノ人ニ於テハ甚タ治シ難シトス。治法一ニ第三十七章ニ論スル胃寒傷

所在盡ク為ニ膿ヲ醸シ成シテ。以テ其毒ヲ包攝誘導シ。形ヲシテ咳出スル所ノ白痰ノ中ニ混シテ之ヲ除クニ非ルヨリハ。実瘳スルヿ無ノ。又救療スヘキノミ。〇第七章ニ於テ示ス所ノ。平常際用ノ払熱痛ヲ治スル薬ノ外。宜ク和胸湯ヲ用テ之ヲ柔ケ和スヘキナリ。

和胸湯方

欵冬葉
錦茎葉　各一匁
蜀葵根
甘草根　各八銭

水二百四十銭

右件合シテコレヲ煮テ。漉過シテ滓ヲ去リ。麥酒盃ニ一盃ヲ熱服セシムルヿ日ニ數度。〇其熱服スルニ於テハ。其利益アルヿ冷飲ヨリ極テ多キヿヲ得ルヿ有ントス。

咳嗽ノ証治

第三十九章ニ出ス所ノ胃寒傷冷ノ伏毒。夫ノ氣管ノ裏面ニ淹滞シテ其部ヲ潤養スル所ノ。天資固有ノ滑液ト混淆シ。瞳目弥久ニシテ苦サル咳嗽ヲ發スルヿアリ。年長ノ人ニ於テハ甚タ治シ難シトス。治法一ニ第三。十七章ニ論スル胃寒傷

冷毒ノ法ニ從ヘシ。且其最モ要ドスル所ノ者ハ。其酷厲ナル毒ヲ。托裏シテ之ヲ皮表ニ驅發スルニ發汗劑ヲ以テスヘシ。

發汗劑方

底野迦（アンテ）　一錢
安質沒（ニシ）扭謨（ヂヤ）若波（ポ）列（レテ）蟄（キ）屈（ハ）謨　三分錢之一
泊夫藍　六分錢之一
蘇合香　六十分錢之五

右件藥。合シテ調勻シ。毎夕之ヲ服ス。劑名之ヲ勃（ボツ）律（リ）思（スト）ト謂フ。

是ノ藥。葡萄酒少許ヲ以テ之ヲ和調シテ服スル

哇噦ノ証治

モ亦可ナリ。〇若シ謨ニ藥功ノ速ナランコトヲ要シテ。之ヲ一頓ニ服スルハ益ナシ。何トナレハ。其甘葡萄酒若クハ蜜水（原名之ヲ嘆（タン）埵（ダ）ト謂フ。蜜ト水トヲ用テ製ス。其法名物考載スルヲ以テ。之ヲ調和シテ滋溢（ヤ）セシメ。以テ振服（モ）ニ供スルナリ。平居ノ時凝漿（シヤウ）ヲ用ルカ如クスルヲ可ナリ。〇人若シ以テ飽漿ニ造テ之ヲ用ルナラハ多ク利益アランコトヲ察セヨ。方中ノ底野迦ニ代ルニ白墾栗ノ舎利別ヲ用テスヘシ。

右第百三十七章。胃寒傷冷毒ニ因ヲ論ス。常ニ多ク無病ノ人ニ於テ。暴卒ニ箇ノ哇噦ノ証ヲ發シ。其証コレヲ寒冷濡濕ノ氣ニ

鬲ニ。若シリハ風ノ隧道。閘ニ枕シ窓隙ニ當リ。虚邪賊風ニ蒸發ノ氣ノ抑遏セラレ。泄除スルヲ能ハサルニ得タリ。是ニ於テ終ニ身體ニ鬱塞スルモノ肺中ニ將來リ。天資固有ノ滑液ト混淆シテ。元来感冒スル所ノ寒冷ニ因テ。共ニ冷結頑凝シ。テ。ソレテ斯ニ侵刺襲戦スルカ為ニ。箇ノ咳嗽ヲ發スルナリ。若シ未タ其毒元ノ如ク身體ヲ謝シ去リ或ハ皮表ニ浮テ泄除スルヲ得サルノ間ハ。長日持久ニシテ治セサル者ナリト知ルヘシ。此等ノ証ハ。皆前章ニ倫スル所ノ法方ニ據テ能ク治スルヲ得ルカ為ニ。爰ニ更ニ新方ヲ擧ルニ及ハサルナリ。

第百三十八章　蒸發氣ヲ抑遏スルニ因ル咳嗽ノ証治ヲ論ス

燔盛熱ノ燒カ如キ証ニ於テハ。毫ニ其皮膚ノ焦枯シ。口舌ノ津潤ヲ失フノミナラズ。氣管ノ内膜ニ至ルマテ。一同ニ乾燥スルナリ。若シ飲食ヲ送下スルトキハ。其物ヲ内ヨリシテ喉頭ヲ刺戟ス。是ヲ以テ咳嗽スルノミ。此ノ咳嗽ノ証タルヤ。自己ヨリシテ侭知易ク。其候見易キナリ。第十二章ニ載ル所ノ。定テ燔盛熱ヲ治スルノ方ヲ用テ差ルナリ。且是ヲ輔翼スル

水液ノ蒸氣ニ從テ。氣管ニヨヒ肺ノ裏面ヲ潤露スルノ治ヲ以テシ。並ニ第百三十六章ニ載ル和胃湯ヲ飲シムヘシ。〇是ニ由テ連絡シテ輭ニ觸ハサルノ乾咳靜止シ。粘痰ヲ以テ稀薄ヲ致シテ吐泄スルニ易ク。大ニ輕差スルコヲ得ヘキナリ。其吐痰スルニ。是レ其毒泄除スルノ象ニシテ。病差ルノ徴ナリト知ヘシ。

咳嗽ノ証治

一

右第百三十九章。熾盛熱ノ乾燥ニ因ルヲ論ス

吐血肺ヨリシテノ後。箇ノ連絡シテ絶ザル咳嗽ヲ患ルコト有ル者ナリ。此其肺藏癰膿シ來ルノ徴ナリ。

十リ。其癰膿其所ニ滯止シテ。変シテ酷厲ノ性トナリ。以テ其處ニ刺戟シテ致ス所ナリ。〇宜ク意ヲ用テ營ホシ。其膿ノ腐壞スルコヲ防治シテ。右シテ其シテ發泄シ易カラシムルノ計ヲ為スヘシ。治法或ハ呵咯シテ以テ之ヲ除キ。或ハ利尿ヨリシテ之ヲ泄スヘキナリ。

方

鯨腦

按尔撒謨格澁霍　四錢
按尔撒謨孛露非亞泥　熬令得空　五分
龍涎香　三分錢之一
蘇合香　三分錢之一

甘草末　適宜

右件合勻シテ毎一錢十五丸ト作シ。半時毎ニ一九ヲ服ス。

若シ少壯ノ輩ニ於テ。初次吐血肺ヨリスルヿ有テ後。多時ナラスシテ瘉ニ咳嗽ヲ催スノ始ナラヒニ。咳嗽ノ際。一齊ニ次胷中温熱スルヿヲ覺ヘ。口舌ニ甜味ヲ催スヿアルニ値ハ。則チ刺絡シテ瀉血スルヲ以テ良法トス。以テ其新ニ吐血スルヲ豫防スルガ為ナリ。其法室ノ下ニ説與スルカ如クスヘシ。○若シ胷脇痛或ハ肺痛ノ從テ多ク咳嗽スルニ値ハヽ。則其変シ成ス所ノ癰膿肺藏及ヒ胷脇ノ腔中ニ底止滯着スルヿヲ恐ルヘシ。○必ス意ヲ以テ營求シテ其膿ヲ泄除スルヿ上ニ説タルカ如クスベシ。然ヒ唯多ク汁液ヲ飲シムルヲ佳ナリトス。即チ一齊ニ上第百三十六章ニ出セル和胷湯ヲ用ヘシ。然ヒ若シ其熱已甚ニシテ大ニ翕發セハ。則チ其丸子ヲ除テ。只上ノ和胷湯ノミヲ用ルヲ刹トス。

右第百四十章。肺及ヒ胷部ノ膿ニ因ルヲ論ス

咳嗽ノ一証候

巴旦杏核第三十一章ノ註ニ出ツ。又解体新書ニ詳ナリ。考ヘシ。

アル所ノ膠粘ナル滑液。時有テ能ク一旦酷屬ノ

性ニ変スルコアリ。又能ク長ク変シテ頑結固成スルコアリ。又喉頭ノ中ニ於テ居恒ニ製設スル液。亦能ク変シテ常然ニ逆スルノ性ニ化スルコアリ。○若シ患人咳シテ稀涼液ノ出ル。詳熟病偏ニ。咳シテ清水ノ如ク出スト謂フ者。即是ナリ。旦ツ喉中刺戟シテ癢起シ来ルニ。値ハ、。則其液ノ稀涼ニシテ且ツ酷厲ニ変シタルコヲ明知スヘシ。其治宜ク第三十七章ニ載ル。胃寒傷冷毒ノ例ニ従ヒ。且ツ蒹ルニ第百三十六章ニ出セル。後柔ナル和胸湯ヲ以テシテ。之ヲ服セシムベシ。利アリトス。○但其酷厲ノ粘稠液ヲ為テ。膠着シテ咳咯ノ能ク吐泄スル所ニ非ル

コヲ明ニセハ。則宜ク多ク凝結ヲ解クノ法ヲ用ヘシ。砂トス。郎千甘草汁。蜂蜜。氷絲糖西洋稍弥兒ト称スル物ノ居家繁要ニ曰ク。動物ニ属スル寒傷冷毒ニ用テ。其酷厲液ノ胃腸ニ鬱結スルヲ解化シテ。吐除キ易カラシムル。又主トシテ除キ難キヲ宜シ。之ヲ小児ニ与テ。咳嗽ヲ患ルヲ治ス。○無花果等ノ如キ。其粘痰名物考ニ其造法ヲ載ル。

シテ能ク稀薄ナラシメ。是ニ因テ其肺管中ニ膠粘セル者鬆化シテ除キ易キニ至ルコヲ得ルナリ。○若シ其痰凝結粘稠スルノ極テ甚キニ至テハ。但能ク聚テ一團ノ形塊ヲ成シ。以テ喉頭ノ空圍中ニ底着ス。其所在コレニ刺戟セラルヽニ因テ。頑強ニシテ休止スル時ナキ連嗽ヲ発シ。連

續シテ聲ヲ絶サレドモ。其痰出ガタク。終ニハ則チ力テ強ク咳スルニ隨テ。遂ニ凝結シテ較堅實ナル小堀ヲ吐泄スルニ至ル。或ハ大ニ或ハ小ニシテ。形定リアルコトナシ。此其始メ聚リタル侭ニシテ。其處ニ結成スルヲ以テ。其喉頭中所在ノ廣狹ニ隨テ。形大小アルコトヲ致スカ故ナリ。〇人其吐泄スル所ヲ見テ以テ是レ其肺中ノ機里爾ヲ吐出セリト為ルニ至ル。實ハ然ラサルナリ。〇又右ノ外尚同ク氣管中天資固有ノ滑液。変シテ粘稠スルトキハ。亦能ク肺中諸管ノ形狀ニ象シテ其質シ成シ。以テ吐泄スルコトアリ。衆人見テ以テ肺中

和蘭ノ俗。醫家ニ非スト雖モ。猶ニ扎里ホアルコトヲ知ルノ習常ノ泄ノゾムル所ヲ見ツヘシ

該有的ノ物件ヲ咳シ出スコトアリト為ル者。亦間コレアリ。〇天資固有ノ滑液ヲ聚斂シテ之ヲ泄除スルカ故ニ。其跡必ス剥喪シテ裸露シ。其處ニ將來ルノ諸液。皆之ニ侵襲刺戟スルコトヲ。必其痰塊ヲ吐泄スルノ前此與人ノ咳嗽スルニ於テ。共ニ免ルヽ能ハサル所以ノ者十リ。

後ニ於テ。前說ニ謂フ所ノ諸液ノ刺戟スルモノ。前後互ニ相須テ發スルニ因リ相為ス。此咳嗽ト痰塊ノ大抵ホリトス。室十有痰無聲。有痰無聲ヲヨヒ有聲。有聲ニ至テハ。或ハ以テ譯詁亦常ニ相因ル所ハ。必等シ。

○治法其凝結セル粘小堀ヲシテ。吐泄シ易カラ

シムルヲ営為スヘシ。即千湯ヲ熨シテ其蒸氣ヲ吸納セシメ。且ツ第百三十六章ニ載ル和胸湯ヲ服セシムヘシ。是ヲ良トス。但右ノ如クニシテ粘痰小堀容易ニ吐泄スルヲ得ハ。尚且能ク其處ヲシテ常ニ濕潤ヲ保セシムルニ右ノ法ヲ以テシ。且ツ之ニ副シテ一齊ニ用ルニ箇ノ熏法ヲ以テスヘキナリ。其法。乳香ヲ把テ諸ヲ熾炭ノ上ニ尚ヘ。煙氣發スルニ乗シテ之ヲ吸納ス。並ニ又上ノ第百四十章ニ載ル九子ヲ用ヘシ。

右第百四十一章。喉頭ノ液ニ因ル。ヲ論ス。

余常ニ多ク夫ノ小兒ニ於テ。胃ノ飲食ヲ消磨スルノ官能ヲ衰テ。傳化健運ナラス。因テ咳嗽ヲ催スヿ有ヿヲ習知セリ。其咳嗽必ス食後多時ナラスシテ發ス。咳嗽スルヿ。強クシテ且ツ屢ストヿ雖モ。全ク悉ノ痰ノ出ルヿ有ルヿナシ。偶尓ノ之アルモ。亦至テ僅々タルノミ。因テ之ヲ名テ乾咳嗽ト曰フ。千金方ニ所謂食飽咳嗽。是ナリ。〇其咳嗽スルヿ彌久シテ。長ク連續シテ絶サルノ極ニ至ルニ方テハ。長幼ヲ問ハス。必ス嘔吐スル者ナリ。〇若シ其飲食。或ハ自餘何ニテモ胃中ニ在ル所ノ者ヲ吐キ除テノ後ニ至テハ。其咳嗽自ラ靜止スル者ナリ。〇若シ此証ニ臨テ。緊シテ諸般ノ

胸膈ヲ和調スルノ藥劑ヲ投スルトキハ。皆以テ其咳嗽ヲシテ頓ニ固ナラシムルニ足ル。此其胃中飲食ヲ消磨化熟スルコノ敗壞シタルヲシテ弥益増進セシムルノ故ナリ。唯治スルニ胃ヲ強壮ニスルノ藥ヲ以テスルヲ良トス。大抵癒サルヽ有リヽナシ。其方左ニ示ス。

方

薄荷水　四十八錢
靈會　五分
沒藥
酒石鹽

高良薑根末　各三分錢之二
右件藥合シテ調匀シ。日ニ四次若クハ其餘モ一種小者之ヲ服ス。毎服一匙。小兒ニハ少ク砂糖ヲ加調シテ甘味ヲ添ヘテ口ニ可ナラシメ。其服度ヲ減シテ與ヘ服セシムルヲ良トス。劑名コレヲ密吉斯黙剌ト謂フ。〇若シ大人ニシテ丸子ヲ呑噬スヘキ者ニ於テハ。則千岌ク茲ニ記載スル所ノ丸藥ヲ製シ與ヘ服セシムヘシ。

方

勿搦榮亞石鹸：一錢五分
按尓撒謨孛露非亞泥

胸膈ヲ和調スルノ藥劑ヲ投スルトキハ。皆次テ其咳嗽ラシテ頓ニ止ムルニ足ル。此其胃中飲食ヲ消磨化熟スルノ敗壞シタルヲシテ。弥益増進セシムルカ故ナリ。唯治スルニ胃ヲ強壮ニスルノ藥ヲ以テスルヲ良トス。大抵癒サルヽ有心ナレ。其方左ニ示ス。

方

薄荷水　四十八錢
靈會　五分
沒藥
酒石鹽

右件藥合シテ調勻シ。三分錢之ニ一種小者ヲ服ス。毎服一匙。小兒ニハ少ク砂糖ヲ加調シテ甘味ヲ添ヘテ口ニ可ナラシメ。其服度ヲ減シテ與ヘ服セシムルヲ良トス。劑名コレシ密吉斯黙剌ト謂フ。○若シ大人ニシテ丸子ヲ呑噬スヘキ者ニ於テハ。則千空ク茲ニ記載スル所ノ丸藥ヲ製シ與ヘ服セシムヘシ。

方

勿搦榮亞石鹼　一錢五分
按尓撒謨孛露非亞泥

噎噦ノ証治

盧會　各三分
沒藥　一錢
酒石鹽　三分
高良薑根末　適宜
薄荷油　五滴
右件藥合シテ毎一錢十五丸ト作シ橙皮末ヲ以テ衣トシ二丸ヲ服スル。日ニ一二次。

右第百四十二章。胃ノ化熟ハ蓐敗ニ因ルヲ論ス。

吐血篇第二十二

名義本文ニ血咳血嘔血肺痿血崩ノ名ヲ列ネテ明白ナリ。漢醫ノ所謂唾血造血等。皆是中ニ属ス。蘇布飡ト謂フ。緊シテ蒲筋ノ独ヲ吐出スルヲ言ナリ。

凡ソ口ヨリシテ其流溢スル所ノ血ヲ吐出スル。是ヲ吐血ト曰フ。羅甸ニ之ヲ髪謨布底矢斯ト謂フ。其由来スルトコロ一ナラス。諸部ヨリシテ斯ニ將出シ来ルナリ。假令ハ鼻ヨリスルアリ。喉中ヨリスルアリ。肺中ヨリスルアリ。胃中ヨリスルアリ之ヲ治スル。其因ニ隨テ法ヲ異ニセサルヲ能ハス。必ス各法ヲ須テ然メ後ニ治スルナリ只是レ変ノ危難

ノ患ニ致スニアラス其肺中ヨリ溢泄シ來ルノ一証シ以テ危難シ慮圖スヘキ一大危証トシテ即千本篇主トシテ論スル所ノ者ハ職トシテ此ノ一証シ指スナリ而シテ其証自ラ他ニ殊異ナル者有テ以テ自餘ノ諸吐血ト之シ分別スルヲ得ルナリ○其証シ言フニ先ツ第一ニ咳嗽スルヿ過去テノ後シ承テ之シ發スルカ又ハ其咳嗽ト偕ニ之シ現スルナリ此其血管ヨリ出ルカ故ニ自然ノ重シテ下流スルノ性其咳嗽スルノ勢ニ乘スルニ非ルヨリハ自然ニ又シテ上ニ向テ逆流スルヿ能ハスシテ唯其咳嗽スルニ於テ一ニハ其血ノ流レ出ル所ノ血道下ヨリシテ來ル所ノ氣ニ因テ開坼シテ以テ喉ニ向フヿシ為シ二ニハ肺管咳嗽スルノ時ニ方テ其細筋纖條急引スルニ因テ其溢出スル所ノ血シ推盪激迫シテ以テ上ニ向ハシムルヿシ為スナリ○第二ニ徴スル所ハ其出ル所ノ血泡沫アリ即千余カ非剥蕾刺室伽ノ撰著セル所ノ醫術編ノ中第二百六條ニ詳ニ論シタルカ如シ此其血粘稠ナルカ呼吸ノ氣ナラヒニ咳嗽ニ因テ鼓蒙沸騰セラレテ此ノ泡沫ノ変有ルヿシ致スナリ○若シ其吐血ノ証

ニ。右二件ノ徴候アルヿ無キハ。復其肺中ヨリシテ來ルノ危難ヲ慮圖スルニ及ハス。何トナレハ。此ノ証ト咳呵スルニ乘シテ痰飲ニ隨テ出テ泡沫ナキトハ。此其喉内ヨリシテ出ル者ニシテ。危キヿ鮮シ。又ハ其鼻ヨリ溢出シテ。喬門ヲ經テ齶後咽門ニ下リ。以テ口ニ出ルナリ。〇其血唯嗆嗽ニ干因ラス。痰唾ヲ俟タスシテ出ルハ。是レ口內後邊ノ諸部ナル細血道ノ破開セルカ。漢人ノ所謂舌衄ナル者等。即チ是類ナリ。又ハ牙縫アルヒハ蓋斷等ヨリシテ出ルナリ。漢人ノ所謂蓋衄ナル者。是ナリ。〇夫ノ胃中ヨリシテ來ルノ一証ノ若キ。如何ナル証候有テ以テ之ヲ

別ツトナレハ。則チ余コレヲ下ノ嘔血篇ニ於テ詳説スニ就テコレヲ考索スヘシ。

右第百四十三章。大較ヲ論ス。

凡ソ殷赤ナル血液ハ。悉皆若キ血脉及ヒ動脉ノ管中ニ在リ。而シテ動血ニ脉ノ諸管。心藏ヲ以テ根ト為シ。根ヨリシテ幹ヲ生シ。幹ヨリシテ枝ヲ岐チ。枝又小枝ヲ分チ。小枝又細極ヲ布キ。本末轉生シ。巨細相稱ヒ。一身百體。表裏上下。絲ノ糸ノ條達蔓延シテ被及セサル所ナシ。以テ其血ヲ全體諸末ニ至ルマテ。斯ニ周流遍滿スルニ。皆其中ニ由テ行クヿヲ得セ

ニメ。而シテ其諸脈管ノ究竟至細至微ノ末ト雖モ。尚且ツ斯ニ圓繞シ斯ニ包括シテ。終ニ之ヲシテ毫モ其管外ニ漏洩瀦伏スルコトナカラシムルノ患アル所以ノ者ハ。此其細血管ノ或ハ一處或ハ數處必ス破綻決裂スルカ。又ハ其諸末杪赤血ノ透漏スル如ク。疎鬆セルカニ因テ。是ノ血溢シ發スルヿ明ケシ。○右ノ血管ノ破綻決裂ヨリスルノ原ニ係ル之ヲ吐血ト名ルニ論ナシ。古來此ヨリ出ルノ證ニ於テハ。嘔血ト混シ。或ハ嘔血ト吐血トヲ混シテ。或ハ胃ヨリ來ルノ肺ヨリ來ルノ。其因詘ヲ實據ナキモノ。素ヨリ曰ヒ難キ事ニシテ。只是レ當ノ説ニ從フノミ。但シ此當ノ説ニ及ヒテモ。尚コレ過キサルカ。只是レ衆説ノ中偶尓ノ僅ニ五藏配合ス

詘檀云ク成人有テ然ルニアラス。只是レ其兄死而不為喪者聞子稟將為成宰遂為衰成人曰蠶則績而蟹有匡范則冠而蟹有淫兄則死宰子稟為之衰匡衆云ヌ。其言其衆云ヌ。功只如此。蟹有匡蟬之須范之冠也范蜂也蟬蜩也綴蜚蟬負長在喙下者。

ル所アルモ。徴スル所有テ然ルニアラス。只是レ蠶績蠻匡ニモ。徴スル所有テ然ルニアラス。只是レ自ラ知ラサルニ緣ル而已。

其諸末杪ノ僅ニ透漏スルホドニ疎鬆セルノ因ニテ發スル者。其証只是レ唉シテ吐スル所ノ痰中ニ數條ノ血線紅縷ノ帶絡シ來ル。有ノミニシテ布ノ如ク影ノ赤沫泡起スルノ血ノ吐泄スルヿ無シト雖モ。尚能ク同リ此ノ吐血ノ名ヲ以テ之ヲ稱スルナリ。井溪ノ略血ハ痰ニ血ノ帶テ流出スルヿト謂ヘルニ因ル。唾上紅縷ノ如キ氏巢ノ唾血ハ肺ヲ傷ル損リ是レ肺ヲ傷ル者。即チ是ナリ。

○但其血道細管ノ破綻坼裂シタル者ニシテ。迺其血恒ニ杯多セル肺管ニ淋漓シ。呼吸ノ出入ニ隨テ鼓索沸騰セラレ。以テ此ノ赤沫ヲ成シ來ル

ナリ。其赤沫究竟必ス喉頭ニ上リ極ルトキハ。其處ニ刺戟シテ。忽チ咳嗽ヲ發スルナリ。是ニ於テ漸々ニ流出テ蓄滞スル所ノ血尽ク咳嗽ニ乗シテコレヲ暫時ニ吐出スルナリ。〇凡ソ此証ノ由テ起ル所ノ原ハ。皆是レ極テ其血道細管ヲ破裂スルノ諸因ニ係ルナリ。即チ強ク咳嗽スルニ因リ。カヲ極テ叫喚スルニ因リ。疾言厲倩スルニ因リ。歌曲ヲ高唱スルニ因リ。身體ヲ暴動シテ。血ノ循行シテ強猛已甚ナラシムルニ因リ。憑悍精烈ノ酒漿ヲ貪飲シテ。血氣ヲ鼓動シテ上逆ヲ致スニ因リ。病源假論及ヒ古今醫統ニ説ル所ノ肺痿ナル者。正ニ此因ヨリシテ發スル者ノ沁。熱病ニ於テ。其熱氣輕揚飛竄ノ極テ大過ニシテ。冲騰奔突到ラサル所ナリ。遂ニ血ヲシテ躁擾妄行シテ。上是ヲ肺中ニ決溢セシムルニ因ル等。是ナリ。〇其胸腔ノ寛裕ナラスシテ褊窄ナルノ人即チ偃僂疳劣若クハ其胸狹小ニシテ且ツ浅薄ナルカ如キ。及ヒ喉頭ノ通竅窄小ニシテ。氣ノ出入寛裕ナラサルノ人。喻ルニ聲婦人ノ如ク清高纖急ニシテ。説話歌唱常ニ啾々嘵々タル者ノ如キ。皆若シ右ノ諸因ヲ犯ス者ハ。定テ此患ニ嬰ルト知ヘシ。〇其父母既ニ此証ヲ患タル者ノ子トシテ。有生ノ始ヨリ之ヲ傳リタル者ハ。成長シ

テ其血氣充溢シ。運行強盛ニシテ少壯ノ輩列ニ比スルノ年ニ至ルニ及テ。亦此患ニ遭フアル者ナリ。若シ然ラサレハ。則チ其親ノ曩キ者ニ嬰リシ年齒ニ及フ比ニシテ。甚同患ニ陷リ易キ者ナリ。且ツ時アツテ上ニ歷擧セル彰著ナル諸因ノ中一モ犯スル所ナリシテ端ナリ此記ヲ發スル者ナリト知ヘシ。是ヲ以テ右ニ說ク所ノ類ノ人ニ於テハ空ク自ラ豫メ省察シ。上ノ諸原ヲ戒愼シテ敢テ犯サズ。他ノ身體資性孕全無虞ノ人ノ忌憚ナキカ如ク為スコト勿ルヘキナリ。

右第百四十四章。病原ヲ論ス。

此ノ吐血ノ証。初ニ於テハ人コレヲ忽ニシテ戒愼セサルモノナリ。何トナレハ。其恒ニ衄洪或ハ金瘡創傷ヲ得ル等出血スルコト此ノ吐血ニ比スレハ。數ニ相ヒ倍蓰什百シテ多シト雖モ。殊異ナル變故ノ後ヲ承テ發シ來ルコト無キヲ以テ故ニ標テ以テ意ニ錯カズ。且ツ此記ヲ得ルノ初ニ於テハ。起居情態平素ニ異ナルコトナリ。疼痛モナク發熱モ有サレハ。恬然トシテ省察セサルコト固ヨリ其所ナリ。但其シハ久ク之ヲ得テ止サルノ際ニ及テ。然シテ後其見ル所此ヨリシテ勞記ニ陷テ少年ニシテ夭札スル者多キニ因テ始テ懲

コレシ畏ル、コシ知ル者間亦コレ有ノミ。○然ラハ則チ此記シ得ルヿ初ヨリ之ヲ堵牆スルコト有ラハ後ノ患モナク亦増長セズ。必ス治スルカト言フニ。猶尚斯ニ蹇難ノ事ト謂フヤ。夫人ノ此患ニ嬰ル。蓋シカ蹇難ノ事アリ存スルナリ。何ス直ニ課戒シ設テ。飲酒ヲ禁シ。夜作ヲ禁シテ強テ寝ニ就シメ。為ニ考按シテ。苦渋ニシテ口ニ可ナラサル薬方シ記シ與ルナリ。這般ノ戒禁設シ其人シテ痛患スル所有テ自ラ疾苦ニ困スルノ際ニ方テコレヲ持セシメハ。空ク厭ヒ悪ムノ事ナカルベシト雖モ。上ニ説ク所ノ如ク。此記ノ初ハ。患人自覺ルヿ孕居ニ異ナラスシテ。飲酒舞蹈。撃鼓シ講シ。歌曲シ唱ヘ。秉燭ノ遊。間燕ノ樂。日常ニ自若タルベシト雖モ為ルヲ。俄ニシテコレシ強制スルガ故ニ。是シ以テ其シ蹇難ナリ。○是故ニ。患人能ク右件ノ忌戒シ守持謹保スルガ倘リ然ルモ。素ヨリ勉強シテ致ス所。情實ノ勝サルシ激シ得テ纔ニ斯ニ已到スルニ屬スレハ。唯一次吐血ノ變有テノ後モ。右ノ如クニシテ荏苒ト疾ノ差ルヲ庶幾スルノ中。早ク已ニ膿ヲ吐出シ。遍體贏瘦シ。食後毎ニ多時ナラズシテ微熱ヲ催スノ記アルニ至ルト知ルヘシ。○大抵既ニ茲ニ至

ルニ及テモ。猶尚其根ス所深シテ。淫及スルヿ已ニ大甚ナルヲ知ラス。瞥時ノ間ニシテ率意ニ之ヲ治セントヲ思欲スル者ナリ。嗚呼只是レ已ニ遅了ノミ。○何トナレハ。吐血ヲ以後。膿ヲ吐出スルニ進ムトキハ。少身輩ト雖モ治スルヿ稀ナル者ナリ。即チ余カ非剥葛刺窒伽ノ撰著スル所ノ整術編ノ中。第三百四十條ニ明説セルカ如シ。○爰ニ畧其説ヲ援引シテ斯ニ附シ。讀者ヲシテ茲ニ因テ益余カ説ク所ノ徴據アルヿヲ知テ。以テ其理ヲ詳明ニシ。以テ其術ヲ多普ニスルヿヲ得テ。彫ニ從事セシメンヿヲ要スルノミ。○夫レ

坼裂シタル血道ヨリ。滴々トシテ流漓シタルノ血。皆恒ニ枵開セル肺管ニ流落シテ。肺中ノ衆小胞ニ入リ充ルナリ。然ルトキハ肺中ノ小胞。虚ニシテ以テ氣ヲ包容スベキニ。血之ニ代テ奪テ其中ニ充實スルナリ。○其血始ハ只其處ニ滞止シテ凝結粘稠スルノミナルモ。久キヲ経ルニ及テハ。腐壊シテ且ツ酷厲ノ性ト変スルナリ。腐壊スルノ勢。増長貫盈スルニ及テハ。遂ニ其所在シテ糜爛潰膿セシム。○其血尚坼開セル血道ヨリ淋漓スルヿ絶サレハ。弥益肺管中ニ充盈スルガ故ニ。必ス其近傍ノ支別ニ溢流シ入ラザルヿヲ

得ズ。其近傍ノ支別中ニ。尚氣ノ充盈セルヿ有
ガ故ニ。此泡起セル血ヲ成スヿヲ致スナリ。〇而
レテ前ニ流入タル所ノ血。既ニ腐壞シ且酷厲ニ
変レテ肺ヲ刺戟シ。觸レ誘レテ咳嗽ヲ催スニ因
テ。夫ヨリレテ其究(カヘリ)必ス流漓レタル泡起セル血
ヲ吐泄スルヿヲ為スナリ。而レテ前ニ充塞スル
所ノ者ハ。自若トレテ底著レ居ルナリ。其酷厲ノ
性ト変レタル者。終ニ必ス肺ノ癰膿ヲ作レ。夫ヨ
リレテ遂ニ治スベカラザル瘍瘵ノ症ヲ成スト
知ベシ。〇其初等閑ニレテ事トセザルモ。吐終レ
ハ一旦ハ先ヅ常ニ復ルカ故ニ。總畧レテ不治ニ
至ラシムレバ。其時ヨリ廢置ズ豫メ後患ヲ慮リ。
當時無恙ニ生存スルモ。危殆ノ期尋テ及ントス
ルヿヲ能ク熟思レテ。其災ノ微ナルニ逮テ戒慎
整治スベキナリ。

右第百四十五章。餘義ヲ申明ス。

凡ソ諸吐血ヲ療スル法。其溢出スル所ノ蓄血
ヲ。悉ク除キ去ルノ術アリ。嘔血ノ証ニ於ルガ如
キヲ謂フ。即チ上ニ所ノスル者等。外表ヨリ之ヲ壓定レテ。其開哆レタ
ル血道ヲ封合スルノ術アリ。即チ鼻ヨリ來ル者ノ類ノ如シ。又
ハ止血ノ劑ヲ敷貼レテ之ヲ治スルヿ。他ノ諸出
血ニ於ルカ如クスルノ術アリ。口中斷齧等ヨリ出ル者ヲ云ヒ此

等ノ療法。固ヨリ事ト
ニ斯ニ枚擧セサルヲ
ラザルノ一件ヲ言フニ
ハ諸ヲ其膿ニ取テ。想像
劑ヲ與ヘ服セレメ。ソレテ其出血ヲ止住セントヌ
ス。此大ニ誤ナリ。何トナレハ。若シ滿意ニ其藥力
ニ因テ其血為ニ稠厚スルトキハ。開口シタル所
ノ血道ヨリ淋漓スルコハ止ムベキモ。肺ノ動脈
管ノ末杪ヨリ。血脉ヘ循行スルノ血モ。亦之ト偕
ニ凝泣シテ。循行之カ為ニ絶ン。其循環流通スル
コ停止セハ。人命茲ニ從テ立ツコアランヤ。ソレテ

難キノ例ニ在サレバ。更
ニ〇但其易キニ倍テ易カ
人叫ノ吐血ノ証ニ値ヘ

知ルヘキノミ。〇是ノ故ニ。見ヨ余カ之ヲ治スル
ノ法他ナシ。其初ニ於テ唯(タヽ)勿所及(チカラノヨフトコロ)務テ血ノ肺ニ
輻湊スルノ洪勢ヲ殺(サイ)減シ。其ソレテ血道ノ末杪。
開口セル處マテニ。届リ溢レサルニ因テ。自ラ能
ク密合狹窄スルコヲ得テ。復タ血ノ流出ツヘキ
無キニ至ラシムルノミ。〇是シ以テ先ツ患人ヲ
レテ上ニ列擧スル所ノ諸件。吐血ノ原由ニ係ル
者ヲ停止セシメ。刺絡シテ瀉血シ。血ノ減少スル
ニ因テ。血道ニ輸送スル
ハ。悉皆舍(カナ)ス肺ニ朝宗セザルコナケレハ。逃(ゼ)不(ニ)過
全ク其血ノ爰ニ輸送スルコヲ遏止スルコ能ハ

ザレバ十リ。○其瀉血スル。一月若クハ両月ノ期シテ必ス報刺スヘシ。其最モ空リ施スヘキハ。少壮ノ輩ニ於テスヘシ。又夏月ニ於テスヘシ。此其新血漸長スルノ時ナルカ為ナリ。○其間一箇ノ清涼ニシテ且ツ収斂ノ劑ヲ用ルヲ良トス。以テ其血ノ循行ノ後慢ニシ。血道坼裂ノ斂合ヲ助ケ。以テ故ニ復シ易カラシム。且其藥ノ能ク肺中坼裂セル諸管ニ届リ達シテ。其效ヲ奏スルヲ獲ルニ取ル。○夫ノ収斂ノ義ニノミ注意シテ。聚濇ノ藥性石脂等ノ隊伍ヲ成セル諸方ノ如キハ。其液道第十八章ニ出ス。考ヘシ。ノ中ニ入リ達スルヲ能ハサルヲ以テ。余其依頼鮮キヲ知ルノミ。○左ニ記スル所ノ一方ヲ以テ甚タ之ヲ利アリトス。

吐血肺ヨリスルヲ治スル飲劑方

莨宮根	各八銭
精大麥	
玫瑰花	一溢
水 百六十銭	

右件合シテ密器中ニ於テ之ヲ煮漉過シテ滓ヲ去リ。可喜孟用テ器。蓋尋常ノ通シ用ル所ノ茶碗ニ如シ。可喜ハ木實ノ名。西人常ニ整里細末シテ常服ノ陽ニ點シテ喫スル茶ノ如シ。功用製造ヲ名物考ニ載ス。

根主治稍拿陵薄
稍拿ノ収斂封合ノ功ヲ証ス。京建ノ胃腸。嗽。赤利。合金瘡。皮骨傷跌打破裂ノ毒。内服外用。ドロゼイン

徹ル

服シ若シハ冷飲セシム。若シ再ヒ咽喉中癢起シテ咳嗽ヲ催シ。胸中熱キコト數回ニシテ口中甜味ヲ發スルコトアラハ。即時ニ其吐血ヲ覺ヘス。又見ハサルニ逮テ再ヒ瀉血シ。且右ノ方ヲ用ユヘシ縱使吐血既ニコレ有テモ可ナリ。此其徵候皆其患ノ將ニ來ントスルニ在ルカ故ナリ。○若シ夫レ吐血スルコト數度ニシテ。其證已ニ彰著ナルニ及テ之ニ加ルニ膿ヲ成スノ徵ヲ得ルトキハ。此其肺ノ癰膿スルノ証ナルコト知ヘシ。○其時ニ當テモ。尚必ス其吐血ノ將ニ來ントスルノ徵有ルヿ。無ヤトニコヿヲ視察スヘキナリ。此其說ノ所ノ如ク。唯（タヽ）（チカラノ）功（ヒトツ）ノ所（ユヘ）汲務テ先ツテ治ヲ施スベキガ為ナリ。○亟（スミヤカ）テハ。復タ瀉血ノ宜キ所ニ非スト雖モ。然モ若シ吐血ノ將ニ來ントスルノ徵ヲ得ルコトアラハ。隨テ即チ尚前章ノ如クコレヲ禦サルコトヲ得ズ。然ラズシテ廢テコレヲ行ハザレバ。則チ其吐血ノ証ヨリシテ。弥（イヨ）益（マス）凶悪ニ至ルカ為ナリ。○但空ク其間兼テ第二十七章膿壞液ニ用ル所ノ藥ヲ並ヘ用ユヘキナリ。○其膿ヲ成スノ徵ヲ知ント要セハ。其唾吐スル所ヲ將テ。諸ヲ水中ニ置テ迺チ知ベシ膿ハ水ヨリ重キモノナリ。而シテ痰ハ則

吐血ノ

又水ヨリ軽キカ為ニ。是ニ於テ之ヲ察スルトキ
ハ。膿ノ有無ノ如キヲ明瞭ニ得ヘキノミ。

右第百四十六章。治法ヲ論ス。

西説内科撰要巻九終

西説内科撰要巻十

遠西　王函涅斯垤我爾德兒著
日本　津山　宇田川玄隨晉　譚
醫官　法眼　桂川甫周國瑞　閲

胸脇痛篇第二十三

胸脇痛コレヲ羅甸ニ布攙栗孰斯ト謂フ。凡ソ胸
脇ノ中痛ミ。外表ヨリ抵觸スト雖モ。自若トシテ
其痛コレガ為ニ增スコトヲ為サル。証。皆堅シテ
是ヲ之ヲ胸脇痛ト稱ス。此其布攙栗孰斯ノ名タル。元

来肋膜コレヲ布撒(プサン)ト謂ヨリ出テ。痛ヲ肋膜ニ覚ルノ義ナルニ因テ。是ヲ真ノ胸脇痛トスルナリ。更ニ類胃脇痛ヲ説サル所以ノ者ハ。真ナル者ハ。胸ニ異ナルヘキカ為ノミ。実ハ挙レテ知ルヘキカ如ク。外表ヨリ之ニ觸レテ痛ハス。胃脇痛真ト類トスル者。是ヲ増ス者。是ヲ類胃脇痛ト云ク。胃類胃脇痛真ト異ナリ。発熱外表ニ及ヒ。游移レテ定ラス。是ヲ熱ナルヲ以テ。是ヲ渇セス。是ヲ止ニス。胃肠内痛ニ気息蹇(ケン)難(ナン)ナル。是ヲ痛ノ外表ニ止ルヲ以テ。是ヲ渇セサルヲ以テ。是ヲ類ト謂ヘリ。

○諸胸脇痛ヲ為ス其由来ス百王(ヒヤクワウ)一偉(イツヰ)伊倔(クリ)多(スペ)ト論スル痛風ノ酷虐液ヲ以テ。第四十六章ニ論スル痛風ノ酷虐液ヲ以テ。第二十九章ノ失苟児(ケロウルボイ)陪苦(リ)。第二十一章ノ壊液ノ酷虐(カラプ)ナル者。第百十三章ノ曷郎布(ラープ)的列金倔(リツキンクリ)等ノ。肋膜ノ細筋繊條ニ嬰レル者。又ハ其他ノ因有テ痛ヲ肋膜ニ催ス者。亦各其証候ヲ具テ発スルカ故ニ。茲ニ因テ以テ諸ノ胸脇痛ヲ区別シテ。各其病原ニ本テ的当ノ治ヲ施スヘキ十瘍科精選ニ之ヲ詳ニス。○夫然リ。故ニ此病ニ於雖モ。又其中ニ就テ各証ノ本ク所ヲ区別セサレハ則チ未可ナリ。矧ヤ尋常治術ニ従事スル者ノ如キ。其因ノ区別(シモ)ヲ弁セズ。諸胸脇痛ヲ堅(シント)シテ翁篤私爹金倔(スエキグ)ニ混スルニ於テヤ。○今将ニ次ニ於テ其各異ノ証候ヲ挙テ。彼此ヲシテ相

ヲ覺ルノ一証ナルヲ以テ。真ノ胸脇痛トス。○諸胸脇痛ヲ為スカ。由來スル所ノ病原。多端ニシテ一ナラストス。諸其痛ヲ肋膜ニ將來リ催スノ最モ彰著ナル者ハ。即チ翁篤私爹金倔次ノ第百四十八章ニ論ス。ヒニ羅斯第百四十九章ニ論スル第一章ニ載ル哥爾都第百五十章ニ論スル其毒最モ能ク肋膜ニ將来ル者ナリ。第三十七章ニ論スル所ノ酷厲ナル冒寒傷冷毒。即チ聖健第百五十一章ニ論スル痛風ノ酷厲液。即チ第百五十二章ニ論スル第四十六章ノ失荀兒陪苦。第二十一章ノ壞液ノ酷厲ナル者。第百十三章ノ曷郎布的列金倔等ノ。肋膜ノ細筋纖條ニ嬰レル者。又ハ其他ノ因有テ痛ヲ肋膜ニ催ス者。亦各其証候ヲ具テ發スルカ故ニ。茲ニ因テ以テ諸ノ胸脇痛ヲ區別シテ。各其病原ニ本テ的當ノ治ヲ施スベキナリ。其翁篤私爹金倔及ヒ羅斯ノ二。余カ著ス所ノ瘍科精選ニ之ヲ詳ニスル。○夫然リ。故ニ此病ニ於テ雖モ又其中ニ就テ各証ノ本ク所ヲ區別セサレハ。則チ未可ナリ。矧ヤ尋常治術ニ從事スル者ノ如キ。其因ノ區別ヲ辨セズ。諸胸脇痛ヲ聚シテ。之ヲ翁篤私爹金倔ニ混淆スルニ於テヲヤ。○今將ニ次ニ於テ其各異ノ証候ヲ擧テ。彼此ヲシテ相

分別スベカラレメ。従テ之ニ副スルニ各種ノ治法ヲ以テシテ。之カ説ヲ為テ以テ示サントス。

胸脇痛ノ

右第百四十七章。大較ヲ論ス。

夫レ肋膜ノ物タル。肋膜ハ。ニ襲ノ膜ナリ。胸中ニ被シ。内ハ縦膈膜ト相周回シテ。外ハ胸肋ニ固着蒙テ。能ク痛ヲ覺ヘ易キ者ナリ。其質強引急張シテ。胸肋ノ裏面ニ冒シ。毎ニ氣息ニ鼓盪セラレテ伸縮進退ス。其吸スルヤ張テ而メ伸ヒ。其呼スルヤ縮テ故ニ復ス。其最モ著キハ。咳嗽スルノ際ニ方テ殊ニ甚シ。〇若シ此ノ肋膜ニ翁篤(オントク)チ炙(スエ)參金倔(キング)ヲ擧ル所ノ証候有テ。察シテ知易シ。其候即チ大ニ痛テ鼓動シ。其部大ニ熱シテ腫起スルコトアリ。其脈剛實ニメ駛數。且ツ寒熱ヲ記シ發ス。其寒熱ヲ發スルヤ。前次ノ痛既ニ過キ太ルノ後ヲ承テ發シ。其痛亦從テ漸々ニ催シ來ルナリ。其病肋膜ニ在ヲ以テ。其肋膜ヲ牽張スルノ鼓盪ヲ障礙スルカ故ニ。短氣以テ息スルニ足ラス。且ツ呼吸スルニ及テ。其痛復タ耐忍スヘカラサルニ至ル。且ツ侵襲刺戟スル所有テ。亦必ス善ク感觸シテ以テ咳嗽ヲ誘發スル者ナリ。〇若シ其翁篤(オントク)チ炙(スエ)參金倔(キング)ノ大ナル者ハ。心血ヲ鼓搴シ亦

大ニ懊憹苦

身體ニ流輸セレムルニ必ス須ツ所ノ。肺ノ舒張ヲ妨奪レテ。其官能ヲ遅ス。ルコヲ得サラシムル。カ故ニ。其脉微弱ニレテ數ナリ。且ツ煩悶ノ証アルナリ。〇其翁篤私參金倔ノ進行ノ。四日程ヲ經テ膿ヲ成スコ無リ。復メ其吐痰ノ証アランコヲ期望スベカラズ。其翁篤私參金倔ノ和平スルニ非ルヨリハ。其証ヲ得ルコ有サルノミ。〇是故ニ。白痰ヲ吐レ小水ニ白塩ヲ見ズコ速ニレテ。其痛ナラヒニ寒熱共ニ減スルノ証ヲ見スハ。此種ノ中ニ於テハ。甚タ吉徴トスルナリ。然ルニ其痛ナラヒニ寒熱咳嗽。漸々ニ増益スルハ。將ニ変レテ箇ノ膿腫ト成ントスト知ルヘシ。若シ其膿ヲ上ハ吐痰ニ由テ之ヲ發泄シ。下ハ尿中ノ白塩ト為テ通利スルコ有ルトキハ。則チ斯ニ及ハス。〇右ノ胸脇痛ノ如キ。若シ膿腫ヲ成サヽルハ。則チ大抵進テ胸內癰ニ變レ行ク者ナリト知ヘシ。〇膿ノ中膿壞スルノ痛ナリ。原由肺痛及ヒ胃腸ヨリ!シテ変レテ生スルル所。漢人ノ所謂內癰ニ在ル者ナリ。詳ニ東西病考ニ論ス。〇夫ノ翁篤私參金倔ノ重証ニ於ルカ若キ。如レ変レテ右ノ膿証ニ至ルハ。尚期望スル所アリトス。爾ラズレテ壞液病ニ変スルカ。又ハ寒火毒(原名格胡垤デ吸ヒ胡尓。羅斛ニシテ乾ス)ルノ病。毒ノ最モ厲(納ト謂フ。隨處ニ為ニ銷鑠焦枯)悪ニノ究暴ナル者。病考ニ詳ニス。

ニ變スルニ及テハ。

第二十章ノ注ニ出ツ又

大抵救ハレサルニ至ルト知ヘシ。〇是ヲ以テ第一ニ先ツ刺絡シテ瀉血シ而シテ諸ノ清涼劑ヲ用テ大便ヲ下利スヘシ。方ハ第十二章ニ著ス。〇次ニ記スル所ノ方ヲ作テ之ヲ與ヘ服セシムヘシ。

真腦腸痛ヲ治スル飲劑方

精大麥　八錢
欵冬　二溢
麗春花　一溢
甘草根　八錢
水　百二十錢

右件合シテ之ヲ煮。濾過シテ滓ヲ去リ。左ノ品ヲ加フ。

撒尔普兒涅而剌　二錢

其寒温シシテ口ニ適セシメ。一麥酒盃ヲ飲服スルコト日ニ數回。

從テ外表ヨリシテ施スニ外傳ノ劑ヲ以テスヘシ。其方胡麻仁末ヲ取テ。水若クハ酥滓ヲ用テ煮テ糊ノ如クシテ琵琶布ヲ造リ。（酥滓及ヒ琵琶布並ニ上ニ註ス。）胸上多ク痛ヲ覺ルノ處ニ罨貼ス。空ノ屢コレヲ新ニスヘシ。又ハ另ニ何ニテモ温煖ナル者ヲ把テ右ノ罨劑ノ上ヲ蒸熨シテ。其シシテ冷サラシ

ムヘシ。妙トス。〇斯ノ如クスルトキハ。其証必ス將ニ消散セントス。〇若シ此ノ胸脇痛ノ翁筥(オント)私(テエ)箋金(キン)倔(グツ)ヨリ發スルヤ否ヲ明察センコトヲ要セハ。此ニ一術アリ。須ク其刺絡シテ瀉スル所ノ血ヲ視察スヘシ。上面ニ於テ粘稠ナル薄膜ヲ結フモノハ翁筥(オント)私(テエ)箋金(キン)倔(グツ)ヨリ發スル者ナリ。羅斯(ロウス)若ク膜ヲ得ルコトナシ。〇其刺絡スルニ。初次一タヒ瀉ハ熱毒ヨリスルモノハ。其血上終ニ右ノ如キ薄血ストヰ雖モ。尚未タ従テ其証ノ減シ去ルコトヲ見ルコト無ク。尚一二次コレヲ報施スルモ仍可ナリトス。

右第百四十八章肋膜ノ翁筥(オント)私(テエ)箋金(キン)倔(グツ)ヨリ發スル〇証治ヲ論ス。

稀涼酷厲ニシテ熱氣ヲ催スノ毒液。其肋膜ニ沉滞凝着シテ侵刺スルトキハ。所在コレカ為ニ燃熱ヲ發スルヤ。然レモ其腫脹寒熱及ヒ咳嗽ノ三証コレヲ前証ニ比スレハ差少シトス。且其痛等遷移シテ固着セス。彼此互ニ微甚ヲ為ス。其痛亦翁筥(オント)私(テエ)箋金(キン)倔(グツ)ノ如ク緊劇ナルニ非ス。其脉仍尚數駛ナルコトハ則チ數駛ナリト雖モ。然レトモ前証ノ如ク剛實ナルニ非ス。其小便赤ク。復タ白泣ノ在ルアルコト無シ。其疾ノ全然トシテ瘳ルニ至テ

モ終ニ之アルヿ無キナリ。刺瀉スル所ノ血稀淡ニシテ凝ラス前ニ説ケルヿ無シ。斯ノ如キハ其変シテ膿ニ至ルヿ稀ナリトス。○前ニ説タル翁筥(ハントス)私爹(テエ)金倔(キングヴ)ヨリ発シタル所ノ胸脇痛ト。此ニ挙ル所ノ羅斯(ロウス)ヨリ発シタル所ノ胸脇痛ト。其諸証候。本ヨリ殊ニシテ標ヨリ同シ。大抵ハ一様ニ思ハル、者ナリ。○然レモ此章ニ論スル所ノ胸脇痛ハ。毎ニ多ハ太身ヨリ暗ニ泄除スル所ノ蒸発氣ヲ壅遏シタルニ出ツ。此其発泄スヘキノ毒。體中ニ鬱シテ肋膜ニ聚ルガ致ス所ナリ。○此証ニ於テハ。濇血ヲ施スト雖モ効

験アルヿ鮮シ。○宜ク第百四十八章ニ説與セル所ノ和胸湯ヲ用ユヘシ。利益アリトス。但其罨劑ヲ外傅スルノ挙ニ代ルニ。斑蝥ヲ用テ発疱術ヲ施シ。其稀涼酷厲ノ毒液ヲ外表ニ牽引シテ之ヲ駆除スヘシ。

右第百四十九章ノ羅斯(ロウス)ニ因ル。ヲ論ス。

前ニ列スル所ノ翁筥(ハントス)私爹(テエ)金倔(キング)ヨリ発スル胸脇痛ト。羅斯(ロウス)ヨリ発スル胸脇痛ト。此二種ニ於テハ。始ニ痛有テ然シテ後寒熱コレニ従フ。然ルニ此章ニ論スル所ノ一証ニ至テハ。此ニ異ナリ。是ル第百二十九章ニ載ル喉風及ヒ第百三十六章ニ

載ル咳嗽等ニ於テ説ノ所ノ熱毒ナル者此ノ肋膜ニ底著スルナリ。先ツ寒熱有テ然ル後痛ヲ發ス。而シテ其痛必ス發熱ノ増減ニ従テ作止スルコヲ為スナリ。〇此証ニ於テハ其始ニ於テ速ニ吐瀉ノ証候ヲ現スル者ナリ。〇其療法一ニ熱病ニ於テ従事スベシ。其中更ニ加ルニ營衛ヲシテ吐瀉シ易カラシムルノ術ヲ施スコヲ以テスヘシ。即チ第百四十八章ノ和胸湯ヲ可ナリトス。

胸脇痛ノ証治

右第百五十章熱病ニ因ル胸脇痛ノ証治ヲ論ス。

第四十二章ニ論スル所ノ胃寒傷冷ノ酷厲毒毎ニ多ク肋膜ニ陥下シテ。善ク劇痛ヲ發シ。呼吸ヲ妨害シ咳嗽ヲ發スルコアリ。然ル發熱スルコナシ。若シ偶コレアルモ。亦鮮少ニシテ。其脈狀並ニ小水コレヲ平常ニ比スルニ。甚タ差異ナシ。此ノ諸証ヲ以テ。他ノ因ヨリ發スル者ト之ヲ多別スベキナリ。〇此証ニ臨テハ。宜ク外表ヨリ温煖剤ヲ用テ。胸脇ノ患處ニ傅貼スベシ。即チ牟西刺及尼蒲私膏。今方沙世ノ瘍科ニ常ニ用ル所ノ者。局ニ按スルニ諸堅硬ヲ散シ。諸ニ解釋スルニ諸患寒ヲ良ナリ。若シ阿失格祿西奴謨膏。亦今世ノ瘍科ニ常ニ用ル所ノ者。主治專ラ液ノ凝結粘稠セル者ニ施シテ。甚タ良ナリ。亦局方ニ出ツ。

草木器

ヲ取テ之ニ肉豆蔻膜油。医學宝函ニ云。膜油甚貴重ニシテ多得カタシ。直ニ核油ヲ用テ可ナリ。及ヒ抜尔撒謨孛露非亜泥ヲ塗リ施ス。○右ノ類ニ於テ。世ニ多ク用テ屢效益ノ得ル所ノ者ハ。格密訥膏。及局方ニ云。胷脇痛ノ作ヲ治シ。胷腹氣功ヲ駆リ。風ノ關節。風氣痛ヲ療ス。禰朗独カ秦艽ヲ開キ結ヲ散シ。欝ヲ解キ。粘稠ヲ滌シ。柔ニシテ凝ヲ破ル所ノ術ニ於テハ用ヒ難キニアラス。是ヲ以テ此章ニ論スル所ノ療法ヲ以テ。此記ノ一大貴術トシテ。第百四十八章ニ載ル所ヲ以テ胸脇痛ニ緊用スルノ手段ヲハ。賤弃シテ取ラサルナリ。○其内服ノ劑ヲ取テ之ニ肉豆蔻膜油。医學宝函ニ云。膜油甚貴重ニシテ多得カタシ。直ニ核油ヲ用テ可ナリ。及ヒ抜尔撒謨孛露非亜泥ヲ塗リ施ス。○右ノ類ニ於テ。世ニ多ク用テ屢效益ノ得ル所ノ者ハ。格密訥膏。及局方ニ云。胷脇痛ノ作ヲ治シ。胷腹氣功ヲ駆リ。風ノ關節。風氣痛ヲ療ス。禰朗独カ秦艽ヲ開キ結ヲ散シ。欝ヲ解キ。粘稠ヲ滌シ。柔ニシテ凝ヲ破ル所ノ術ニ於テハ用ヒ難キニアラス。是ヲ以テ此章ニ論スル所ノ療法ヲ以テ。此記ノ一大貴術トシテ。第百四十八章ニ載ル所ヲ以テ胸脇痛ニ緊用スルノ手段ヲハ。賤弃シテ取ラサルナリ。○其内服ノ劑ヲ取テ之ニ肉豆蔻膜油。医學宝函ニ云。膜油甚貴重ニシテ多得カタシ。直ニ核油ヲ用テ可ナリ。及ヒ抜尔撒謨孛露非亜泥ヲ塗リ施ス。○右ノ類ニ於テ。世ニ多ク用テ屢效益ノ得ル所ノ者ハ。格密訥膏。及局方ニ云。胷脇痛ノ作ヲ治シ。胷腹氣功ヲ駆リ。風ノ關節。風氣痛ヲ療ス。禰朗独カ秦艽ヲ開キ結ヲ散シ。欝ヲ解キ。粘稠ヲ滌シ。柔ニシテ凝ヲ破ル所ノ術ニ於テハ用ヒ難キニアラス。是ヲ以テ此章ニ論スル所ノ療法ヲ以テ。此記ノ一大貴術トシテ。第百四十八章ニ載ル所ヲ以テ胸脇痛ニ緊用スルノ手段ヲハ。賤弃シテ取ラサルナリ。○其内服ノ劑ヲ

鯨脳

醫

ノ如キハ。宜ク第四十四章ニ載ルノ方ヲ用ヘシ。

○然レ𪜈若シ凝滞ニ造テ之ヲ長服ニ供セント要セハ。左ノ方ヲ用ヘシ。

方

白鑞票舎利別　十六銭

龍涎香

乳香　各五分

橙皮油　三滴

右件藥合シテ調勻シ。卵様小匙ヲ用テ。毎ニ一匙ヲ服スルコト。日ニ蒲剛カ某秤ニ數次。卵様小匙。容盛スルコト八分ヲ以テ準トス。

右ニ列スル所ノ諸種ノ外。更ニ第百四十七章ニ論スル許多ノ胸脇痛ニ至テハ。其診察療法。彼ニ援引スル如ク。各種ノ諸因有テ發スルカ故ニ。各自其本原ニ溯テ。斯ヲ従事スルコト。亦猶右ニ列擧シテ説與スルカゴトクスベキナリ。

右第百五十一章。冒寒傷冷毒ニ因ルヲ論ス。

胸脇痛ノ証治

肺痛篇第二十四

羅甸ニ稱スル所ノ百里布匿烏謨泥亞。從來肺ノ翁篤私底金倔シ以テ之ニ充テ来レリ。肺ノ翁篤私底金倔ハ。此ノ百里布匿烏謨泥亞ノ中ニ附属シタル一証ノ名稱ノミニシテ。衆証ヲ包括シテ允當ナルニ非ス。能ク之ニ允當スルノ病名ヲ求レハ。曾テ之ヲ定メタル者有コトナシ。而シテ今呼フ所ノ肺痛ノ名タル。前篇ノ胸脇痛ニ次テ。百里布匿烏謨泥亞ノ諸証ヲ該存スルコト有テ。以テ之ヲ對譯スルニ足レリ。是ヲ以テ余爰ニ改テ之ニ肺痛ト名ケルニ右ノ名ヲ以テスルヤ。亜垤兒蘭陀ノ著述

家ニ於テ。豪モ踏襲スル所アルニ非ルノミ。○此証ニ於テハ逃(カナラ)不過(ズ・カレニ)ス間歇ナク替留セル有モノナリ。是ヲ以テ弁別ノ緊要トス。何トナレハ。則チ下篇ニ論スル所ノ喘急病ニ係ルナリ。○然ルカ故ニ。是ノ肺痛ヲ診シ知ル所以ノ者ハ。必其間歇ナリ替留セル壮熱ヲ以テ。且ツ其脈大抵濡軟ニシテ數。胸脇痛ノ脈ヨリ弱ナルヲ以テ之ヲ別ツナリ。此其肺ニ患害アルカ故ニ。肺平全ノ時ノ如ク心血ヲ十分ニ受テ鼓蓄シ出スコト能ハサルヲ以テ。動脈ノ大経。隨テ血ヲ稟ルコト滿盈ナラスシテ乏少ナルカ為ニ。脈ヲシテ剛實ナラシムルコト能ハスシテ。是ノ弱脈等ヲ現スルナリ。○其候胸中大ニ熱シ。懊悩スルコト為シ。其呼吸スルコト。頻促ニシテ短乏。十ニ分ニ胸膈ニ届リ達セズシテ。僅ニ止ム胸ノ上邊ニ過ザルカ如シ。且患人臥スコト能ハズシテ強テ倚坐シ。胸中氣息ヲ為スノ筋ヲシテ。礙過スル所ナカラシメンコトヲ冀望シテ。意ヲ以テ營求シ。或ハ宜ニ隨テ大息スルコト有リ。或ハ便ヲ擇テ息セサル者ニ似タルコト有リ。疾徐緩急唯其ノ絶窒塞ナカラシムルコトヲ務トシ。只コレニ賴テ以テ方ニ瀕ニ耐忍スル等ノ証ヲ發ス。此其肺

病テ常ノ如ク十分ニ氣ヲ容納スルヿ能サルガ
致ス所ノモノ。○但其痛ミ大抵幸ニ少キ者ナリ。然
ドモ其懊惱ニ至テハ甚タ大ナリトス。此其肺ニ痛
痒ヲ知覺スルノ神經有ラサルカ故ナリ。此事第
六十八章ニ於テモ之ヲ論セリ。併考フヘシ。○然
レドモ其患害淫レテ胸及ヒ縱膈膜ニ及ブカ。或ハ
胸肋ノ膜ニ蒙被スルトキハ。則是ノ記ト雖モ。亦
痛アルヿヲ致スナリ。其時ニ方テハ。脊骨ト胸骨
トノ彼此互ニ相ヒ旁午聯絡シテ組合タル者ナル
カ故ニ。亦共ニ相ヒ牽牽シテ。寧急拘痛ヲ發スル
ナリ。此其彼此ニ繫屬スル所ノ筋膜等ノ痛ニシ

肺痛ノ

テ。直ニ肺ノ痛ニハアラズ。而シテ共ニ肩胛ノ骨
下ニ於テモ。亦能ク痛ヲ覺ルヿヲ為スモノナリ。

右第百五十二章。大較ヲ論ス。

諸病ノ熟ヲ誘スルモノ。共ニ能ク肺痛ヲ發スル
ヿヲ為ス。即チ翁篤私庇金倨羅斯及ヒ熟病ノ如
キ。常ニ多ク發スル所ノ處肺ニ於テ。或ハ其毒浸
淫シテ下流スルモノナリ。又第二十五章ニ論ス
ル熟壞液。皆能ク其病原ト為リ。肺ニ在テハ此ノ
肺痛ヲ發シ。肋膜ニ陷テハ則チ彼ノ脅肋痛ヲ生
スルナリ。○右ノ如ク肺痛ヲ發スル病原ト。胸脇
痛ヲ發スル内因ト。其物相通シテ一ナリト雖モ。

殊ニ

其異ナル

然レ肺ハ痛痒ノ知覚スルコト至テ少ク。或ハ全ク是アルコト無キガ為ト。諸藏ニ勝レテ最モ異ナル第一ノ營為ノ主ル機器ニシテ。夫レ人身ノ頼テ以テ存スル所ノ。全体大運ノ一元動ノ外ニ。別ニ特リ肺ノ自ラ異政ノ運動ヲ專ニスルコト有カ為ト。其両箇ノ血道氣管。所謂肺系肺管ナル者アルガ為ト。肺系ハ。心ノ左方ニ通ス。心ノ右方ノ血ヲ受テ之ヲ送リ。以テ鼓橐シテ。出テ周身ヲ循行榮養セシメ。肺管ハ。岐ル所ノ極機ナリ。以テ肺ニ入リ。分レテ多枝ヲ為シ。以テ外氣ヲ容レ。呼吸ヲ為ス所ナリ。詳胞ニ解體ノ諸圖ニ見タリ。

未タ嘗テ有サル所ノ殊異ナル諸証ヲ發スルコト有テ。此肺痛ニ異リ存スレハ。肺胸脇部ノ發患原ヲ同シ地ヲ接シ。互ニ相ヒ浸淫連及スト雖モ。其証候相混スルコト無ノミ。

肺痛ノ因

右第百五十三章病原ヲ論ス。

今陳スル所ノ如ク。其援引スルニ肺ノ官能運營ヲ為ス候ヲ以テ之ニ副スルニ肺ノ官能運營ヲ為スコト平常ニ変異ナルノ徴ヲ以テスルカ故ニ。是ニ由テ以テ其肺痛ヲ発スノ諸種何レノ病ヨリシテ由来スト云コトヲ分別スルナリ。○大抵肺痛ノ証タル。痰アルコト胸脇痛ニ比スレハ多シトス。此其肺管ニハ天資固有ノ粘滑液多ク妥ニ賦與シ

アルガ故ナリ。是ヲ以テ若シ苛辣酷屬ナル外物ヲ
斯ニ侵襲刺戟スルトキハ。輒チ應シテ粘滑液之
ガ為ニ湧發派溢シテ其部ニ瘽盛スルナリ。然ル
ニ若シ之ヲ吐除セサルハ。必ス肺管ノ中ニ沉滞シ。委
積鬱聚スルニ因テ。患人尋テ將ニ氣息ノ通利ヲ
閉塞スルコト有ントス。〇其咳嗽スルコト大ニ甚シ
シテ且ツ極テ苦惱ナリ。然モ苛痛少シ。此其言ヲ
聞テモ。亦以テ領解スルコトヲ為シ易シ。〇其面部
眼目腫脹シテ赤キコト。胸脇痛ノ証ニ比スルニ更
ニ多シトス。〇此ノ肺痛家。毎ニ多ク譫語錯亂シ
テ言語譫妄ノ証ヲ發シ。又善ク胸内癰及ヒ瘍瘰

ニ変スル者ナリ。胸内癰ハ。注ニ出ツ。肺痛治シテノ後ニ
至テモ。亦右ノ証ヲ發スルコトアリ。此其肺ノ多ハ
皆肋膜ニ相切着シテ間アラサルガ為ニ。病勢滋
益増盛シテ。遂ニ施テ災肋膜ニ在テ。肺ヲシテ縦ニ舒張シテ以テ呼吸
ヲ為スコト能ハサラシムルヲ以テ。従テ而シテ氣
息ヲ障害シテ促迫ナラシム。此皆肺ニ附屬スル
ノ部分ナルカ故ニ。其患害ノ餘波。終ニ茲ニ及フ
ノ致ス所ノミ。

右第百五十四章。餘義ヲ申明ス。

夫レ肺痛ノ發スル所。其原熟病ニ出ル者ハ。熟病

ノ常証アリ。羅斯ニ出ル者ハ羅斯ノ常証アリ。翁篤私底金倔及ヒ熟壊液亦皆斯ノ如シ。既ニ其各証ノ発ヲ見テ。其淵源スル所ヲ知リ。又其挾有シテ肺ノ自己ノ部位ニ官能主動トニ変異ヲ現スルアリ有ニ據テ。以テ其原流標本ヲ明ニシ。甲ハ熱病ニ発スル肺痛タリ。乙ハ羅斯ニ出ル肺痛タリト云フヲ辨識セハ。須ク第百三十三章咳嗽ノ篇。十ラヒニ第百四十七章胸脇痛ノ篇ニ具載スル所ノ。其原由ヲ治スルノ法方ニ就テ。各種ノ療術ヲ施スヘキナリ。○今茲ニ於テ特ニ標識スル所ノ者アリ。右ノ治法中ニ施シ設ル所ノ。胸上ニ外貼スルノ薬。是ナリ。是ノ方。此肺痛ノ証ニ於テハ。殊効アルヿ少シ。只是レ吾輩ノ用テ多ノ験ヲ実ニスルノ劑ハ。薬氣ヲシテ。氣息ニ混同シテ入ラシムルノ方ナリ。下ノ第百五十七章ニ出ツ。考フヘシ。

右第百五十五章。治法ヲ論ス。

肺痛ノ

喘急篇第二十五

喘息氣急ノ病。羅甸ニ之ヲ亞斯怛末ト謂フ。其病タル。肺痛ト甚タ相混同ス。此其共ニ呼吸不利ノ証ヲ發スルヲ以テ。然レ肺痛ニハ逃不過必ス熱有テ是ニ副ス。而レテ此病ニ於テハ。終始是アルヿ無シ異ナリト。然レ。〇其中大ニ身體ノ運動スルヿアルカ。又ハ發熱ニ因テ血ノ循行ヲシテ強急ナラシムルノ類ノ如キ。廼チ勢ノ必スル所。氣息喘急ニ至ラサルヿヲ得ズ。是等ノ如キハ。皆等シク得テ喘急ノ病トハ為ザルナリ。〇既ニ然ノ諸般ノ氣息ニ蹇難ナルヿヲ為スノ諸

喘急ノ

証ヲ以テ。此ノ喘急ノ病ト為スニアラズシテ。只是レ本篇主トシテ論載スル所ノ者ハ。定テ一種ナレハ。復其総テ氣息ニ蹇難ナルノ証ヲ將来ル諸因ノ。皆此門ニ屬シ来ルヿヲ為サルヿナリ。特其此病ニノミ傍テ發スル諸徴候ノ。最モ較著ナル者ヲ擧テ。之ヲ示サントス。

右第百五十六章ノ大較ヲ論ス。

夫レ平人ニ於テハ。恒ニ肺管ノ中ニ。許多ノ津液有テ。斯ニ賦在シ斯ニ多利シテ。間斷セサル者十リ。此何ノ為ニシテ然ルトヿニ。肺管ハ是レ氣ヲ吐納スルノ要路ニシテ。善ク乾燥スルガ故ニ

為ニ其浸潤灌漑ヲ主テ延チ爾リ。試ニ見ヨ人其口ヲ哆開シテ呼吸スレハ。唇間ニシテ莖舌喉龕必ス為ニ乾燥ス。以テ知ルベキナリ。然シテ其津液。平人ニ於テハ。諸竅常ニ其霑ニ在テ。必ス吐出スル所アル者ハ。殆ト希ナリ。見ツベシ此其疾故アルノ際ニ非ルヨリハ。其分利スル所ノ機。灌漑用ニ適シテ。溢レズ竭キズ。故ニ送リ新ヲ迎テ。鬱陳スル所ナリ。旋生スレハ旋化シ。他ノ諸液ト相和シ。旁通普輸シテ。濡滞スルコト有サルノ徴ナルコト。夫レ此ノ如クナラハ。筭ソ凝粘ト壅盛トニ暇アランヤ。〇然ル夫ノ冒寒傷冷ノ人及ヒ高年ノ輩ノ如キニ至テハ。則チ是ニ異ナリ。必ス濁唾粘痰ノ其處ニ壅盛スルノ患アルナリ。此其一ハ痛邪ニ因リ。一ハ衰弱ニ因リ。共ニ肺ニシテ其官能ヲ障シ若クハ失ハシムルカ為ニ。復タ平常ノ如ク新故相推シテ欝陳スル所ナキコト能ハス。是ニ於テ愈鬱陳シテ愈粘濁シ。又旋生シテ旋化シ旁通滞ナキコト能ハス。是ヲ以テ隨テ壅盛ス。高年ノ輩。恒ニ是記多キ所以ノ者ハ。職トシテ是ニ由ルナリ。既ニ斯ノ如クナルトキハ。漸々ニ滋益スルニ論ナシ。延テ肺管中ニ充溢シテ。其小胞ニ及ヒ。遂ニ氣

シ容納スルニ地ナカラ使ルニ至ルナリ。此端ノ由テ起ル所以ナリ。茲ニ至テ救フニ多ク寒涼及ヒ濡濕ノ氣シメス。○右ノ津液ノ。爰ニ分利シテ化通セサル。其生機シ失ヒ。其循環ノ活運シ離テ。獨立廢滯スルカ故ニ。終ニ變壞腐敗ニ至ルナリ。○延テ其肺管中ニ充溢シテ變壞シ。膿頭ノ內膜ニ届リ逼ルトキハ。其侵刺襲戟スルニ因テ更ニ咳嗽有テ之ニ副シ。患人多ク痰シ吐キ除クコアレハ。少ク安キコトヲ覺フル者ナリ。即チ是ノ証シ名テ濕喘ト曰フ。羅甸ノ亞斯怛未蒲密獨謨是ナリ。○是ハ証其痰シ吐泄スレハ多ハ甘キ軽キニ至ルカ故ニ。治法一ニ皆緊シテ只其痰飲シ吐泄セシムルシ主トシテ斯ニ従事シ。砂糖蜂蜜甘草及ヒ諸般ノ含利別シ。用テ與ヘ服セシムル者ナリ。殊ニ思ハス連ニ痰シ治スルコシ務ムトキハ。雖モ終ニ窮止ノ時アルコ無キコシ。此其間斷ナク吐スルノ津液。又代テ茲ニ來リ集ルカ故ニ。其原シ滌除セスシテ。徒ニ其支派ノミシ事トシテハ勞シテ功ナキナリ。帝ニ功ナキノミニ非ス。又好テ其病原シ增スナリ。何トナレハ。其藥。肺ノ津液粘稠スル者ヲシテ。稀清ナラシムルノ官能シ阻廢シテ。之ヲシテ重テ益〻衰弱ニ至ラシムル

カ為ナリ。○右ノ見ニテ之ヲ治スルカ故ニ。瞳日
彌久ニ無益ノ治ヲ事トシテ。即チ石長生蜀葵蘂
花地丁罌子粟麗春花等ノ舍利別。石長生ノ舍利別ハ主治ニ。稠粘
乳汁ヲ心意欝悶ニ。痰ヲ利シ。元氣ヲ益シ。粘液ヲ為シ清潤ニ。腸
胃ノ塵垢ヲ除キ。結毒ヲ解シ。花砂ヲ破テ。石淋ヲ通シ。腰脚ノ痛
痺ヲ治シ。血ヲ行メ。血痛ヲ催シ。血ヲ吐テ定ラサル。血崩ヲ止メ。血
ノ凝塊ヲ消シ。産後ノ悪血ヲ下シ。胎ヲ墮シ。子ヲ産シ易ク。血暈
血厥ヲ治シ。血ヲ生シ。血ヲ補シ。血ヲ和シ。血ヲ調ヘ。血ヲ潤シ。血ヲ
養ヒ。血ヲ活シ。血ヲ破リ。血ヲ散シ。血ヲ通シ。血ヲ流シ。血ヲ順シ。血
ヲ止メ。血ヲ収メ。血ヲ固メ。血ヲ凉シ。血ヲ降シ。血ヲ平ラカニシ。血
ヲ和ラケ。血ヲ潤ホシ。血ヲ養ヒ。血ヲ補ヒ。血ヲ生シ。血ヲ増シ。血
ヲ充シ。血ヲ満シ。血ヲ盛ニシ。血ヲ強クシ。血ヲ壮ニシ。血ヲ健ニシ。
血ヲ安シ。血ヲ定メ。血ヲ鎮シ。血ヲ静シ。血ヲ和シ。血ヲ調ヘ。血ヲ
順シ。血ヲ通シ。血ヲ流シ。血ヲ散シ。血ヲ破リ。血ヲ活シ。血ヲ養ヒ。
血ヲ補ヒ。血ヲ生シ。血ヲ増シ。血ヲ充シ。血ヲ満シ。血ヲ盛ニシ。血
ヲ強クシ。血ヲ壮ニシ。血ヲ健ニシ。血ヲ安シ。血ヲ定メ。血ヲ鎮シ。
血ヲ静シ。血ヲ和シ。血ヲ調ヘ。血ヲ順シ。血ヲ通シ。血ヲ流シ。血ヲ
散シ。血ヲ破リ。血ヲ活シ。血ヲ養ヒ。血ヲ補ヒ。血ヲ生シ。血ヲ増シ。
血ヲ充シ。血ヲ満シ。血ヲ盛ニシ。血ヲ強クシ。血ヲ壮ニシ。血ヲ健ニ
シ。血ヲ安シ。血ヲ定メ。血ヲ鎮シ。血ヲ静シ。血ヲ和シ。血ヲ調ヘ。
血ヲ順シ。血ヲ通シ。血ヲ流シ。血ヲ散シ。血ヲ破リ。血ヲ活シ。血ヲ
養ヒ。血ヲ補ヒ。血ヲ生シ。血ヲ増シ。血ヲ充シ。血ヲ満シ。血ヲ盛ニ
シ。血ヲ強クシ。血ヲ壮ニシ。血ヲ健ニシ。血ヲ安シ。血ヲ定メ。血ヲ
鎮シ。血ヲ静シ。血ヲ和シ。血ヲ調ヘ。血ヲ順シ。血ヲ通シ。血ヲ流シ。
血ヲ散シ。血ヲ破リ。血ヲ活シ。血ヲ養ヒ。血ヲ補ヒ。血ヲ生シ。血ヲ
増シ。血ヲ充シ。血ヲ満シ。血ヲ盛ニシ。血ヲ強クシ。血ヲ壮ニシ。血
ヲ健ニシ。血ヲ安シ。血ヲ定メ。血ヲ鎮シ。血ヲ静シ。血ヲ和シ。血ヲ
調ヘ。血ヲ順シ。血ヲ通シ。血ヲ流シ。血ヲ散シ。血ヲ破リ。血ヲ活シ。
血ヲ養ヒ。血ヲ補ヒ。血ヲ生シ。血ヲ増シ。血ヲ充シ。血ヲ満シ。血ヲ
盛ニシ。血ヲ強クシ。血ヲ壮ニシ。血ヲ健ニシ。血ヲ安シ。血ヲ定メ。
血ヲ鎮シ。血ヲ静シ。血ヲ和シ。血ヲ調ヘ。血ヲ順シ。血ヲ通シ。血ヲ
流シ。血ヲ散シ。血ヲ破リ。血ヲ活シ。血ヲ養ヒ。血ヲ補ヒ。血ヲ生シ。
血ヲ増シ。血ヲ充シ。血ヲ満シ。血ヲ盛ニシ。血ヲ強クシ。血ヲ壮ニシ。
血ヲ健ニシ。血ヲ安シ。血ヲ定メ。血ヲ鎮シ。血ヲ静シ。血ヲ和シ。血
ヲ調ヘ。血ヲ順シ。血ヲ通シ。血ヲ流シ。血ヲ散シ。血ヲ破リ。血ヲ活
シ。血ヲ養ヒ。血ヲ補ヒ。血ヲ生シ。血ヲ増シ。血ヲ充シ。血ヲ満シ。
血ヲ盛ニシ。血ヲ強クシ。血ヲ壮ニシ。血ヲ健ニシ。血ヲ安シ。血ヲ定
メ。血ヲ鎮シ。血ヲ静シ。血ヲ和シ。血ヲ調ヘ。血ヲ順シ。血ヲ通シ。
血ヲ流シ。血ヲ散シ。血ヲ破リ。血ヲ活シ。血ヲ養ヒ。血ヲ補ヒ。血ヲ
生シ。血ヲ増シ。血ヲ充シ。血ヲ満シ。血ヲ盛ニシ。血ヲ強クシ。血ヲ
壮ニシ。血ヲ健ニシ。血ヲ安シ。血ヲ定メ。血ヲ鎮シ。血ヲ静シ。血ヲ
和シ。血ヲ調ヘ。血ヲ順シ。血ヲ通シ。血ヲ流シ。血ヲ散シ。血ヲ破リ。
血ヲ活シ。血ヲ養ヒ。血ヲ補ヒ。血ヲ生シ。血ヲ増シ。血ヲ充シ。血ヲ
満シ。血ヲ盛ニシ。血ヲ強クシ。血ヲ壮ニシ。血ヲ健ニシ。血ヲ安シ。
血ヲ定メ。血ヲ鎮シ。血ヲ静シ。血ヲ和シ。血ヲ調ヘ。血ヲ順シ。血ヲ
通シ。血ヲ流シ。血ヲ散シ。血ヲ破リ。血ヲ活シ。血ヲ養ヒ。血ヲ補ヒ。
血ヲ生シ。血ヲ増シ。血ヲ充シ。血ヲ満シ。血ヲ盛ニシ。血ヲ強クシ。
血ヲ壮ニシ。血ヲ健ニシ。血ヲ安シ。血ヲ定メ。血ヲ鎮シ。血ヲ静シ。
血ヲ和シ。血ヲ調ヘ。血ヲ順シ。血ヲ通シ。血ヲ流シ。血ヲ散シ。血ヲ
破リ。血ヲ活シ。血ヲ養ヒ。血ヲ補ヒ。血ヲ生シ。血ヲ増シ。血ヲ充シ。
血ヲ満シ。血ヲ盛ニシ。血ヲ強クシ。血ヲ壮ニシ。血ヲ健ニシ。血ヲ安
シ。血ヲ定メ。血ヲ鎮シ。血ヲ静シ。血ヲ和シ。血ヲ調ヘ。血ヲ順シ。
血ヲ通シ。血ヲ流シ。血ヲ散シ。血ヲ破リ。血ヲ活シ。血ヲ養ヒ。血ヲ
補ヒ。血ヲ生シ。血ヲ増シ。血ヲ充シ。血ヲ満シ。血ヲ盛ニシ。血ヲ強
クシ。血ヲ壮ニシ。血ヲ健ニシ。血ヲ安シ。血ヲ定メ。血ヲ鎮シ。血ヲ
静シ。血ヲ和シ。血ヲ調ヘ。血ヲ順シ。血ヲ通シ。血ヲ流シ。血ヲ散シ。
血ヲ破リ。血ヲ活シ。血ヲ養ヒ。血ヲ補ヒ。血ヲ生シ。血ヲ増シ。血ヲ

通ノ機舊ニ復シ。壅盛ノ災復タ新ニ發スルコト無キヲ（フシ）ヲ。此ノ法高年ノ人ニ施シテ。甚タ相應ズルコトヲ得テ。最モ極テ良ナリトス。〇是ヲ以テ右ノ証ヲ療スルニハ。予必ズ後方ヲ用テ之ヲ主ル。

壯肺利胷丸方

安謨泥亞吉脂（アンモニヤキ）　二錢
桉尔撒謨孛露（バルサモペロ）非亞泥（ヒヤ）　各五分
蘇合香　適宜
橙皮末　適宜

右件藥合シテ毎一錢十五丸ト為シ。半時毎ニ葡萄酒ヲ用テ一丸ヲ送下ス。〇又予茲ニ最モ勝タル良方ヲ得タリ。其方乳香一味ヲ取テ。諸ヲ熾炭ノ上ニ尚ヘ。煙氣ヲシテ盛ニ擧セシメ。就テ之ヲ吸入ス。〇若シ其痰粘稠スルノ已甚ナルヲ發泄スルニハ。予上ノ熏法ヲ除テ。右ノ九子ノ中ニ酒石鹽少許ヲ加フルヲ可トス。

喘息ノ証治ヲ論ス。

右第百五十七章。肺管ノ粘痰ニ因ルヲ論ス。若シ乃チ寒液水飲ノ肺管ニ鬱滯スルヲ容納シ來ルノ道路ニ横塞スルヲ以テ。夫ヨリ終ニ其寒液水飲。肺藏ノ四竟ニ汎濫シ。苟モ之ヲ附屬スル所ノ處皆浸淫シテ其中ニ滯著スルヲ為シ。肺管ノ外若クハ胸中ノ空隙。或ハ肺ノ機

里尔ノ中ニ充塞スルトキハ肺管其外面ヨリ彼ニ抑壓逼挾セラレ其舒張ノ逞クスルニ地ナキニ至ルナリ○斯ノ如キニ及テハ復其飲ノ發泄スルコトナレ患人胸中重難ニシテ苦滿シ熱アルコトナレ卧スコト能ハズシテ強テ坐シテ倚息シ或ハ咳嗽スルコトアリ或ハ咳嗽スルコトナレ此其水飲ノ性ノ和柔ナルト悍厲ナルトニ由テ異ナリ。患人寒濕ノ氣並ニ陰霧雰瘴ノ候ニ耐ルコト能ハスシテ寒氣ニ犯サレ之ヲ犯レテ寒由テシテ頑凝シ致シ呼吸シテ窒塞セシメンコトヲ慮圖スベキガ如キニ至ル○其病ヲ為ス所ノ液人ノ見ルコト能ハザル所ナルヲ以テ為ニ其証候ヲ記シテ之ヲ知ラシムルヲ以テ本ト之ヲ療スベキナリ○此証附シテ顔面頸項及ヒ胷腹腫脹シテ赤白黯蒼ノ色ヲ見シ又ハ全身ニ彌テ寒液ヨリ發スル腫脹ノ諸候アリテ病勢緩慢ニシテ速ニ甚キニ至ラス荏苒トシテ能ク久キニ彌ル者ナリ然ト稍々ニ増多シテ遂ニ夫ノ思欲シ待ノ運動シ以テ之ヲ營救スルニ非ルヨリハ呼吸シテ窒塞セザラシムルコト能ハサルニ至ル是ニ於テ必ス寢臥スルコト能ハス晩夕未タ嘗テ睫シ交ルコシ得ス若シ睡ルコア

ラハ。其睡ルニ乗シテ氣道ノ窒塞シ致スコト有ン
コト恐ル、カ為ナリ。○此ノ証ニ臨テ常トシテ
只救ヒ誘窄劑ニ求ル者ナリ。然ルニ之ヲ與ルコト勿
レ。若シ其証ヲ辨セス。唉ニ堅シテ之ヲ與ヘ服セ
シムルトキハ。則チ終ニ死地ニ輸スト知ヘシ。誘
劑與ベキノ証。及ヒ與ベカラザルノ証。自ラ多ク別
アリ。第九十二章第百五十二章第百五十九章ヲ
觀シテ自ラ明カナリ。○予其良法ヲ得ルコトアリ。即チ次ニ著
ス所ノ方ニ因テ其大便ノ通利シ。シテ程ヨク達
泄セシメ置ク。是ナリ。何トナレハ。其シテ多ク
下利セシムルノ。徒ニ懊惱苦煩ヲ益スノミニシ
テ。胸膈ノ水液其大便ノ瀉利ニ道スルノ得テ尽
ク滌除スルコト為シ難クシテ。然ノ只是小便ヨ
リ以テ能ク滲利スヘキカ為ナリ。漢医ノ数逆倚
臥スコト得ズ。其形腫ルカ如キ。息。氣短ニシテ
ブトシヒ。支飲モ亦喘ヲ支飲ト謂ヒ。
短氣ニシテ微飲アラハ。当ニ小便ヨ
リ去ルヘシトシカ如キ。即是証ナリ。

潤腸利膈丸方

安謨泥亞吉脂		二錢
乳香		
蘇甘謨扭母	各五分	
蒔蘿油	六滴	

西洋ニ渡食子ヲ以テ之ニ代用ス

右件藥合シテ毎一錢二十九ト為シ。毎ニ二丸
ヲ服スルコト日ニ數次。大便順利シテ常ト為ル

喘急ノ

シ以テ期トス。

另外ニ又宜ク其証ヲ審ニシテ。其液ヲ清滌シ。之ヲ小便ヨリ疏利スヘシ。後方之ヲ主ル。

導水利膈散方

琥珀　各一銭五分
蜥蜴石　五分
酒石鹽　六滴
蒔蘿油

右件藥合シテ散剤ト為シ。之ヲ十分シテ。其一分ヲ服スルコト日ニ三次。

右第百五十八章ノ寒液水飲ノ肺若クハ胸膈ノ空間ニ充塞スルニ因ル。ノ証治ヲ論ス。

夫レ心血ヲシテ肺ニ朝宗シテ。以テ通身遍體ニ周流セシムルコト及ヒ呼吸吐納ヲ為シテ。順調ニシテ障遏ノ患ナキ所以ノ者ハ。啻ニ心藏ノ力ト。胸ナラビニ総膈膜ノ細筋纖條ノ運動トノ得テ觝スル所ニアラス。肺自ラ其細筋纖條ノ運動ヲ具テ以テ氣息ヲ為シ。以テ心血ヲ鼓蕩シテ。其ヲシテ周流セシムルコトヲ致スノミ。〇若シ肺ノ異政ノ運動衰弱スルトキハ。則チ其氣息ノ吐納ト心血ノ循環トニ於テ。啻滞不利ノ患アルコトヲ致スナリ。夫レ斯ノ如クナルトキハ。其人必ス耐忍

スベカラザル懊悩苦煩ニ罹ル者ナリ。説ハ第六十九章ニ在リ。勉強シテ其呼吸シテ僅ニ窒塞セザラシムルニ謂ユル思欲ニ從フ運動シ以テ自ラ救フノミ。〇然ルトキハ大甚ニシテ歇止スルコトナキ喘急ノ發シ少モ痛ミ覺ルコト有ラントシ。之ヲ譬ルニ。外表ニシテ見ルベキ四支ノ運用癈廢不仁シタルガ其痛痒ヲ知サルガ如シ。〇右ノ証若シ高年ノ輩ニ發シ未リタルニ於テハ。治ニ於テ期望スル所寡シトス。然モ只其霊弱ノ人ニ發シ來ルシハ。其霊弱ヲ治スル藥方ノ外。亦兼テ第百五十七章粘痰ノ治ニ於テ記載スル所ノ方ヲ用ヒ。及ヒ胸部ニ外貼スルノ諸劑ヲ施スヘキナリ。（第百五十一章ニ見タリ。ノ記治）

右第百五十九章。肺ノ。衰弱ニ因ルヲ論ス。

肺ノ藏タル。彼ガ自己ノ運動有テ。他ノ運動ト毫モ交渉スルコトナク。政ヲ異ニシテ獨立ス。故ニ其細筋纖條ト雖モ。亦隨テ獨立孤行ノ（カン）局部（プ）布的（テ）列（ツ）金倔（即チ拘攣急。第百十三章ニ詳ナリ）有テ。時ニ其記ヲ發ス。亦能ク以テ自ラ其肺ノ運營ヲ障礙スルニ足レリ。是ニ由テ以テ暴喘ヲ發スルコトアリ。其記少モ痙飲ヲ吐スルコトナク。其作止甚タ暴卒ナリ。故ニ患人モ亦自ラ其作止ノ條忽タルヲ異トセ

ヒ。以為ク是レ肺中ニ粘痰有テ窒塞セルガ似頃ニシテ開達ス。故ニ其解散スルニ齊ク頃刻ニシテ差復ヒ。脱然トシテ故ノ如ク。氣息ニ障碍アルコト無キコトヲ得タリト。○此証ニ於テハ。二般ノ治法ヲ用テ要トス。其一ハ是レ其發スル所ヲ靜止スルコトノミ務トシ。其二ハ是レ其後ヲ承テ再ヒ發スルヲ障遏スルコトヲ為スナリ。○其標ノ發患ヲ治スルニハ。次ニ記スル所ノ方ヲ用ヒ。ヒ。甚良ナリ。

方

蒔蘿水。四十錢

急製砲砂精

琥珀　各一錢

白蠟栗舎利別　八錢。

右件藥。合シテ調勻シ。小半時毎ニ一匙ヲ服ス。其証靜止シテ呼吸故ニ復スルヲ度トシテ止ム。○右ノ方ニテ若モ昌郎布的列金倔ヲ後解スルトキハ。復タ其痰飲ヲ發泄セシムルコトヲ嘗求スルコトヲ須サルナリ。○蒔蘿水若シ偶遭鉄スルニ値ハ。宜ク大麥水ヲ用テ。之ニ加ルニ蒔蘿油一滴ヨリ四滴ニ至ルニテシテスベシ。

余此証ノ刺絡ヲ施スニ因テ即時ニ舒快ヲ覚ヘ貼スルニ至ルヲ見ルヿアリ。又其人ニヨバ〳〵此証ヲ發スル毎ニ只刺絡ヲ施シテ瀉血スルニ頼テ常ニ治スルヿアルヲ見ルヿアリ。然ルニ余茲ニ考ル所有テ二ノ者皆其情ヲ得タリ。其發スル毎ニ刺絡ニ因テ治スル者ハ此其瀉血スルニ因テ却テ其屢發スルノ原ヲ資ルヿ十リ。是ヲ以テ斯ノ如キ者ハ其再發スルヿ漸々ニ暴卒ニ至ルヿ十リ。而ニテ瀉血ニ因テ軽安ニ至ル者モ。亦是レ其時ヲ経テ第百五十八章ニ論スル所ノ。粘痰ニ属スル端急病ニ陥ル者ナリ。此其肺ノ細筋纖條ニ備ル所ノ運動損傷スルニ因テナリ。〇是故ニ余則チ此証ニ臨ムノ時。急迫暫要ノ際ニ非ルヨリハ。瀉血ノ法ヲ用ルヿ極テコレ無シ。又其際ト雖モ。一次之ヲ施スニ過ズ。只其証ヲ詳察シテ神経ヲ強壮ニスルノ剤ヲ用テ之ヲ治スルノミ。

強神丸方

抜尓撒謨格淫霍　三銭
抜尓撒謨孛露非亜泥　熬令得宜　五分
蘇合香　一銭
安息香　升煉　各六分銭之一
琥珀鹽

右件藥合シテ毎一錢二十九ト為シ。一九ヲ服スルコト日ニ數次。

右第百六十章。島郎布的列金偪ニ因ル之論ス。

諸液ノ熟成セズシテ稀涼ナルト。又其遺之虛缺セルト。互ニ相ヒ乘スルトキハ。甚タ容易ニ諸経纖細ナル管中ヲ縱ニ旁通浸淫スルヿヲ得ル者ナリ。其通スルヿ藏府脉絡始成スル所ノ形質ニ就テ之ヲ言ニ。常ニ其施設麤大ナルノ所。又ハ其備豫周密ナラザルノ部ニ於シ。又其互ニ相ヒ結會スルヿ甚多キノ處ニ在リ。是ヲ以テ第十七章ニ載ル所ノ翁傑達安的意度ノ証。或ハ水液充盈セル身體ニ於テ。偶ホトシテ僅ニ一タビ非常ノ動作ヲ取ルヿ有レバ。早不早其呼吸急促不利ナルノ患ヲ發スル者ナリ。此証世ニ皆以テ喘急門ニ收ルヿヲ為セリ。〇如シ其外証ニ翁傑達安的意度或ハ體中ニ水液影多ナルノ徵有テ。患シテ患人除非食後若クハ強ク動作シテノ後。コノ喘急ヲ發スルニ値ハバ。須ク知ルヘシ這般ノ一種ハ。前ノ諸証ノ如ク利膈ノ劑ノ能ク治スル所ニ非ス。只胃ノ化熟ヲ扶ケ。或ハ翁傑達安的意度ヲ治シ。若クハ其水液ヲ清滌シテ之ヲ驅除スルノ

藥方ヲ用テ。斯ニ從事スヘキコトヲ。〇是故ニ此証ニ於ル。毎ニ多ク吐利及ヒ健胃ノ劑ヲ以テ之ヲ治スルニ。輒チ效ヲ奏スル。然ニ右ノ諸劑ニテ此証ノ治スルヲ見テ。自餘ノ諸証ニ臨テモ。亦此方ニ據テ之ヲ治セントコトヲ擬スベカラス。須ク其原由ヲ識別シテ。各自ノ療法ヲ施スベキナリ。

右第百六十一章ノ証治ヲ論ス

多キニ因ル。

凡ソ血ニ於テハ自己ニテ循環流行スルノ性力ヲ稟得(ウケエ)タルニアラス。只是レ體中ノ諸器及ヒ諸管ノ官能主功ニ依テ。推盪轉移セラレテ。乃チ循環流行シテ人身ヲ灌漑榮養スルコトヲ得ルナリ。若シ其血滋益シテ過多ニ至ルトキハ。則チ右ノ諸器諸管。其功力以テ之ニ應シテ速ニ分外ノ推盪轉移シテ。滿盈ヲ疏滌スルコト能ハス。〇若シ夫レ其災肺ニ及フコト。或ハ血ノ身體ニ充溢滿盈シテ茲ニ汎濫スルニ發スルカ。或ハ又更ニ強盛大甚ニシテ心肺ニ衝逆スルカ。此ニ一モ有レハ。應ニ知ベシ其肺。謂ユル思欲ニ隨フノ運動(上諸篇ニ見ル)ノ羽翼ヲ扶テ以テ尽ク其血ヲ導達シ。其シテ愈益充積シテ其氣息緊窄ヲ致スコト無ラシムルニ非レハ。自若トシテ舊ニ依テ存スルコト難ハ

ザルコト。○起居安逸ニシテ動作ニ習ハス居常ニ豪食大飲スルノ人。其諸部ノ血脈茲ニハ血脈タル者ヲ云。即チ漢人所ノ青脈青筋ナル者。是ヲ呼テ人ノ外表ニ見ル者ナリ。起脹賁腫シ。或ハ平日血衄若クハ便血等常トシテ漏泄スル所有ルガ。今ニシテ新ニ止絶シタルノ後ニ方テ此証ヲ得ルニ値ハ、須ク辨知スヘシ是レ血ノ過多ニ屬スルコト。斯ノ証ニ至テハ法當ニ刺絡スベシ。妙トス。其証速ニ差テ再ヒ施術スルコヲ須サル者ナリ。○然ルニ若シ其身體益熱シ。及ヒ其脈多ク鼓躍動築スルノ証ヲ見サハ。此其喘息氣急甚ニシテ妄行スルニ得タリ。此証ニ於ル宜ク先ツ仍テ瀉血ヲ行ヒ。從テ之ニ副スルニ第十二章ニ著ス所ノ清涼劑ヲ以テシテ之ヲ治スベシ。利胸諸方ノ主ル所ニ似タリト雖モ。然ルニ只其過度ノ騒擾妄行ヲ順調スベキノミ。

右第百六十二章。血ノ過溢妄行ニ因ル諸ノ証治ヲ論ス。

端急ノ

西說內科撰要卷十終